八尾市文化財調査報告53
平成17年度国庫補助事業

八尾市内遺跡平成17年度発掘調査報告書

2006年3月

八尾市教育委員会

八尾市内遺跡平成17年度発掘調査報告書　正誤表		
頁　行	誤	正
４頁　３行	第９図	第17図
15頁　11行	東西方向に走る	南北方向に伸びる
20頁第34図	（日）	①
20頁第34図	（月）	②
20頁第34図	出土遺物実測図	平・断面図
22頁	【第８図　図版10】	【第８図　図版９・10】
26頁２行	破片なの	破片などの
26頁25行	南北方向に伸びる	文字抹消
28頁31行	石室の奥壁	石室の側壁

はじめに

八尾市は、大阪府のほぼ中央部に位置し、生駒山地西麓から大阪平野東部にかけての範囲に市域を有しております。古くは、河内湖、河内潟に面し、旧大和川の支流となる多くの河川によって、肥沃な平野が形成されてきました。旧石器時代から連綿と遺跡が形成されており、全国的にも有数な遺跡の宝庫と呼べる地域であります。

本書は、当教育委員会が平成17年度に（財）八尾市文化財調査研究会に委託して実施した市内の周知の埋蔵文化財包蔵地における個人住宅等の建設に伴う発掘調査や民間の各種事業の開発工事等に伴う遺構確認調査の成果を収めております。本市においては、東郷遺跡を始めとして複数の大規模開発事業が計画され、事前の遺構確認調査においても弥生時代から中世を中心として遺跡・遺構の広がりを確認できる貴重な成果が得られました。

今後、市内の貴重な埋蔵文化財が、市民の方々をはじめとして、多くの人々に親しまれるとともに、保存・活用されていくことが文化財行政の重要な課題となっていくでしょう。本書が、その役割の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、今回の調査に際し、ご理解とご協力を賜りました関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成18年3月

八尾市教育委員会
教育長　　森　卓

例　言

1．本書は、平成17年度の国庫補助事業（市内遺跡発掘調査）として、大阪府八尾市で実施した発掘調査の報告書である。

2．これらの調査は、八尾市教育委員会が平成17年度に（財）八尾市文化財調査研究会へ委託して実施したものである。

3．本書には、平成17年度に実施した発掘調査及び遺構確認調査のうち、同年４月から12月までに実施した調査の結果を掲載している（掲載順序は遺跡名の五十音順となっている）。特に成果のあった調査については、その概要を掲載した。
また、平成16年度の１月から３月までに実施した調査についても掲載している。

4．調査した箇所については、巻頭に一括して位置図を掲載している。

5．本書の作成にあたっては、（財）八尾市文化財調査研究会の各調査担当者（高萩千秋・原田昌則・西村公助・坪田真一・岡田清一・樋口薫・荒川和哉）が執筆を行い、執筆分担は各報告の文末に記した。

6．本書に掲載している出土品及び図面は、埋蔵文化財の活用に資するため八尾市立埋蔵文化財調査センターにおいて保管している。

7．本書の編集は、八尾市教育委員会　生涯学習部文化財課が行った。

本 文 目 次

調査地位置図Ⅰ～XⅣ
平成16年度1～3月の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
（調査一覧表）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
1．東郷遺跡（2004－370）の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
平成17年度4～12月の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
1．跡部遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
　1－1．跡部遺跡（2005-363）の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
2．植松遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
　2－1．植松遺跡（2005-25）の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
3．大竹遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
4．恩智遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
　4－1．恩智遺跡（2005-38）の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
　4－2．恩智遺跡（2005-61）の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
　4－3．恩智遺跡（2005-254）の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
　4－4．恩智遺跡（2005-199）の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
　4－5．恩智遺跡（2005-200）の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
5．楽音寺遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
6．亀井遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
7．萱振遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
　7－1．萱振遺跡（2005-49）の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
8．木の本遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
9．久宝寺遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
10．久宝寺寺内町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
11．郡川遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
12．小阪合遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
　12－1．小阪合遺跡（2005-44）の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
13．佐堂遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
14．成法寺遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
15．田井中遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
16．高安古墳群・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
　16－1．高安古墳群（2004-211）の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
17．竹渕遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
18．東郷遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
　18－1．東郷遺跡（2005-221）の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
19．中田遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
　19－1．中田遺跡（2005-158）の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
　19－2．中田遺跡（2005-332）の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
20．東弓削遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
21．水越遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
　21－1．水越遺跡（2005-322）の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
22．美園遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
23．八尾寺内町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
　23－1．八尾寺内町（2005-273）の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
　23－2．八尾寺内町（2005-339）の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
24．八尾南遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
25．矢作遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
26．山本町北遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
27．弓削遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
　27－1．弓削遺跡（2005-185）の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41

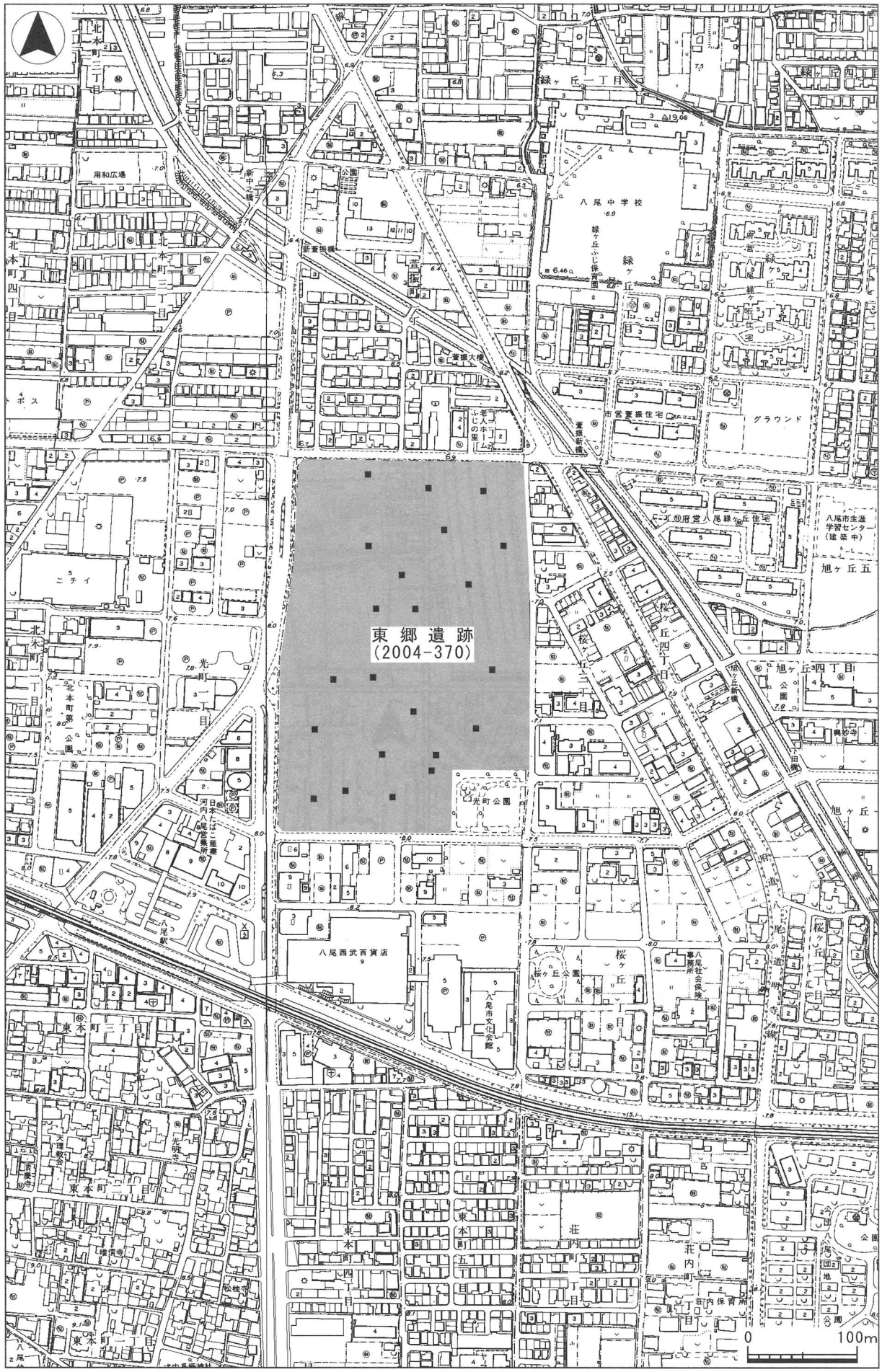
図 版 目 次

図版１　１．東郷 2004-370
図版２　１．東郷 2004-370
図版３　１．東郷 2004-370
図版４　１－１．跡部 2005-363
　　２－１．植松 2005-25
図版５　４－１．恩智 2005-38
図版６　４－２．恩智 2005-61
図版７　４－３．恩智 2005-254
図版８　４－４．恩智 2005-199
　　４－５．恩智 2005-200
図版９　７－１．萱振 2005-49
　　12－１．小阪合 2005-44
図版 10　12－１．小阪合 2005-44
図版 11　16－１．高安古墳群 2004-211
図版 12　16－１．高安古墳群 2004-211
図版 13　16－１．高安古墳群 2004-211
図版 14　16－１．高安古墳群 2004-211
図版 15　18－１．東郷 2005-221
　　19－１．中田 2005-158
図版 16　19－２．中田 2005-332
　　21－１．水越 2005-322
図版 17　23－１．八尾寺内町 2005-273
　　23－２．八尾寺内町 2005-339
図版 18　27－１．弓削 2005-185

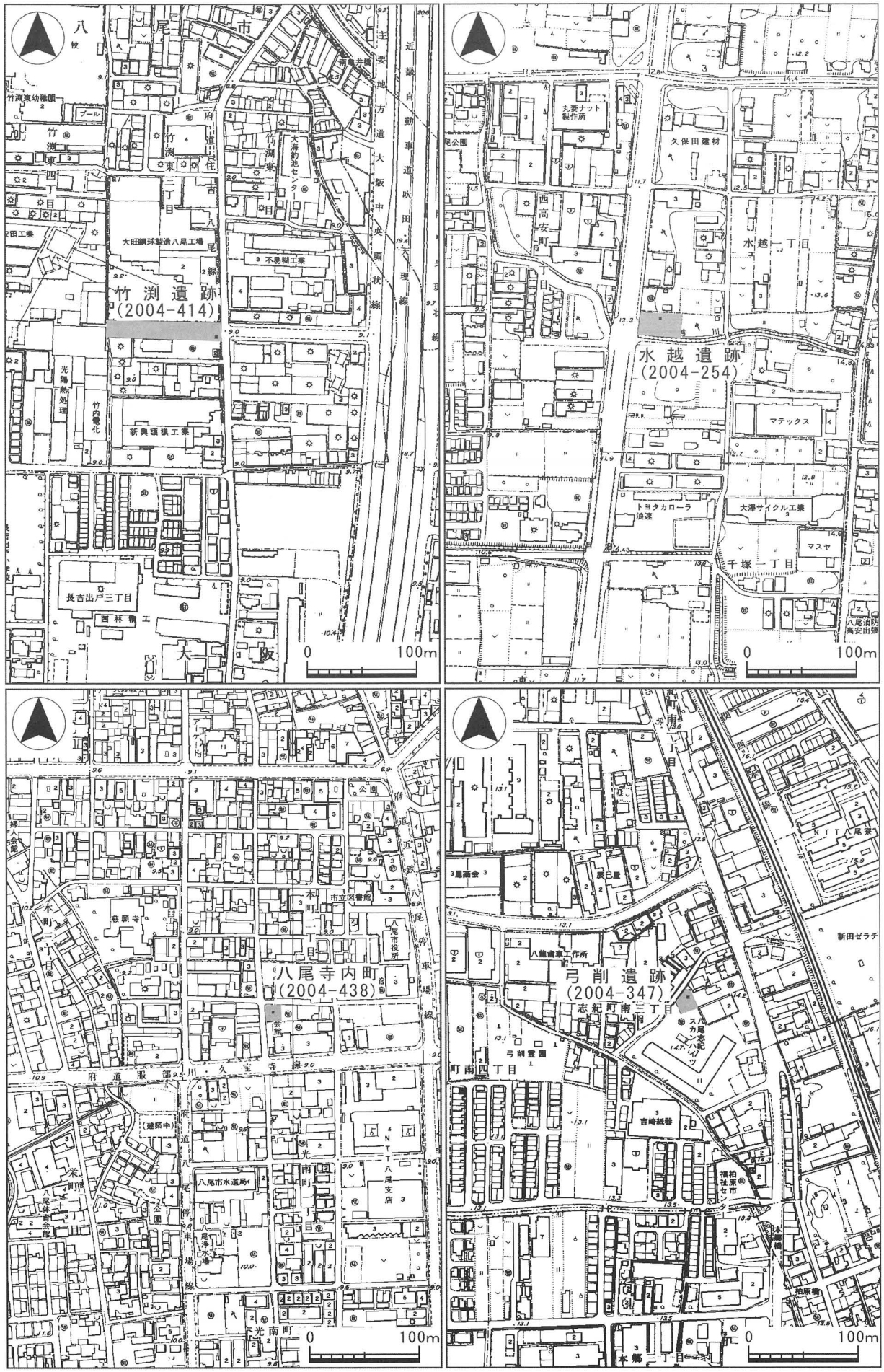
調査地位置図

（平成 16 年度１月～３月の調査：第１図～第３図）

第１図　調査地位置図Ⅰ（S＝1/5000）



第２図　調査地位置図Ⅱ（S＝1/5000）

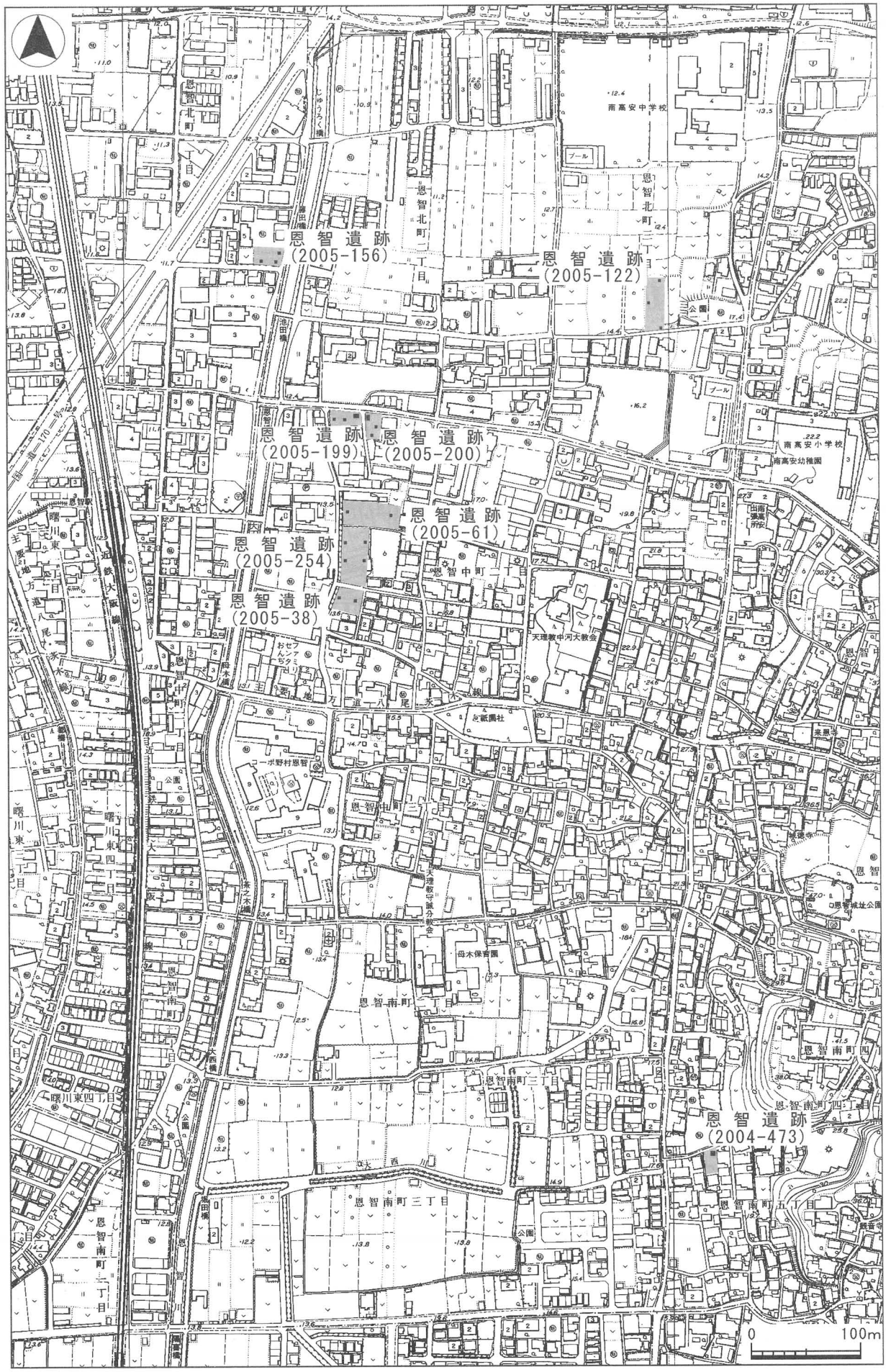


第３図　調査地位置図Ⅲ（Ｓ＝１/5000）

調査地位置図

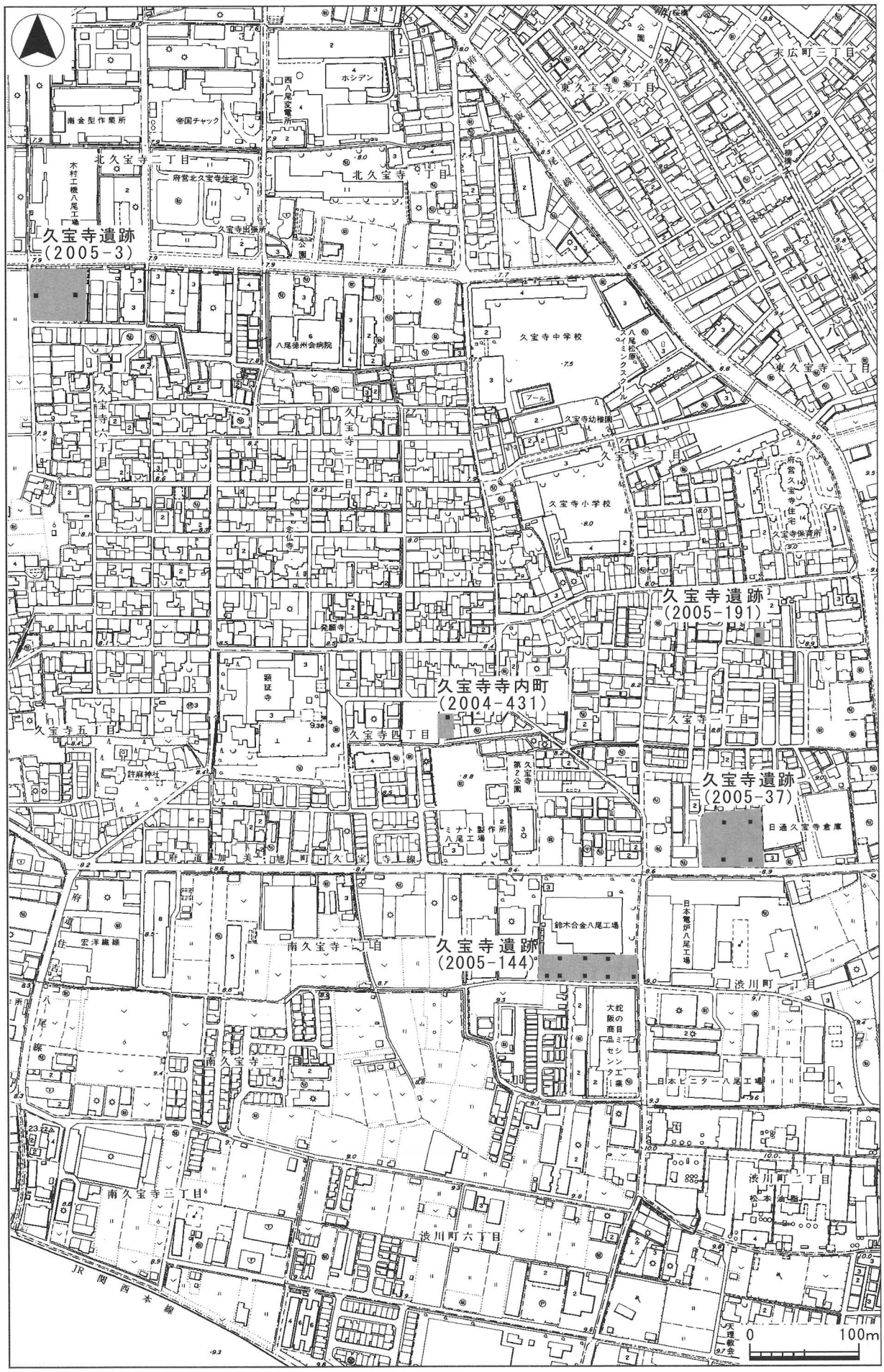
（平成 17 年度 4 月～ 12 月の調査：第 4 図～第 14 図）

第４図　調査地位置図Ⅳ（Ｓ＝１/5000）



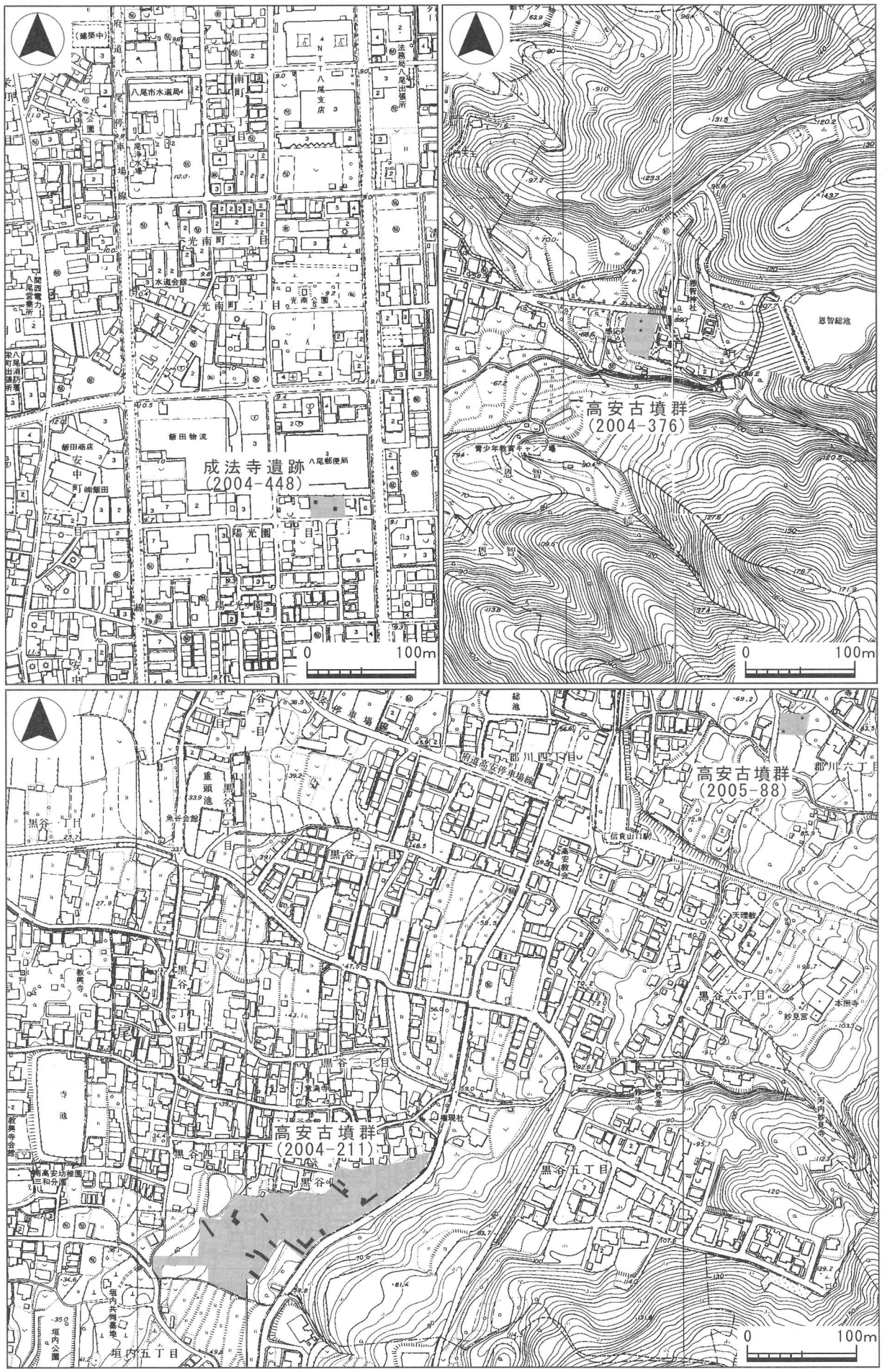
第５図　調査地位置図Ⅴ（Ｓ＝１/5000）

第６図　調査地位置図Ⅵ（S＝1/5000）



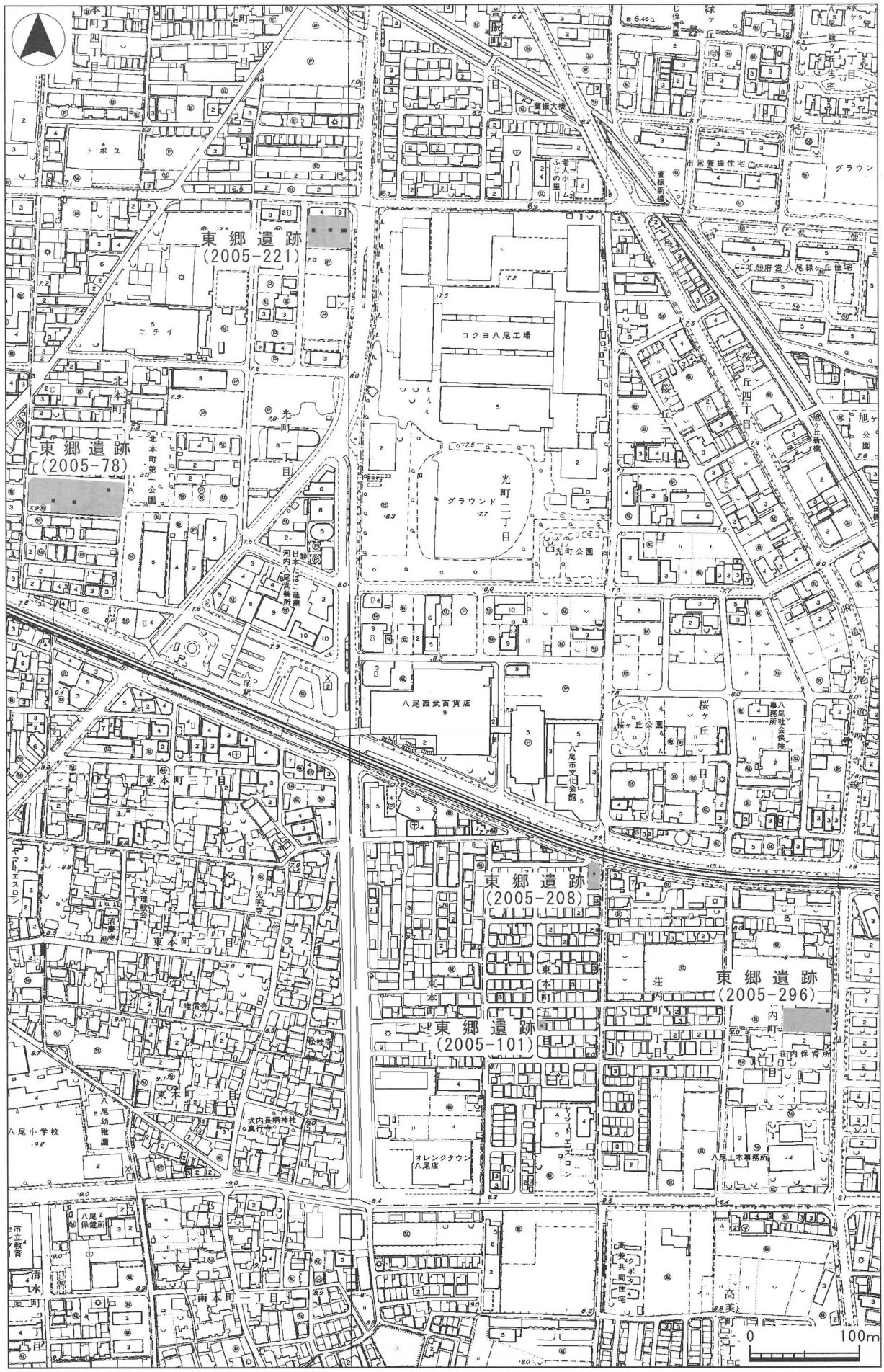
第７図　調査地位置図Ⅶ（Ｓ＝１/5000）

第８図　調査地位置図Ⅷ（Ｓ＝１/5000）



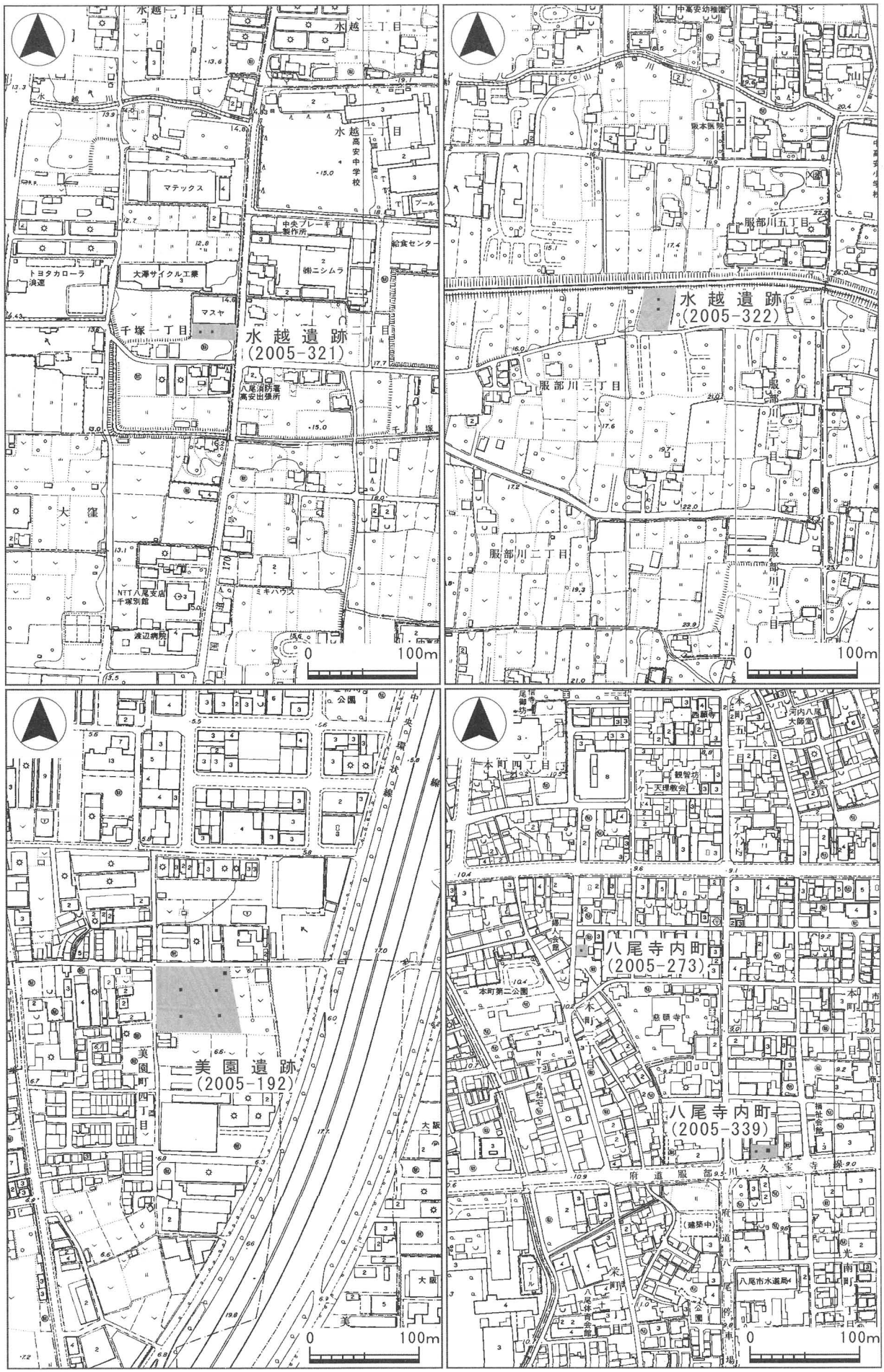
第９図　調査地位置図Ⅸ（Ｓ＝１/5000）

第10図　調査地位置図X（S＝1/5000）

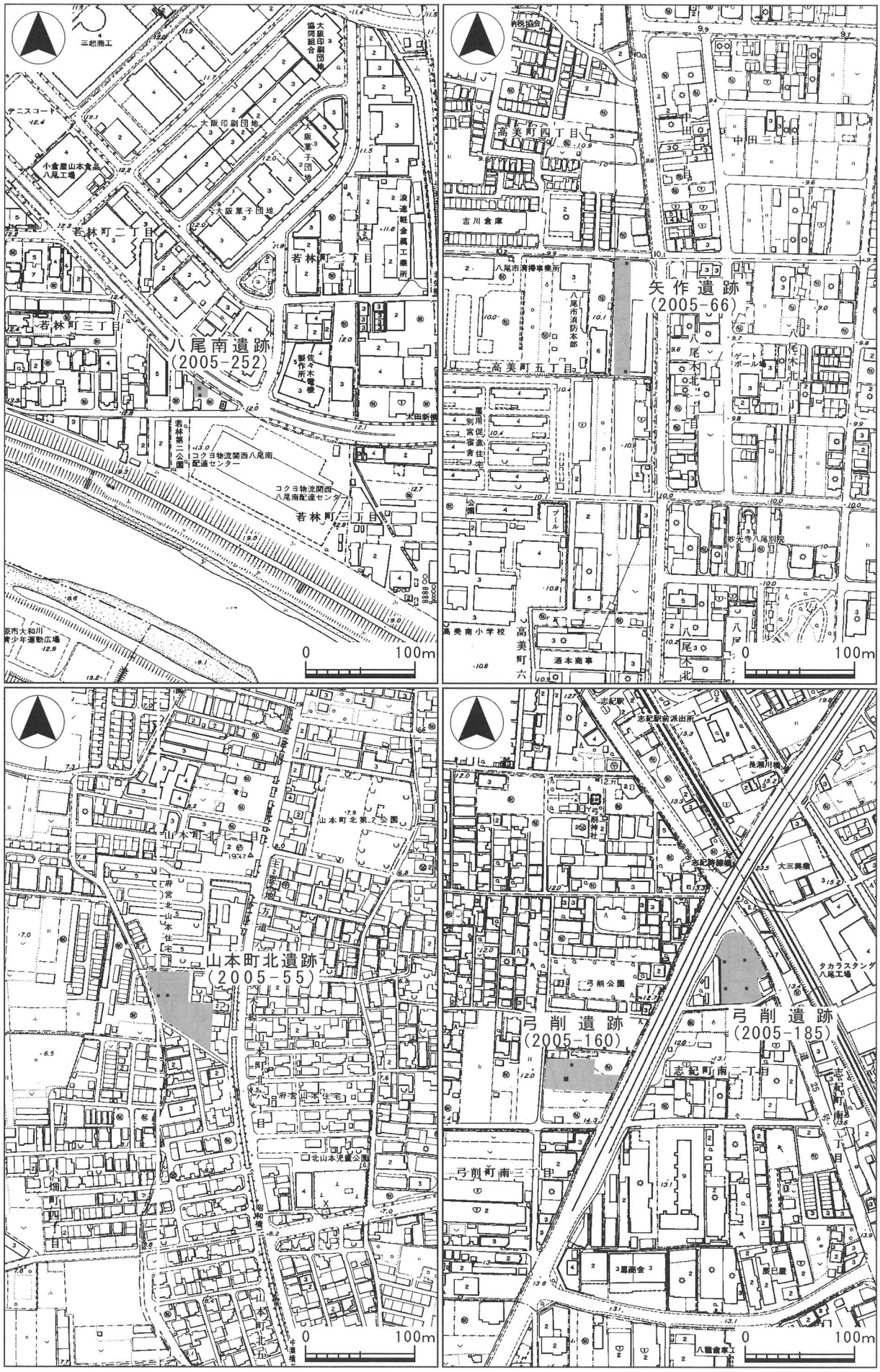


第11図　調査地位置図ＸＩ（Ｓ＝1/5000）

第12図　調査地位置図ＸⅡ(Ｓ＝1/5000)



第13図　調査地位置図ＸⅢ（Ｓ＝１/5000）



第14図　調査地位置図ⅩⅣ(S＝1/5000)

平成16年度１月～３月の調査

（調査一覧表）【第１～３図】

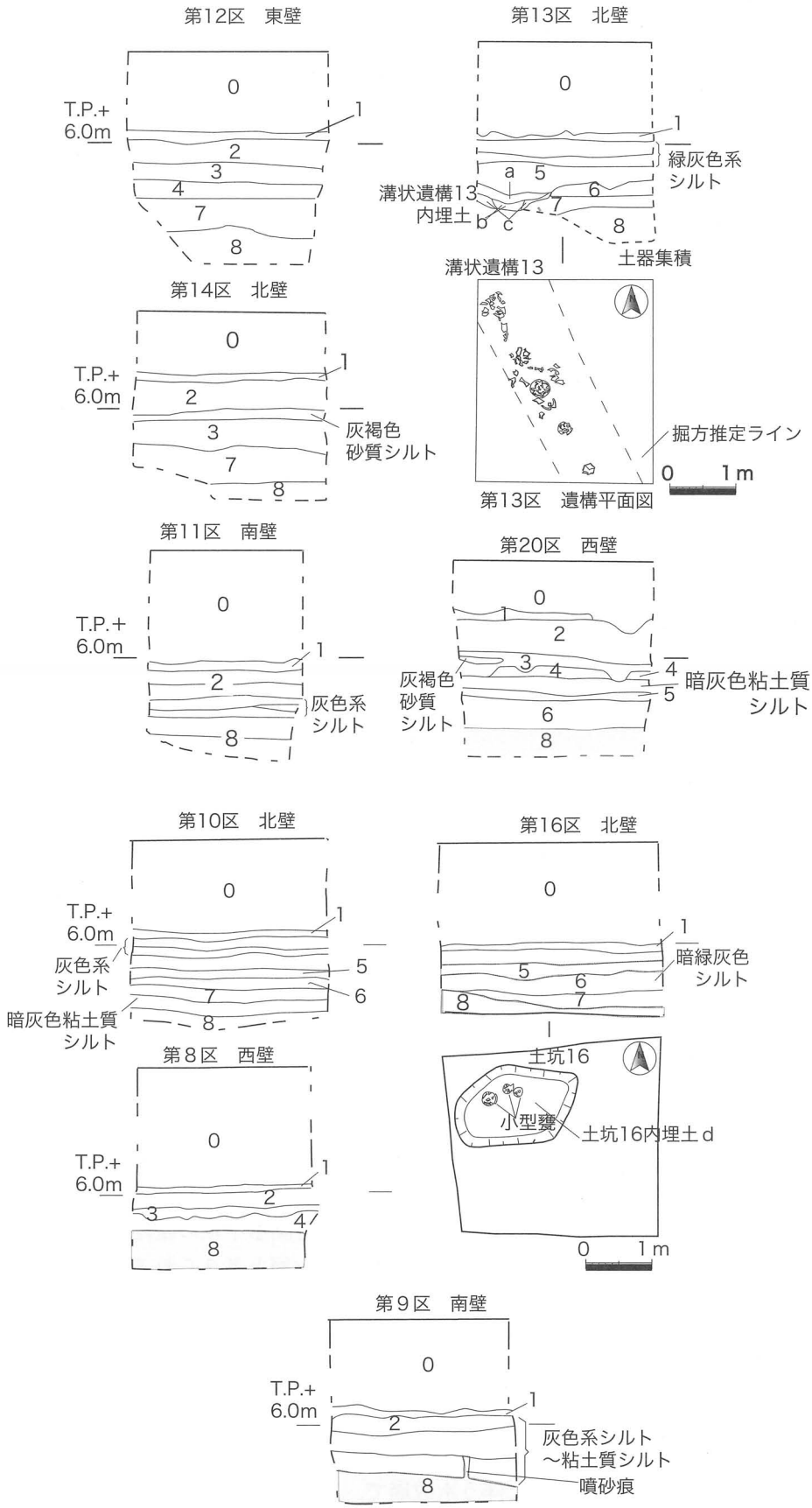
調査名（申請番号）	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
楽音寺遺跡(2004-280)	20050112	楽音寺１丁目84	知的障害者通所授産施設：浄化槽（遺構確認調査）	３×２m深さ2.8ｍ：１箇所（６㎡）	T.P. ＋10.6ｍ東西方向の溝検出。遺物なし	原田
萱振遺跡(2004-353)	20050113	萱振町２丁目127番2(一部)、129番11、129番13、129番19、129番20	共同住宅・分譲住宅：人孔（遺構確認調査）	２×２m深さ2.0ｍ：１箇所（４㎡）	T.P. ＋5.4ｍ水田耕作土の可能性がある地層を確認。遺物なし	高萩
成法寺遺跡(2004-330)	20050124・0215	光南町２丁目45番の一部	分譲住宅：人孔（遺構確認調査）	1.5×1.5ｍ深さ2.0ｍ：６箇所(14㎡)	T.P. ＋8.5ｍ河川。遺物なし	原田
神宮寺遺跡(2004-288)	20050114	神宮寺４丁目28－３	分譲住宅：人孔（遺構確認調査）	2.0×2.0ｍ深さ1.8ｍ：１箇所（４㎡）	盛土内工事	西村
竹渕遺跡(2004-414)	20050208	竹渕東３丁目118・119・123-1	工場：工事用トレンチ（遺構確認調査）	2.5×2.5ｍ深さ2.8ｍ：１箇所(6.25㎡)	遺構遺物なし	西村
東郷遺跡(2004-370)	20050111～19	光町二丁目３・４・６・７・８番	店舗：基礎（遺構確認調査）	4.0×4.0ｍ深さ3.5ｍ：22箇所(336㎡)	詳細は［１］に記載	岡田
水越遺跡(2004-254)	20050126	水越１丁目98・99	店舗：浄化槽（遺構確認調査）	2.5×2.5ｍ深さ2.5ｍ：１箇所(6.25㎡)	盛土内工事	岡田
八尾寺内町(2004-438)	20050228	本町２丁目157の一部	個人住宅：基礎（発掘調査）	2.0×2.0ｍ深さ1.8ｍ：１箇所(4㎡)	寺内町の形成時期の地層を確認	西村
弓削遺跡(2004-347)	20050308	志紀町南三丁目105番・106番	個人住宅：基礎（遺構確認調査）	1.5×1.5ｍ深さ1.5ｍ：１箇所(2.25㎡)	近世以前の河川堆積を確認	西村

１．東郷遺跡（2004-370）の調査【第２図　図版１～３】

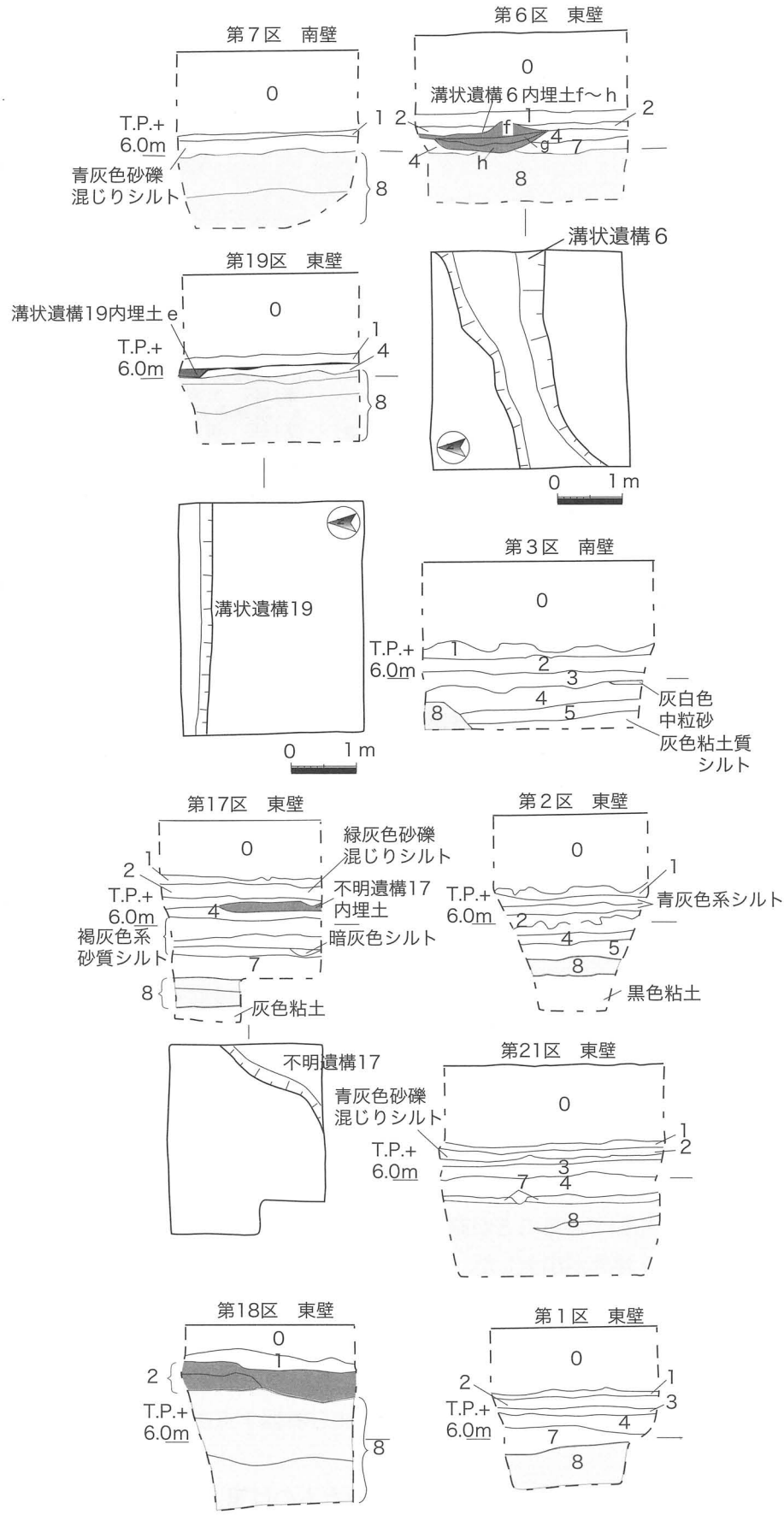
（１）**調査概要**：建設予定地内に４ｍ四方の調査区を**第１～22区**の計22箇所設定し、工事深度に準じて現地表（T.P. ＋7.5～8.0ｍ）下約3.5ｍまでの掘削を実施した。なお、**第14区**と**第22区**については、工事計画の規模上、現地表から約4.5ｍまでの掘削を実施した。**第15区**については、工場建設時に現地表からカクランされており、調査対象にはならなかった。なお、**第１～22区**の調査区番号については、工事主体者側の掘削工程に準じたもので、番号は順不同となっている。

【層序】

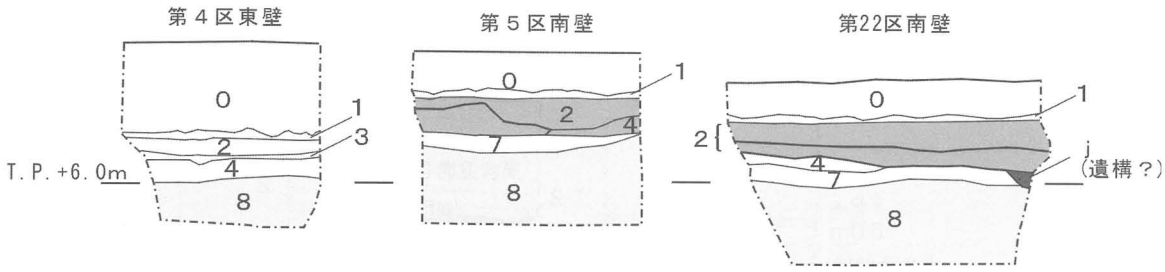
各調査区とも現地表下0.5～2.0ｍは既存の工場建設に伴う盛土（第０層）で、その下層は層厚0.1～0.2ｍの近・現代の耕作土（第１層）となっている。以下、順に全調査区において普遍的に堆積する７層（第２～８層）の各層について記述する。第２層は褐色系砂礫混じりシルトで、層厚0.1～0.5ｍを測る。層内には中世の土師器皿・瓦器椀等の細片が含まれる。南部中央にあたる**第６・19区**の２地点では、当該期の遺構（**溝状遺構６・19**）を検出した。さらに、北東部にあたる**第20区**では、平面的に遺構を捉えることができなかったが、壁断面の観察の結果、鋤溝らしき窪みを数箇所確認した。また、南東部にあたる**第５・18・22区**の３地点では、層厚0.3～0.4ｍを測る中世の整地層とも推定される堆積層を確認している。第３層は暗褐色系シルトで、当該期の土壌化層と考えられる。第４層は黄褐色系シルトで、先述の溝状遺構はいずれも本層の上面で検出した。淘汰不良で偽礫を含む。層厚0.1～0.2ｍを測る。第５層は黒褐色系シルトで、層厚0.1～0.2ｍを測る。層内には古墳時代前期（布留式期）の遺物が若干含まれる。第６層はにぶい褐色系シルトで、層厚0.2～0.3ｍを測る。本層は古墳時代前期（布留式期）の遺構構築層である。北端部にあたる**第13区**および中央からやや東寄りにあたる**第16区**の２地点では、本層の上面で当該期の遺構（**溝状遺構13、土坑16**）を検出した。第７層は灰褐色砂質シルトで、層厚0.2～0.3ｍを測る。本層は洪水などに伴う水成層で、遺物は含まれない。第８層は灰白～褐色の極細～粗粒砂が埋積した河川堆積層である。層厚は**第２・17区**で0.2～0.3ｍと希薄であるが、それ以



第15図　平・断面図(S＝1/100)



第16図　平・断面図(S＝1/100)



【基本層序】
第0層　盛土
第1層　暗青灰～暗灰色粘土質シルト(近現代の耕作土)
第2層　褐色系砂礫混じりシルト(中世遺物包含層)
第3層　暗褐色系シルト(中世の土壌化層)
第4層　黄褐色系シルト(中世遺構の構築層)
第5層　黒褐色系シルト(古境時代前期遺物包含層)
第6層　にぶい褐色系シルト（古墳時代前期遺構の構築層）
第7層　灰褐色砂質シルト(水成層)
第8届　灰白～褐色細～中粒砂(洪水および河川堆積層)

【遺構内埋土】
・第13区　溝状遺構13
　a：褐色極細粒砂混じりシルト
　b：暗灰色粘土質シルト
　c：灰褐色シルト
・第16区　土坑16
　d：暗褐色粘土質シルト
・第19区　溝状遺構19
　e：暗褐色砂礫混じりシルト
・第6区　溝状遺構6
　f：赤褐色シルト
　g：灰黒色砂礫混じりシルト（炭化物含む）
　h：灰褐色粘土質シルト
・第17区　不明遺構17
　i：黒褐色砂礫混じりシルト
・第22区　遺構？
　j：暗灰色粘土質シルト

第17図　地層断面図(S＝1/100)

外の調査区では２m以上を測る。図面には掲載しなかったが、第 14・22 区の２地点で実施した下層確認調査（現地表下約4.5m迄）では３m以上を測り、湧水が著しく、掘削中に上層の壁面は崩壊した。

【検出遺構・出土遺物（※埋土は第９図の遺構内埋土を参照）】

［中世］

・第６区―＜**溝状遺構６**＞現地表下約 1.5 m（T.P. ＋6.2 m）付近で検出した南北に伸びる溝状遺構である。幅 1.0 ～ 1.6 m、深さ 0.5 mを測る。埋土は３層に分層され、土師器皿、瓦質羽釜の細片が少量出土した。

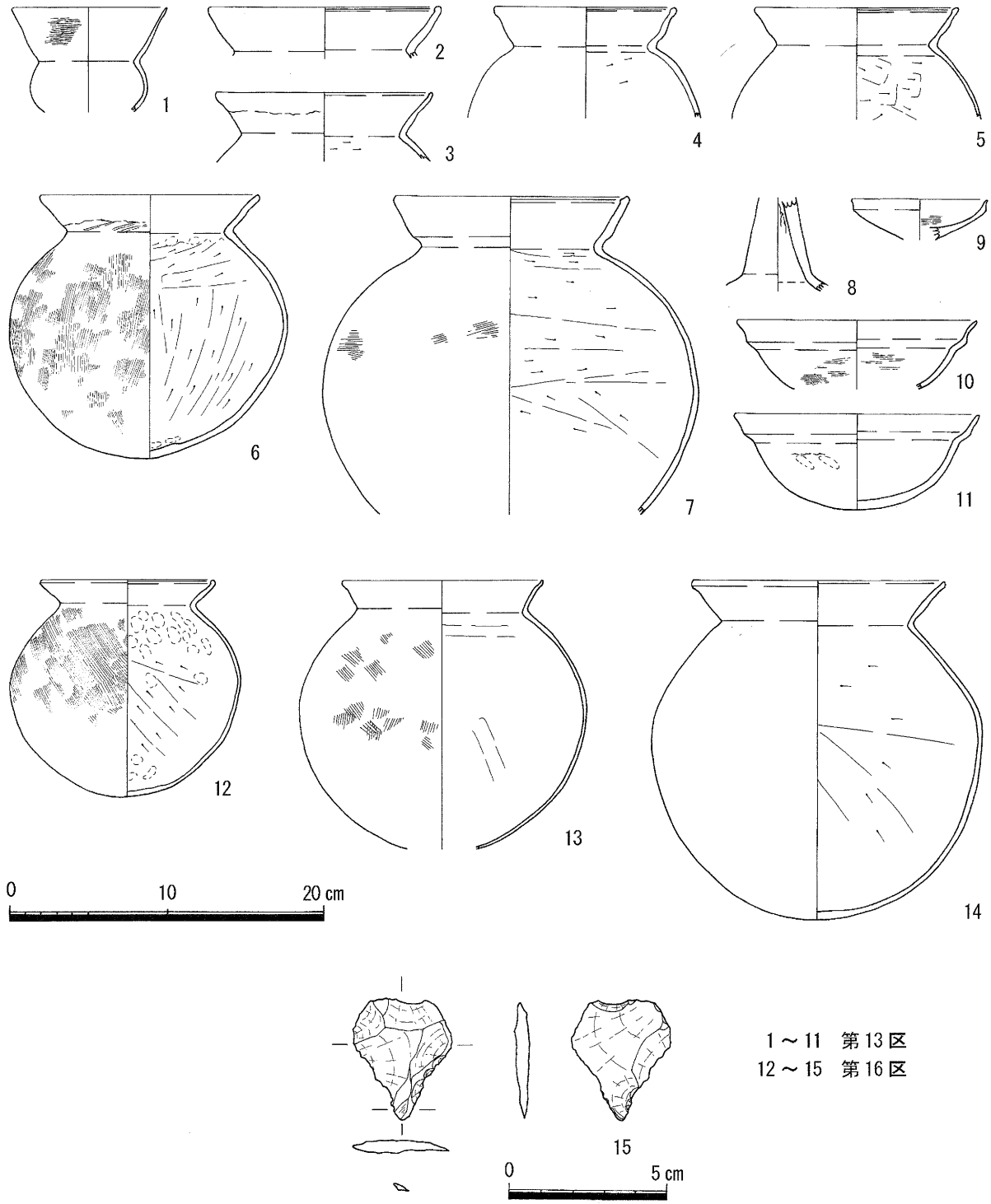
・第 19 区―＜**溝状遺構 19** ＞現地表下約 1.4 m（T.P. ＋6.1 m）付近で検出した。掘方の北肩は調査区外に至るが、南北に伸びると推定される溝状遺構である。検出幅 0.3 ～ 0.5 m、深さ 0.1 m前後を測る。埋土は単一層で、土師器、瓦器椀の細片が少量出土した。

［古墳時代前期］

・第 13 区―＜**溝状遺構 13** ＞現地表下約 2.2 m（T.P. ＋5.4 m）付近で検出した北西－南東に伸びる溝状遺構である。掘方は平面で明確に捉えることができなかったが、壁面観察の結果、幅 1.2 m前後、深さ 0.3 m前後を測るものであることが確認できた。埋土は３層に分層でき、内部からは布留式古相に比定される壷・甕・高杯が出土した。器種では小型の甕が大部分を占めるが、遺存状況は悪く、細片がほとんどである。量的には、コンテナで約２箱分を数える。

・第 16 区―＜**土坑 16** ＞現地表下約 1.9 m（T.P. ＋5.5 m）付近で検出した土坑である。掘方の平面は南北径 1.2 m、東西径 1.8 m、深さ 0.2 mの東西に長い楕円形を呈する。埋土は単一層で、内部からは布留式新相に比定される甕３個体分と細片および石器１点を含む遺物がコンテナ約 1/2 箱分出土した。

（２）出土遺物：今回出土した遺物のうち、図化できたものは**第 13 区溝状遺構 13** から 11 点（１～11)、**第 16 区土坑 16** から４点（12 ～ 15）の計 14 点である。以下、各遺物について記述する。



第18図　第13区（1～11、第16区（12～15）出土遺物実測図（1～14　S＝1/4、15 S＝1/2）

［第13区　溝状遺構13］

【壷】 1は小型丸底壷である。口縁径は体部径を凌駕し、斜上方へ大きく開く。口縁部外面の一部に横方向の密なヘラミガキが認められるが、内外面とも大半が摩耗しており調整は不明瞭である。色調は内外面ともに明褐色を呈する。

【甕】 2・3は口縁部のみ残存である。2は内彎気味に伸びる口縁部で、端部はやや肥厚して内傾する。灰褐色を呈する。3は口縁部が外反気味に伸びた後、端部は上方に丸みをもって収める。口縁部の外面には1条の接合痕を有する。内外面ともに摩耗気味であるが、肩部内面にケズリが見られる。褐灰色を呈する。4・5は上半部1/2残存である。4は2段に鈍く屈曲する口縁部を有し、

端部は丸みをもって肥厚する。体部上半は丸みをもち、調整について外面は摩耗が著しく調整不明であるが、内面には削りが見られる。外面の一部に煤が付着する。５の口縁部は斜上方に直線的に伸び、中ほどで若干肥厚する。端部は内傾する面を有する。体部上半は丸みをもち、調整について外面は摩耗により不明であるが、内面にはケズリが見られる。６は全体の3/5残存する。口縁部は斜上方に直線的に伸び、端部は外傾する面を有する。頸部外面に接合痕が認められる。体部は球形で、外面はハケナデ（８本／cm）、内面はケズリ調整される。底部内面には粘土が付加され、肥厚している。茶灰色を呈し、体部外面下半部に煤が付着する。７は全体の1/3残存する。口縁部は内彎気味で、端部は内傾する面を有する。体部は球形で、外面はハケナデ（８本／cm）、内面はケズリ調整である。器壁は４mm前後で、口縁部に比して薄い。

【高杯】８は脚柱部のみ残存である。中空で、外面は摩耗のため調整不明である。明褐色を呈する。

【器台】９は小型器台の受部である。口縁端部が短くつまみ上げられ、皿状を呈する。内外面ともに摩耗しているが、受底部内面の一部にミガキが認められる。明褐色を呈する。

【鉢】10・11は口縁部が２段に屈曲する有段鉢である。10の内外面の一部には、横方向の密なヘラミガキが認められる。11の口縁部の外反度は、10に比してやや鈍い。内外面ともに摩耗が著しいが、体部外面の一部に１条の接合痕と指頭圧痕が見られる。色調はいずれも明褐色を呈する。以上は古墳時代前期前半に位置づけられる。

［第16区　土坑16］

【甕】12～14の甕はいずれも口縁端部は摘み上げ、体部は球形を呈する。しかし、口縁部そのものを見ると、12が内彎気味であるのに対し、13・14は外反気味に伸びる。調整を見ていくと、12の体部外面上半部はハケナデ（10本／cm）、下半部は摩耗で不明である。内面は肩部と底部に指頭圧痕が明瞭に認められ、中位はケズリである。13・14の体部内外面も摩耗気味ではあるが、外面の上半部には一部ハケナデ（７本／cm）、内面にケズリの痕跡が認められる。色調は12・14が茶褐色、13が明褐色を呈する。以上の甕も既述の**第13区溝状遺構13**と同時期の所産と思われる。

【石器】15は扁平な剥片に調整を加えて成形したサヌカイト製の石錐である。法量は長さ3.8cm、最大幅3.2cm、重量3.3gを測る。

（３）まとめ：今回の遺構確認調査の結果、全調査区で共通する盛土・近現代の耕作土、そして現地表下約３m以下に堆積する河川内埋土を除くと、古墳時代前期～中世にかけての様相が南部と北部で異なることがわかった。南部ではさらに東部と西部、そして北部の３区画に分けられる。まず、西部は中世の土壌化層を示唆する地層が確認できたが、遺物は希薄で遺構を検出するまでには至らなかった。東部では、層厚0.3～0.4mを測る中世の整地層とも推定される堆積層が遺存しており、ここでは当該期の遺構の存在する可能性が高い。北部では遺物包含層は希薄であったが、**第６・17・19区**の３地点において明確な掘方を有する当該期の遺構を検出した。その状況からは、周辺にさらに当該期の遺構が広がっているものと思われる。中世以前の時期については、下層で古墳時代前期の遺物の細片が若干含まれるが、遺構ともに明瞭ではない。次に北部については、南部で見られたような中世の遺構・遺物は逆にほとんど見られない。そしてここでも、西部と東部の２区画に分けられる。古墳時代前期に比定される遺構が、東部にあたる**第13・16区**の２地点で検出した。遺物包含層と言えるほど多量の遺物を含む地層は確認できなかったが、遺構内に埋蔵された土器類はかなり濃密であった。遺構・遺物の検出状況から、墓域を想定させる。付近では、カクランを受けていた**第15区**は除外して、**第14・20区**においても当該期の遺物が同質・同レベルの地層の中に少量含まれており、遺構の広がりに注意を要する。

（岡田清一）

参考文献

・原田昌則　1993「Ⅱ　久宝寺遺跡（第１次調査）」『八尾市文化財調査研究会報告37』（財）八尾市文化財調査研究会

平成17年度４月～12月の調査

１．跡部遺跡　【第４図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
2005-251	20050926	跡部北の町３丁目19,20	倉庫付事務所：基礎（遺構確認調査）	2.0×2.0m深さ2.5m：２箇所（８㎡）	遺構なし。T.P.＋6.8m古墳時代初頭（庄内式期）土器破片出土	原田
2005-132	20051104	太子堂１丁目99番3、100番1、100番3から100番10まで及び100番17	分譲住宅：人孔（遺構確認調査）	2.0×2.0m深さ2m：２箇所（８㎡）	T.P.＋7.8m中世の水田耕作土か？	西村
2005-363	20051222	跡部北の町３丁目７番、８番１、９番１	店舗：基礎（遺構確認調査）	2.0×2.0m深さ1.8m：３箇所（12㎡）	詳細は［１－１］に記載。	原田

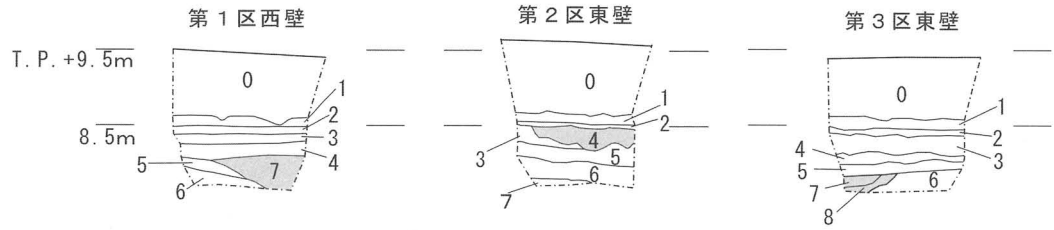
１－１．跡部遺跡（2005-363）の調査　【第４図　図版４】

（１）**調査概要**：２×２mの３箇所を調査した。北側から**第１～３区**と呼称する。調査で使用した標高値は八尾市作成地図（1/2500）に記載されているT.P.＋9.0m（跡部北の町２丁目）である。

【地層】**第１区**：現地表下1.8mまでの間で８層（０～７層）を確認した。０層は客土。層厚0.85m。１層はN3/0暗灰色砂質シルト。作土層。２層はグライ化が顕著な10GY7/1明緑灰色砂質シルト。３層は10GY8/1明緑灰色砂質シルトに10YR6/6明黄褐色シルトのブロックを含む撹拌された層相。４層は5GY7/1明オリーブ灰色極細粒砂混砂質シルト。５層は酸化鉄斑が認められる5Y6/1灰色中粒砂混砂質シルトで、７層を埋土とする遺構構築面。６層は10BG7/1明青灰色粘土質シルトである。７層は2.5GY6/1オリーブ灰色中粒砂混砂質シルト【溝埋土】。

第２区：現地表下1.9mまでの間で８層（０～７層）を確認した。０層は客土。層厚0.95m。１層はN3/0暗灰色砂質シルト。作土層。２層は10YR7/6明黄褐色砂質シルト。３層はマンガン斑が顕著な10YR6/1褐灰色砂質シルトで４層を埋土とする遺構構築面である。５層は10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト、６層は10YR4/1褐灰色砂質シルトで、５・６層は酸化鉄・マンガン斑が顕著な層相である。７層は5Y7/1灰白色中粒砂を主体とする河川堆積層である。

第３区：現地表下1.8mまでの間で９層（０～８層）を確認した。０層は客土。層厚0.8m。１層はN6/0灰色砂質シルト。作土層。２層は酸化鉄斑が認められる10GY8/1明緑灰色砂質シルト。３層は管状のマンガン斑が顕著な5Y7/1灰白色極細粒砂。４層は10YR7/4にぶい黄橙色極細粒砂。５層は上部を中心に酸化鉄斑が認められる2.5Y6/1黄灰色粘土質シルト。６層は10GY7/1明緑灰色シルトで７・８層を遺構埋土とする遺構構築面。７層はN6/0灰色粘土、８層はN4/0灰色粘土質シルトで、両層は遺構埋土である。特に８層からは炭・植物遺体が多く含まれており、遺物としては古墳時代前期後半（布留式新相）に比定される甕等の土器類が出土している。



第19図　地層断面図（S＝1/100）

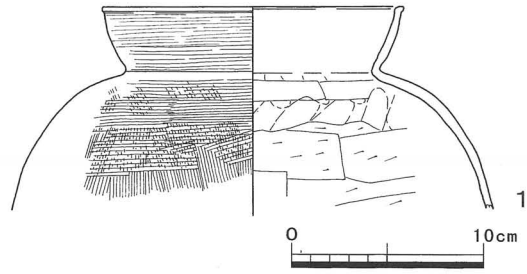
【検出遺構】

第１区－５層を構築面とする溝。

第２区－３層を構築面とする溝。

第３区－６層上面を構築面とする古墳時代前期後半（布留式新相）の溝。

（２）出土遺物：第３区の８層からは古式土師器甕が１点（１）出土した。１は布留式甕の小片である。大きく肩の張る肩部から屈曲し、内灣して伸びる口縁部を形成するもので、端部は小さく外反し、内傾する面を作る。器面調整は口縁部内面ヨコナデ、外面ヨコハケ。肩部内面は上位が指ナデ、以下がヘラケズリ、外面はタテハケ後、上部を中心にヨコハケを施す。色調は淡褐灰色。古墳時代前期後半（布留式新相）に比定される。



第 20 図　出土遺物実測図（Ｓ＝１／４）

（３）まとめ：第１～３区で遺構面を検出した。**第１・２区**で検出した遺構に関しては、出土遺物が皆無であるため明確な時期は不明であるが、層位からみて古代～中世時期が想定されよう。**第３区**で検出した遺構については、古墳時代前期後半（布留式新相）に比定される遺物が出土しており、北に隣接している久宝寺遺跡とともに当該期の集落域を推定するうえで貴重な資料と言えよう。

（原田昌則）

参考文献

・西村公助　1989 「19　跡部遺跡（第４次調査）」『八尾市文化財調査研究会年報　昭和 63 年度』（財）八尾市文化財研究会報告 25

・原田昌則他　2001 『久宝寺遺跡第 24 次発掘調査報告書－大阪竜華都市拠点地区竜華東西線３工区の掘削工事に伴う－』（財）八尾市文化財研究会報告 69 （財）八尾市文化財調査研究会

・小林義孝　2002 『跡部遺跡』 大阪府埋蔵文化財調査報告 2001-6　大阪府教育委員会

・金親満夫　2003 「Ⅲ　跡部遺跡第 35 次調査 (AT2002-35)」『（財）八尾市文化財調査研究会報告 75』（財）八尾市文化財調査研究会

・原田昌則他　2004 「Ⅰ　久宝寺遺跡（第 28 次調査）」『久宝寺遺跡　（財）八尾市文化財調査研究会報告 77』（財）八尾市文化財調査研究会

・成海佳子　2005 「Ⅰ　跡部遺跡（第 36 次調査）」『（財）八尾市文化財調査研究会報告 82』（財）八尾市文化財調査研究会

・成海佳子　2005 「Ⅳ　久宝寺遺跡（第 53 次調査）」『久宝寺遺跡　（財）八尾市文化財調査研究会報告 83』（財）八尾市文化財調査研究会

２．植松遺跡　【第４図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
2005-25	20050531・0608	永畑町２丁目33-1、34、35-1、36	店舗：基礎（遺構確認調査）	3.0ｍ×3.0ｍ：２箇所3.4×7.2ｍ：１箇所　深さ3.0～3.8ｍ（42.48㎡）	詳細は［２－１］に記載。	樋口

２－１．植松遺跡（2005-25）の調査　【第４図　図版４】

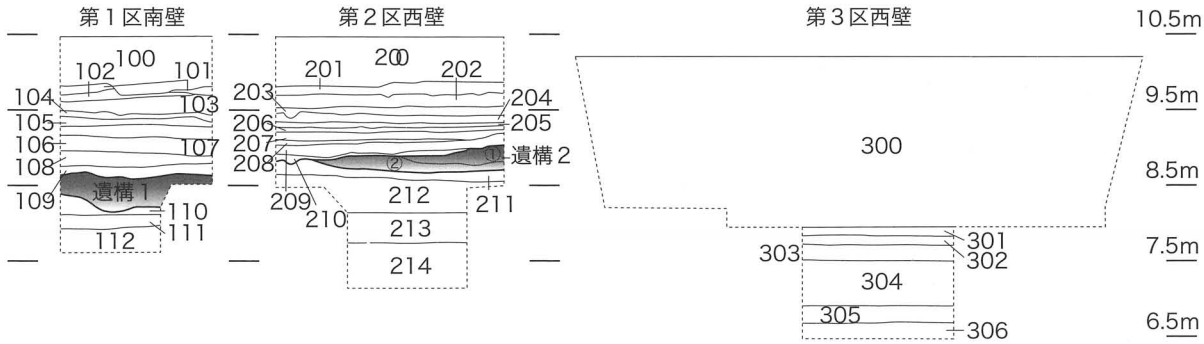
（１）**調査概要**:規模約3.0×3.0ｍ、面積約9.0㎡２箇所（第１・２区:５月31日実施）と、3.4×7.2ｍ１箇所（第３区：６月８日実施）について、現地表（T.P.＋10.2ｍ～10.5ｍ前後）下3.0～3.8ｍ前後までを調査。レベル高は、八尾市作成１/2500地図に記載のレベル高値（調査地南西に位置する国道25号線のセンター：T.P.＋10.1ｍ）を使用した。

【地層】第１区：現地表（10.5ｍ）下0.8ｍ前後までは、客土・盛土（100層）。以下現地表下3.0ｍ前後までの2.2ｍ間において13層（内１層は**遺構１**）の地層を確認した。101層は灰色１～10㎜大細礫混粘土質シルト～シルト。旧耕作土である。102･103層はオリーブ灰色粘土質シルト～シルト（土壌化層）。両層ともに水田耕作土である。104層は淡黄色シルト。105～109層は灰黄褐色～にぶい黄褐色粘土質シルト。土師器細片が混在する地層で、整地層の可能性が高い。110・111層は灰黄褐色～オリーブ灰色粘土質シルト～中粒砂。水平ラミナ構造が発達している。112層は灰色シルト質粘土。湿地性の堆積物である。

第２区:現地表（10.5ｍ）下0.7ｍ前後までは、客土･盛土（200層）。以下現地表下3.0ｍ前後までの2.3ｍ間において15層（内１層は**遺構２**）の地層を確認した。201層は灰色１～10㎜大細礫混粘土質シルト～シルト（旧耕作土）。202・203層はオリーブ灰色粘土質シルト～シルト。グライ化の顕著な土壌化層。両層ともに水田耕作土で、特に203層下面は踏み込みによる変形構造が目立つ。204層は淡黄色シルト。205～210層は、暗灰黄色粘土質シルトと灰白色シルト～粗粒砂の互層。211・212層は灰色シルト質粘土～粘土質シルトで、水田耕作土の可能性が高い。213・214層は灰色～黄灰色を帯びた粘土質シルト～シルト。水成層である。

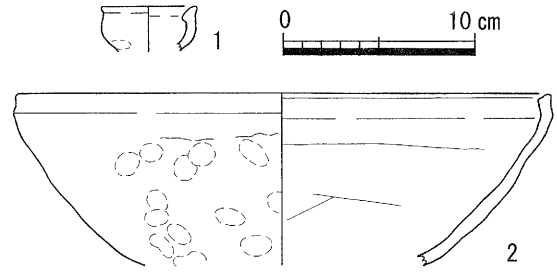
第３区：現地表（10.2ｍ）下2.2ｍまでは攪乱（300層）。以下現地表下3.8ｍ前後までの1.6ｍ間において６層の地層を確認した。301層は灰色植物遺体ラミナ混シルト質粘土～粘土質シルト。302層は管状酸化鉄物沈着灰色粘土質シルト、303層は灰色粘土質シルト。304層は灰白色シルト～粗粒砂で、水平ラミナ構造が発達している。305層は炭化物ラミナ混灰色シルト質粘土。306層はラミナ構造が発達したオリーブ灰色粘土質シルト～シルトである。

【検出遺構】遺構１は、平面規模については当調査区の規模を上回るため不明。深さは0.4ｍを測る。埋土は黒褐色１～２㎜大細礫混粘土質シルのブロック土で、埋土からは奈良時代末～平安初頭頃のものと推測される土師器（１・２）が出土した。第２区西壁で確認した**遺構２**は、211層上面から切り込む遺構遺構と考えられる。埋土からは時期不明の土師器細片が少量出土した。なお、**遺構２**は、



第21図　地層断面図(Ｓ＝１/100)

上面において210層水成層が堆積しているため、本来は210層下面検出遺構と呼称すべきである。



第22図　出土遺物実測図（S＝1／4）

（2）出土遺物：1は土師器小型壷の口縁端部～体部下位の細片。口縁部は非常に短く、端部は丸い。頸部にはにぶい屈曲点が見える。体部は偏球形か？調整はナデ。体部下位外面には指頭による成形痕が見える。色調は橙色(5YR6/6)で、胎土には1㎜大の細礫が極少量混在する。2は土師器鉢の口縁端部～体部下位の細片である。口縁部は短く内傾する。端面は内径し、にぶく窪む。口縁部と体部の境界にはにぶい変化点が見える。体部は内湾気味である。調整は口縁部が横ナデ。体部外面には指頭成痕が見え、その後ケズリが行われた可能性が高い。内面には横位板ナデを施す。色調は橙色(5YR6/6)で、胎土には極粗粒砂～2㎜大細礫が多く混在する。本例は、平城宮発掘調査報告ＸＩ分類の土師器鉢Ｂに該当する。奈良後半～平安時代前期（周辺で実施された調査成果から得られた年代である）に属するものと推測される。

（3）まとめ:今回の調査地の西隣では、当調査研究会による第8次調査（ＵＭ2002－8）が実施され、T.P.＋8.8～9.1ｍにおいて、奈良次代後半～平安時代前期の居住域を構成した遺構群を検出している。今回の調査で確認した遺も、概ね、第8次調査で検出された遺構群の東への広がりと捉えることが可能と思われる。　（樋口　薫）

参考文献

・高木真光　1981「第2章　植松南遺（永畑町2丁目）」『八尾埋蔵文化財発掘査報1980・1981年度』八尾市教育委員会

・高萩千秋　1993「XVI　植松遺跡第1次調査（UM92-1）」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』財団法人八尾市文化財調査研究会報告39

・高萩千秋　1994「II　植松遺跡（第2次調査）」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告42』財団法人八尾市文化財調査研究会

・高萩千秋　1998「I　植松遺跡（第3次調査）」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告59』財団法人八尾市文化財調査研究会

・西村公助　1998「III　植松遺跡（第5次調査）」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告60』財団法人八尾市文化財調査研究会

・原田昌則　1998「IV　植松遺跡（第6次調査）」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告60』財団法人八尾市文化財調査研究会

・岡田清一　1999「I　植松遺跡（第4次調査）」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告63』財団法人八尾市文化財調査研究会

・高萩千秋　2000「IV　植松遺跡（第7次調査）」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告65』財団法人八尾市文化財調査研究会

・岡田清一　2003「4. 植松遺跡第8次調査（UM2002-8）」『平成14年度（財）八尾市文化財調査研究会事業報告』財団法人八尾市文化財調査研究会

3．大竹遺跡　【第4図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
2004-323	20050524	水越6丁目63番1	専用住宅：基礎（遺構確認調査）	3.0ｍ×1.2ｍ：1箇所 深さ1.8ｍ(3.6㎡)	遺構の可能性がある地層を確認。遺物なし	樋口
2005-358	20051222	大竹六丁目169	ケアサービス施設改造工事：浄化槽（遺構確認調査）	2.0ｍ×2.0ｍ：1箇所 深さ2.3ｍ（4㎡）	土石流堆積を確認。遺構、遺物なし。	西村

4．恩智遺跡 【第５図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
2004-473	20050406	恩智南町五丁目103－2	老人福祉施設：浄化槽（遺構確認調査）	2.9×2.4m深さ2.7m：1箇所（6.96㎡）	T.P.＋18.2m中世の水田耕作土。T.P.＋16.2～18.0m砂礫層の谷状地形	荒川
2005-38	20050520	恩智中町2丁目245-1、-2、246-1、-2	分譲住宅：人孔（遺構確認調査）	2.0×2.0m深さ1.8m 2箇所（8㎡）	詳細は［4-1］に記載。	原田
2005-122	20050725	恩智北町3丁目69、70、65-2、66-2	分譲住宅：人孔（遺構確認調査）	2.0×2.0m深さ1.8～2.7m 3箇所（12㎡）	T.P.＋12.5m砂層河川堆積。遺物なし。	原田
2005-61	20050728	恩智中町2丁目289	分譲住宅：人孔（遺構確認調査）	2.0×2.0m深さ1.5m 2箇所（8㎡）	詳細は［4-2］に記載。	原田
2005-156	20050916	恩智北町1丁目21	分譲住宅：人孔（遺構確認調査）	2.0×2.0m深さ2.0m 3箇所（12㎡）	T.P.＋10.5m砂層河川堆積。遺物なし。	原田
2005-254	20050927・28	恩智中町二丁目288番2、245番1の一部	分譲住宅：人孔（遺構確認調査）	2.0×2.0m深さ1.2～1.4m 4箇所（16㎡）	詳細は［4-3］に記載。	高萩
2005-199	20051107	恩智中町2丁目320番の一部	長屋住宅：基礎　浄化槽（遺構確認調査）	3.0×4.0m深さ1.9m：1箇所2.0×2.0深さ0.9～1.1m：2箇所（20㎡）	詳細は［4-4］に記載。	荒川
2005-200	20051107	恩智中町2丁目315番の一部	長屋住宅：基礎　浄化槽（遺構確認調査）	2.0×4.0m深さ1.9m：1箇所2.0×2.0深さ0.5m：2箇所（16㎡）	詳細は［4-5］に記載。	荒川

4-1．恩智遺跡（2005-38）の調査 【第５図　図版５】

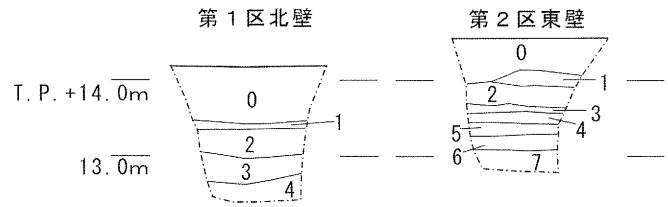
（1）調査概要：２×２mの２箇所。西側を**第１区**、東側を**第２区**と呼称。調査で使用した標高値は八尾市作成地図（1/2500）に記載されているT.P.＋13.5m（恩智中町２丁目）である。

【地層】共に現地表下1.8m前後までを観察した。**第１区**で５層（０～４層）、**第２区**で８層（０～７層）を確認した。

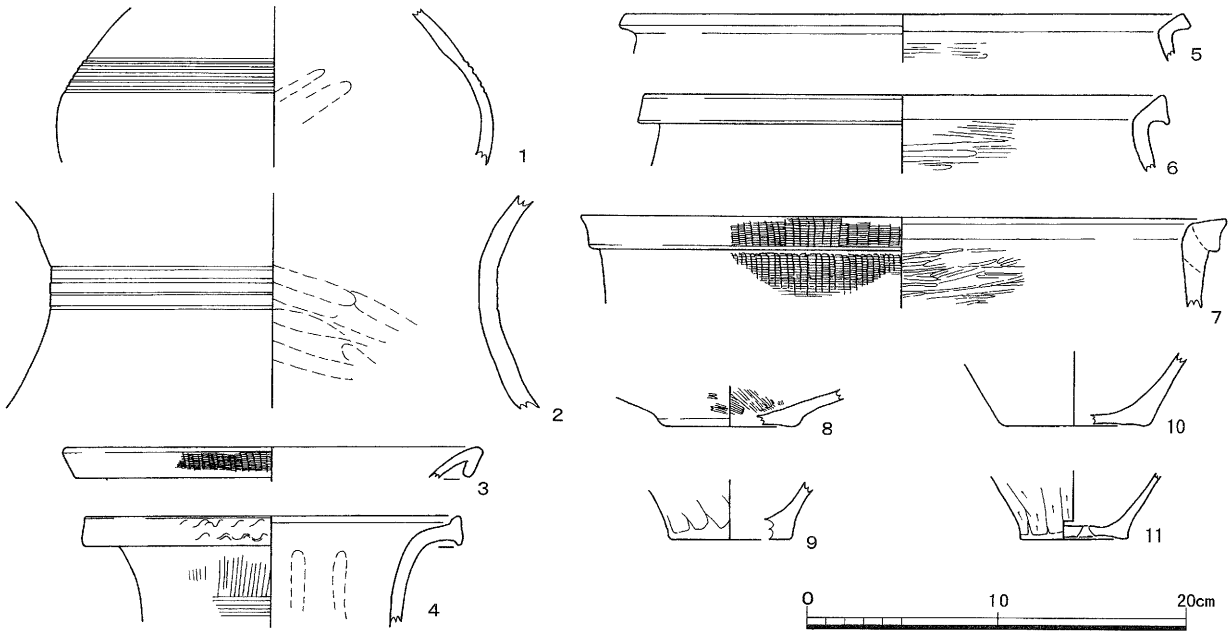
第１区：０層は客土。層厚70cm前後。下部において近代の瓦片を多く含む。１層～４層は自然河川の堆積層である。１層は10YR6/3にぶい黄橙色極細粒砂～中粒砂。層厚10cm前後。２層は酸化鉄斑が顕著な10YR8/1灰白色極細粒砂～中粒砂。層厚40cm前後。３層は中～大礫を含む7.5YR7/4にぶい橙色中粒砂～粗粒砂。層厚25～35cm。４層は中礫を含む2.5Y7/2灰黄色中～粗粒砂である。層厚は35cm以上を測る。いずれの層からも遺物は出土していない。

第２区：０層は客土。層厚40～60cm。１層は10YR5/2灰黄褐色砂質シルト。層厚20cm。２層は10YR5/2灰黄褐色砂質シルト。マンガン斑の沈着が認められる。層厚30cm前後。３層は7.5GY7/1明緑灰色砂質シルトにN4/0灰色砂質シルトのブロック。層厚10cm前後。４層は10GY6/1緑灰色中粒砂混砂質シルト。層厚15cm前後。５層は10GY8/1明緑灰色極細粒砂混砂質シルト。層厚15cm前後。６層はN2/0黒色シルト質粘土。層厚20cm前後。弥生時代中期後半（畿内第Ⅳ様式）の土器類、石器類を濃密に含む包含層。７層は5Y6/1灰色中～粗粒砂。層厚30cm以上。弥生時代中期の遺構構築面である。

【検出遺構】なし

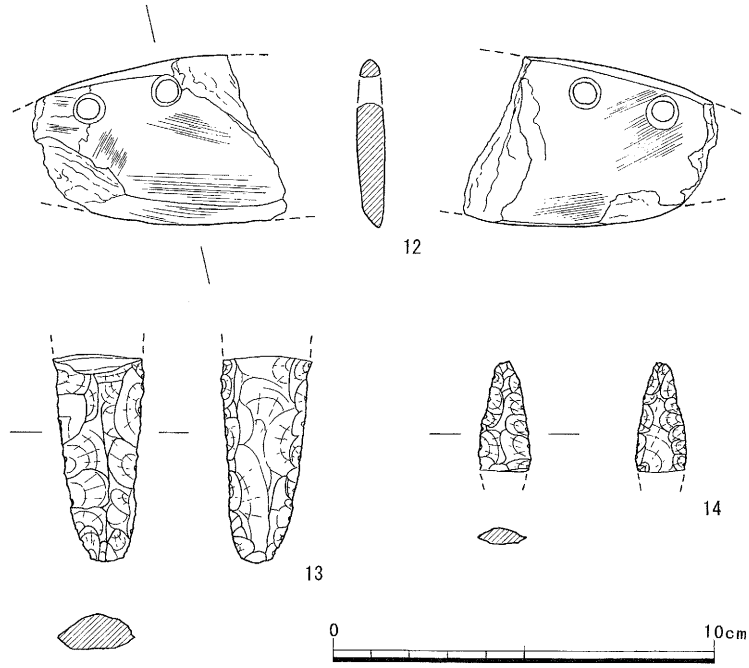


第23図　地層断面図（S＝1/100）



第 24 図　出土遺物実測図－１（Ｓ＝1/ ４）

（２）出土遺物：第２区の第６層からは、弥生時代前期新段階～中期後半に比定される弥生土器・石器・サヌカイトの石材等が出土している。小破片が中心で、量的にはコンテナ約 1/4 程度である。14 点（１～14）を図化した。１・２は広口壷で、１が中形品、２が大形品に分類される。１は体部上半に６条の沈線、２は頸部に４条の沈線を施す。共に前期新段階に比定される。３・４は広口壷である。３は下方に折れ曲がる口縁端面に簾状文を施す。４は口縁部付近で強く外反した後、上下に肥厚し幅広の端面を形成している。端面に波状文、頸部に直線文を施す。共に中期後半に比定される。５・６は甕口縁部の小片である。口縁部の形態は５が屈曲、６が屈曲し垂下する形態である。共に中期後半に比定される。７は大形鉢である。口縁部は大きく肥厚し、幅広の内傾する面を形成している。口縁端面および体部に簾状文を施す。中期後半に比定される。８～11 は底部で、８が壷、９・10 は甕、11 は底部有孔甕である。８～11 は中期後半に比定される。１～11 の土器類の色調は赤褐色～褐灰色で、全て胎土中に角閃石を含む生駒西麓産である。12 は石庖丁である。約 1/2 を欠く。直線刃半月形態で、刃部は片刃である。紐孔は中央でなく肩部付近に２孔穿たれている。石材は緑色片岩。13 は石槍で先端部を欠く。残存長 5.4cm を測る。14 は石鏃で基部を欠く。残存長 2.8cm を測る。13・14 の石材はサヌカイトである。



第 25 図　出土遺物実測図－２（Ｓ＝1/2）

（３）まとめ：**第１区**の自然河川については、既往調査で確認している中世段階に存在した南北方向に伸びる自然河川との関わりが想定される。**第２区**の６層では弥生時代中期後半（畿内第Ⅳ様式）の土器・石器類を含有する遺物包含層を確認した。当該期の集落については、昭和 50 ～ 53 年に瓜生堂遺跡調査会が恩智川改修工事に伴う調査、マンション建設に伴って昭和 51 ～ 53 年に市教育委員会が行った調査、平成 13 年度に（財）八尾市文化財調査研究会が行った第 11 次調査（OJ2001 － 11）で検出しており、これらの調査との有機的な関係が想定される。（原田）

参考文献

・田代克己他　1980 『恩智遺跡Ⅰ』瓜生堂遺跡調査会

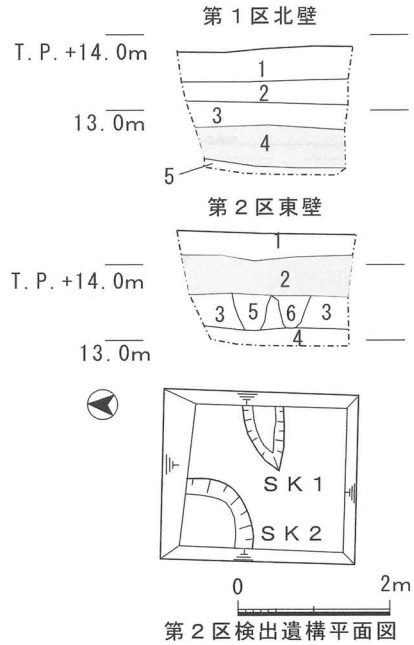
・森本めぐみ　2003 「Ⅳ　恩智遺跡（第 11 次調査）」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告 75』財団法人八尾市文化財調査研究会

４－２．恩智遺跡（2005-61）の調査　【第５図　図版６】

（１）**調査概要**：２×２ｍ２箇所。西側を**第１区**、東側を**第２区**と呼称。調査で使用した標高値は八尾市作成地図（1/2500）に記載されている T.P. ＋ 13.5 ｍである。

【地層】**第１区**：現地表下 1.5 ｍまでの間で５層（１～５層）を確認した。１層が 5Y5/1 灰色砂質シルト。層厚 40 ㎝前後。２層が河川堆積に伴う中粒砂を主体とする 10YR7/1 灰白色中粒砂。層厚 30 ㎝前後。３層が 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト。層厚 30 ㎝。４層が 10YR3/1 黒褐色粘土質シルトで弥生時代中期～後期の遺物を含む遺物包含層である。層厚 55 ㎝前後。５層が 5Y6/1 灰色中粒砂混砂質シルトで遺構ベース面を形成している。

第２区：現地表下 1.5 ｍまでの間で４層（１～４層）を確認した。１層は**第１区**１層と同じ。２層は**第１区**の４層に対応するもので、弥生時代中期～後期の遺物を含む遺物包含層である。３層は**第１区**の５層に対応するベース面で、上面で弥生時代中期のＳＫ１、ＳＫ２の遺構を検出している。**第２区**で検出した遺構構築面の標高が高く第１区との標高差は 1.6 ｍを測る。４層は 5Y5/1 灰色粘土質シルトで無遺物層である。５・６層は 10YR2/1 黒褐色砂質シルトで、ＳＫ１とＳＫ２の埋土である。



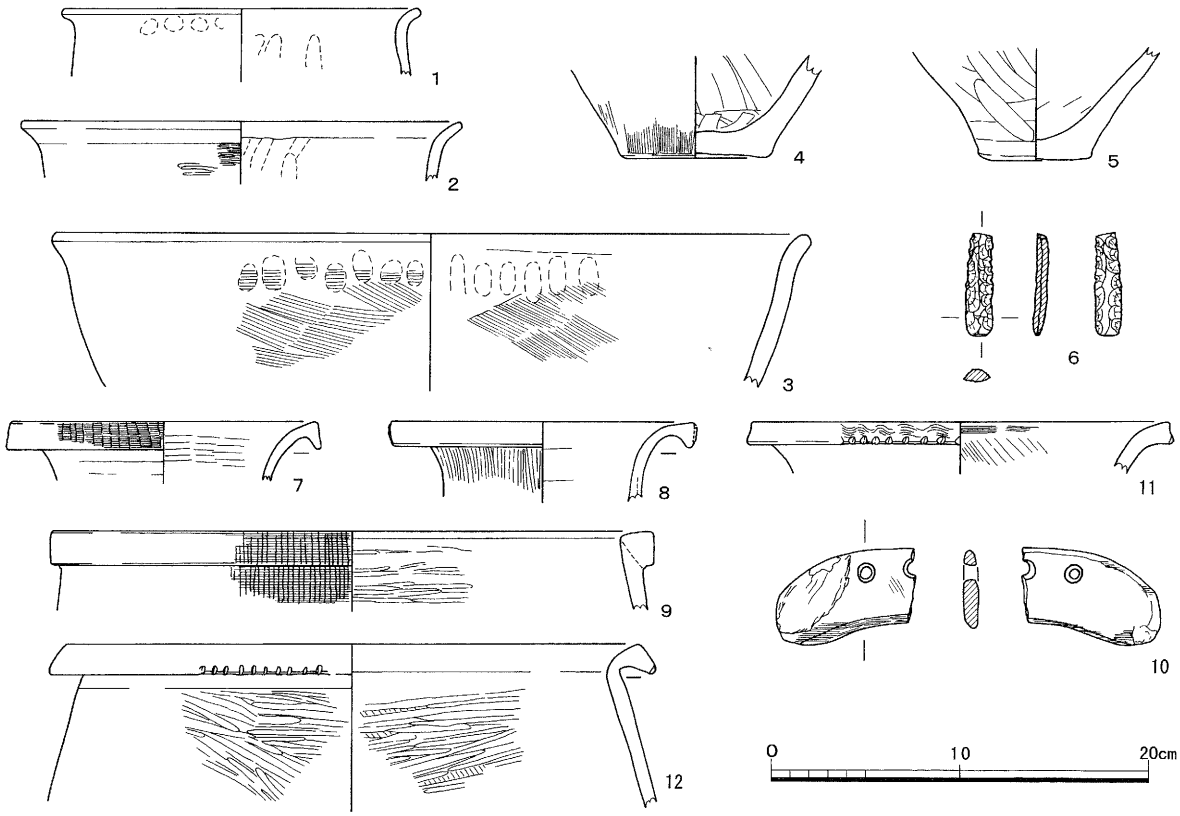
第26図　平断面図（Ｓ＝１/100）

【検出遺構】**第２区**で弥生時代中期の土坑２基（ＳＫ１・ＳＫ２）を検出。

（２）**出土遺物**：ＳＫ－１出土遺物－６点（１～６）を図化した。１・２は甕口縁部の小破片である。共に口縁部が短く外反する如意形口縁である。３は復元口径 39.6 ㎝を測る大形鉢である。１～３は生駒西麓産。４・５は底部で、４が壷、５が甕と推定される。共に生駒西麓産。１～５は弥生時代中期前半のものか。６はサヌカイト製の石鏃で先端を欠く。平基無茎式に分類される大型品である。全体に調整剥離が施されており、側辺のエッジは鋭い。

第１区４層出土遺物－２点（11・12）を図化した。11 は広口壷である。外傾する口縁端面に波状紋、口縁端面下端に刻み目が施されている。12 は大形甕で、口縁部は下方に折れ曲がりやや長く伸びる。口縁端面下端に刻み目が施されている。共に生駒西麓産。弥生時代中期中葉に比定される。

第２区２層出土遺物－４点（７～10）を図化した。７・８は広口壷。７は口縁部端面に簾状文、８は竹管押圧円形浮文が施文されている。７が弥生時代中期後半、８が弥生時代後期前半に比定される。９は大形鉢の口縁部である。復元口径 31.8㎝を測る。口縁部および体部外面に簾状文が施文されて



第 27 図　出土遺物実測図（Ｓ＝１/4）

いる。７が弥生時代中期後半に比定される。７～９は生駒西麓産。10 は石庖丁で、約 1/2 が残存している。内彎刃形態で刃部は両刃である。紐孔は９㎜で紐孔間の距離は1.5㎝を測る。石材は緑色片岩。

（３）まとめ：**第１・２区**共に弥生時代中期～後期の遺物包含層および**第２区**で中期の遺構を検出した。当該期の集落については、昭和 50 ～ 53 年に瓜生堂遺跡調査会が恩智川改修工事に伴う調査、平成 13 年度に(財)八尾市文化財調査研究会が行った第 11 次調査で (OJ2001 － 11) で検出されており、これらの調査区との有機的な関係が想定される。　(原田)

参考文献

・田代克己他　1980 『恩智遺跡Ⅰ』瓜生堂遺跡調査会

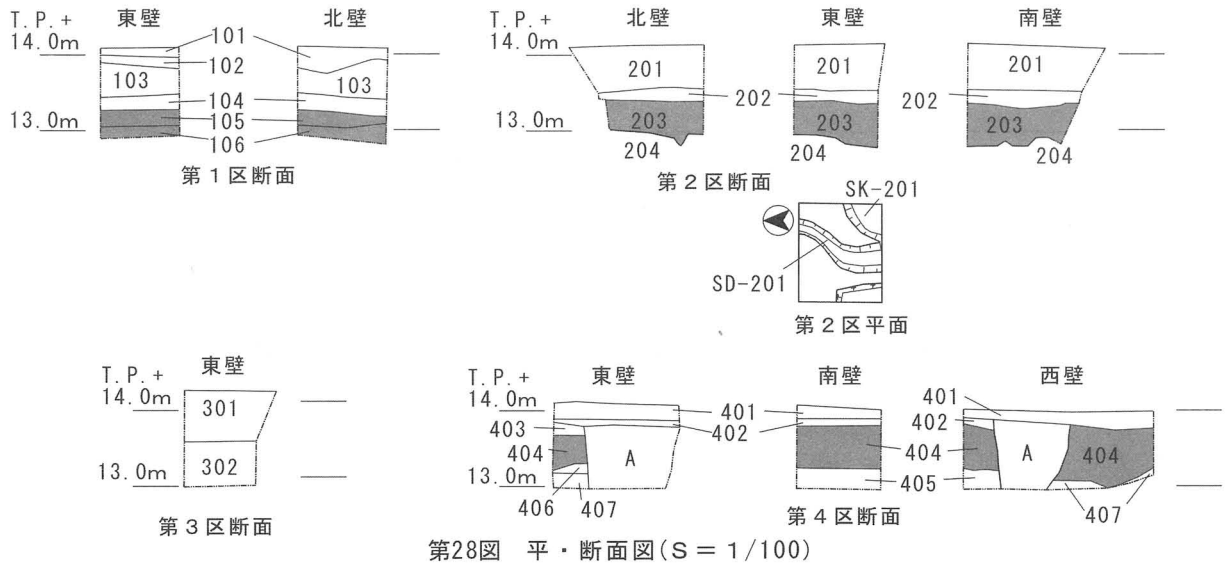
・森本めぐみ　2003 「Ⅳ　恩智遺跡（第 11 次調査）」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告 75』財団法人八尾市文化財調査研究会

４－３．恩智遺跡 (2005-254) の調査　【第５図　図版７】

（１）調査概要：建設予定地内の人孔部分に２ｍ×２ｍの調査区を４箇所設定し、工事深度に準じて現地表（T.P. ＋ 14.0 ｍ）下約 1.5 ｍ前後までの掘削を実施した。なお、調査区は北側西より**第１区**、北側東を**第２区**、南側西を**第３区**、南側東を**第４区**と呼称した。なお、**第１・２区**、**第３・４区**の間の開掘部分については、市教委による立会を行う。

＜層序＞**第１区**－６層を確認。101 は盛土。102 層は客土。103 層は 7.5YR4/2 灰褐色シルト質土。104 層は 7.5YR4/1 褐灰色粘質シルト。105 層は 7.5Y3/1 オリーブ黒色細砂。106 層は 705Y5/1 灰黒細砂である。105・106 層が弥生時代中期・古墳時代の遺物を含む層。

第２区－４層を確認。201 層は現在の盛土。202 層は整地層。203 層は 10YR2/2 黒褐色粘土質シルトで、弥生時代中期～後期の弥生土器・石器等を含む。204 層は 2.5Y8/4 浅黄色粘土質シルト。



第28図　平・断面図（Ｓ＝１/100）

第３区－２層を確認。301 層は現在の客土又は整地層。302 層は 5BG4/1 暗青灰色砂礫混じり粘質土で、近世瓦を含む。

第４区－ 401 層は盛土。402 層は現在の客土又は整地層。403 層は 10YR2/1 黒色細砂混シルト質土。404 層は 10YR8/2 灰色粘土質土で、弥生時代中期～後期の弥生土器・石器等を含む。405 層は 10YR5/1 褐灰色シルト混細砂。406 層は 10YR7/1 灰白色粘質微砂。407 層は 7.5YR5/2 灰褐色砂礫混じりシルト質土。Ａ層は近世井戸と思われる。

＜検出遺構＞

第１区－なし。105・106 層内より弥生土器・須恵器が出土。

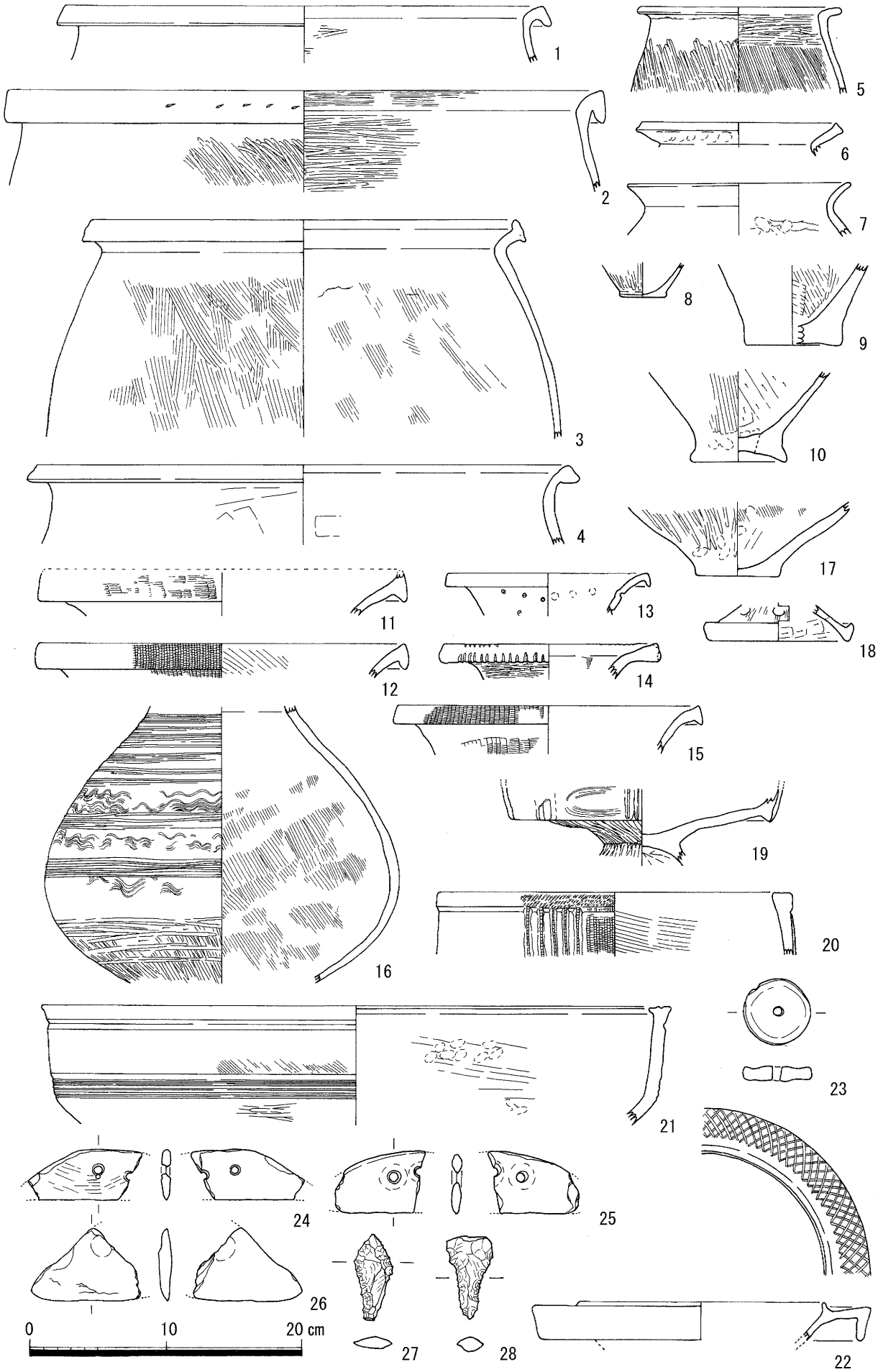
第２区－弥生時代の土坑状遺構（ＳＫ 201）１基、溝（ＳＤ 201）１条。ＳＫ 201 は、検出部で平面半円形を呈し、東西径約 0.6 m、南北径 0.4 m以上、深さ約 0.15 mを測る。埋土は 203 層とほぼ同一層で、弥生土器の小片が少量含む。ＳＤ 201 は、東西方向に走る溝で、幅 0.2 ～ 0.3 m、深さ約 0.15 m、検出長約 1.5 mを測る。埋土は 203 層とほぼ同一層で、弥生土器の小片が少量含む。203 層内より弥生時代中期～後期の弥生土器・石器（石包丁・石鏃・サヌカイト剥片）等が出土。

第３区－ 302 層内より近世の平瓦片が出土。

第４区－近世の井戸状遺構（ＳＥ 401）１基。ＳＥ 401 は南北径約 0.9 m、深さ 1.1 m以上。302 層内より近世の平瓦片が出土。

（２）出土遺物：第１～４区及び開掘部分からコンテナにして２箱分を出土した。このうち弥生時代中期を中心とする弥生土器（畿内第Ⅲ～Ⅳ様式）が８割以上を占める。以下、図化できたものについて記す。

１～10 は甕で、**１～４** は大型の甕。**５** は大きく「く」の字に屈曲する口縁部。**６** は「く」の字に屈曲し、まっすぐに伸びる口縁部に、上につまむ端部をもつ。**７** は丸く外反する口縁部をもつ。**８・９** は平底の底部片で、**８** は小型。**10** は上げ底の底部片である。すべて生駒西麓産の胎土を有する。すべて中期後半に属す。**11 ～ 15** は大きく開く口縁をもつ壺で、**11・12・15** は口縁に簾状文が施されている。**13** は外面には刺突孔が施される。**16** は壷の体部で、外面に直線文と波状文を施す。**17** は平底の壷で、生駒西麓産の胎土を有する。**18・19・22** は高杯で、中期後葉以降。**22** は受部状に垂下する端部のある杯をもち、受部面に格子状ヘラミガキを施す。生駒西麓産の胎土を有する。**20・21** は鉢。**21** は凹線文３条施す。**23** は紡錘車で、全体にナデ調整を施す。**24 ～ 26** は直線刃の半月形の石包丁で半損品である。**24・25** は緑泥片岩製、**26** は泥岩製である。**27・28** はサヌカイト製の石器で、**27** は有茎式の石鏃で、両側辺に調整剥離を加えて調整している。**28** は石錐で横長剥片に調整を加えて成形。



第 29 図　出土遺物実測図（1 ～ 26 S＝1/4　27・28 S＝1/2）

遺物番号	区名	器　種	法　量（復元径）	胎　　土	色　　調	残　存	備　考
1	２区	弥生土器　甕	口径：(35 cm)	角閃石・長石・雲母	内外：7.5yr4/1 褐灰色	口縁部 1/10	
2	４区	弥生土器　甕	体径：(26.2 cm)	角閃石・長石・雲母	内外：10YR5/4 にぶい黄褐色	口縁部 1/10	
3	４区	弥生土器　甕	口径：(31 cm)	角閃石・長石・雲母	内外：10YR5/4 にぶい黄褐色	口縁部 1/4	
4	開掘6	弥生土器　甕	口径：(39 cm)	角閃石・長石・雲母	内外：7.5YR4/1 褐灰色	口縁部 1/8	
5	２区	弥生土器　甕	口径：(14.4 cm)	角閃石・長石・雲母	外：7.5YR4/1 褐灰色 内：7.5YR6/2 灰褐色	口縁部 1/6	
6	２区	弥生土器　甕	口径：(12.2 cm)	角閃石・長石・雲母	外：10YR5/3 にぶい黄褐色 内：10YR7/2 にぶい黄橙色	口縁部 1/6	
7	１区	弥生土器　甕	口径：(16.2 cm)	角閃石・長石・雲母	内外：5Y5/4 にぶい赤褐色	口縁部 1/6	
8	開掘5	弥生土器　甕	口径：(3.3 cm)	角閃石・長石・雲母	外：2.5Y4/2 暗灰黄色 内：10YR7/2 にぶい黄橙色	底部 1/2	
9	３区	弥生土器　甕	底径：(6 cm)	角閃石・長石・雲母	内外：7.5YR5/4 にぶい褐色	底部 1/2	
10	４区	弥生土器　甕	口径：(6.7 cm)	角閃石・長石・雲母	外：10YR5/3 にぶい黄褐色 内：10YR2/1 黒色	底部 1/2	
11	開掘5	弥生土器　壺	口径：—	角閃石・長石・雲母	内外：7.5YR 橙色	口縁部 1/8	
12	２区	弥生土器　壺	口径：(26.8 cm)	角閃石・長石・雲母	外：YR4/3 褐色 内：7.5YR5/3 にぶい褐色	口縁部 1/10	
13	２区	弥生土器　壺	口径：(14.6 cm)	角閃石・長石・雲母	内外：7.5YR 褐色	口縁部 1/6	
14	２区	弥生土器　壺	口径：(15.6 cm)	角閃石・長石・雲母	内外：7.5YR4/3 褐色	口縁部 1/6	
15	開掘6	弥生土器　壺	口径：(22.1 cm)	角閃石・長石・雲母	内外：7.5YR6/3 にぶい褐色	口縁部 1/6	
16	４区	弥生土器　壺	口径：(26.2 cm)	角閃石・長石・雲母	内外：10YR5/4 にぶい黄褐色	体部 1/4	
17	２区	弥生土器　壺	底径：(5.5 cm)	角閃石・長石・雲母	内外：10YR5/3 にぶい黄褐色	底部のみ	
18	２区	弥生土器　高杯	口径：(10.0 cm)	角閃石・長石・雲母	内外：10YR6/2 灰青褐色	口縁部 1/6	
19	１区	弥生土器　高杯	—	角閃石・長石・雲母	外：10YR7/6 明黄褐色 内：10YR7/2 にぶい黄橙色	杯部 1/4	
20	２区	弥生土器　鉢	口径：(25.6 cm)	角閃石・長石・雲母	外：7.5YR5/1 褐灰色 内：7.5YR7/3 にぶい橙色	口縁部 1/12	
21	４区	弥生土器　鉢	口径：(46.0 cm)	角閃石・長石・雲母	外：7.5yr7/6 橙色 内：7.5yr7/1 明褐灰色	口縁部 1/10	
22	２区	弥生土器　高杯	口径：(18 cm)	角閃石・長石・雲母	内外：10YR6/3 にぶい黄橙色	口縁部 3/4	
23	２区	弥生土器　紡錘車	径：4.9 cm 厚み：1.1 cm 尖孔：7.5 cm	角閃石・長石・雲母	内外：2.5Y7/3 浅黄色	口縁部 1/4	
24	２区	石器　石包丁	幅：3.7 cm 厚み：6.5 cm	—	7.5Y5/1 灰色	1/2	
25	２区	石器　石包丁	幅：3.7 cm 厚み：7 cm	—	7.5Y5/1 灰色	1/2	
26	開掘6	石器　石包丁	幅：5.4 cm 厚み：9 cm	—	10Y5/1 灰色	1/3	
27	２区	石器　石鏃	長さ：3.2 cm 厚み：4.2 cm	—	7.5Y5/1 灰色	完形	
28	２区	石器　石錘	長さ：3.0 cm 厚み：5.5 cm	—	7.5Y5/1 灰色	ほぼ完形	

（３）まとめ：今回の調査では、**第１区**と**第２区**で厚く堆積する弥生時代の遺物包含層を確認した。包含層内には弥生時代中期～後期の弥生土器・石器類が多数含まれていた。また、遺構の存在も確認された。さらに調査地の北部及び南部で行われた遺構確認調査でも厚く堆積する弥生時代の遺物包含層を確認しており、広範囲に存在することが予想される。

第３区では近世の瓦を含む層。**第４区**では弥生時代の遺物包含層を切り込んで掘られた井戸状遺構が検出しており、当地が近世から居住域として利用されていたことがうかがわれる。　（高萩千秋）

参考文献

・田代克己他　1980 『恩智遺跡Ⅰ』瓜生堂遺跡調査会

・嶋村友子　1987 『八尾市内遺跡昭和 61 年度発掘調査報告書Ⅰ―恩智遺跡の調査―』八尾市教育委員会

・森本めぐみ　2003 「Ⅳ　恩智遺跡（第 11 次調査）」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告 75』財団法人八尾市文　化財調査研究会

4－4．恩智遺跡（2005-199）の調査 【第5図　図版8】

（1）**調査概要**：浄化槽設置部分に1箇所（3.0×4.0ｍ）、住宅建設予定地内に2.0×2.0ｍ2箇所の合計3箇所。総面積20.0㎡。東から**第1区～第3区**と呼称。調査で使用した標高値は、八尾市作成地図（1/2500）に記載されている標高値（調査地の西側約50ｍの道路上:海抜12.4ｍ）を使用した。

第1区は現地表下1.9ｍまで掘削したところで、壁面崩落が予見されたため、以下の掘削を断念せざるを得なかった。

【地層】

0層：盛土・客土・撹乱埋土

1層：2.5Y4.5/2礫混じる砂質シルト層

2層：10YR4/2砂礫質シルト層（上部は酸化鉄分、下部は酸化マンガン斑沈着）

3層：10YR4/3砂礫質シルト層

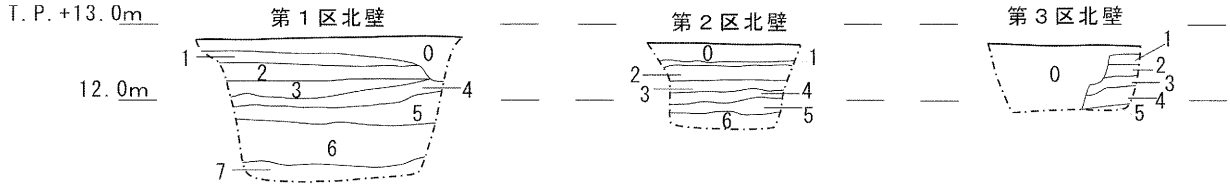
4層：10YR4/4砂礫質泥層（シルト寄り）

5層：10YR5/4砂礫質泥層（礫は径5㎝程度までのものを主に上部に含む）

6層：2.5Y4/2泥質砂礫層（礫は径15㎝程度まで）

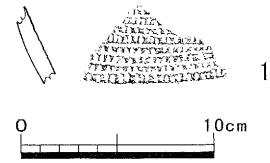
7層：5Y3/1泥質砂礫層

【検出遺構】なし



第30図　地層断面図（S＝1/100）

（2）**出土遺物**：**第1区**の6・7層より弥生土器と見られる土器片少量。このうち1点（1）を図化した。1は弥生土器壷。頸部と見られる小片。外面に5㎜前後の間隔を持つ多条沈線を施し、沈線間に細かい縦方向の刻み目を施す。内面の器面調整は、不明瞭。胎土中に生駒西麓産の角閃石を含む。弥生時代前期新段階。



第31図　出土遺物実測図（S＝1/4）

（3）**まとめ**：2層以下は無層理の砂礫質泥層・泥質砂礫層で、上方（東側？）から流れ込んだ泥流堆積物と見られ、かつては周辺より低い谷状の地形であったと推測される。（荒川和哉）

参考文献

・田代克己他　1980『恩智遺跡Ⅰ』瓜生堂遺跡調査会

4－5．恩智遺跡（2005-200）の調査 【第5図　図版8】

（1）**調査概要**：浄化槽設置部分に1箇所（2.0×4.0ｍ）、住宅建設予定地内に2.0×2.0ｍ2箇所の合計3箇所。総面積16.0㎡。北から**第1区～第3区**と呼称。調査で使用した標高値は、八尾市作成地図（1/2500）に記載されている標高値（調査地の西側約80ｍの道路上:海抜12.4ｍ）を使用した。

第1区は現地表下1.9ｍまで掘削したところで、壁面が崩落したため、以下の掘削を断念せざるを得なかった。

【地層】

0層：盛土・客土・撹乱埋土

1層：2.5Y4.5/2 礫混じる砂質シルト層（**第１区**）

2.5GY3/1 礫混じる砂質シルト層（**第２・３区**）

2層：10YR4/2 砂礫質シルト層（上部は酸化鉄分、下部は酸化マンガン斑沈着）（**第１区**）

2.5Y4/1 泥質砂礫層（**第２・３区**）

3層：10YR4/3 砂礫質シルト層

4層：10YR4/4 砂礫質泥層（シルト寄り）

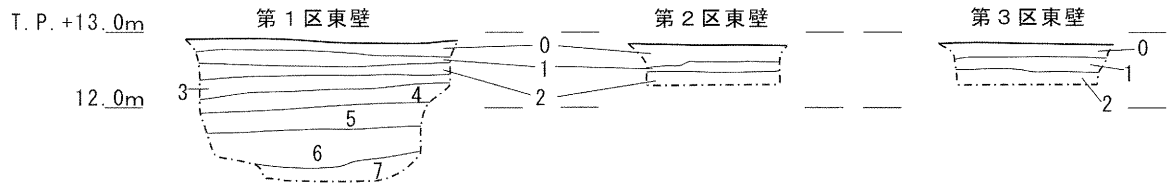
5層：10YR5/4 砂礫質泥層（礫は径 10cm 程度までのものを主に上部に含む）

6層：2.5Y4/2（下部は 5Y3/1 を呈する）泥質砂礫層（礫は径 15cm 程度まで）

7層：5Y3/1 泥質砂礫層

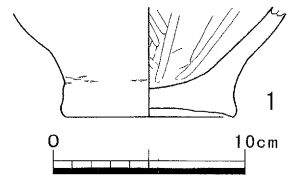
【検出遺構】なし

【出土遺物】**第１区**の５層より弥生土器を含む土器片少量。中１点は、壺の底部と見られる。



第32図　地層断面図（S＝1/100）

（２）出土遺物：弥生土器壷（１）。底部～体部下半の一部。突出した平底で裏面は窪み、斜上方に立ち上がる体部を持つ。器面調整は、外面は横ナデを多用し、内面は縦方向の単位幅の狭い工具によるナデを施す。内外面に、一部板状工具痕が残る。外底面には指押えナデを施す。胎土中に生駒西麓産の角閃石を含む。弥生時代前期ないし中期のものか。（荒川）



第 33 図　出土遺物実測図（S＝1/4）

（３）まとめ：２層以下は無層理の砂礫質泥層・泥質砂礫層で、上方（東側？）から流れ込んだ泥流堆積物と見られ、かつては周辺より低い谷状の地形であったと推測される。

参考文献

・高萩千秋　1989「Ⅲ　恩智遺跡（第１次調査）」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』（財）八尾市文化財調査研究会報告 23　（財）八尾市文化財調査研究会

５．楽音寺遺跡　【第６図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
2005-327	20051201	楽音寺３丁目12番・13番	個人住宅：浄化槽（遺構確認調査）	2.0×2.0m深さ2.0m：1箇所（4㎡）	T.P.＋16.5以下砂層。遺物なし	西村

６．亀井遺跡　【第６図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
2005-344	20051212	亀井町１丁目22番２	分譲住宅：人孔（遺構確認調査）	2.0×2.0m深さ2.0m：3箇所（12㎡）	T.P.＋8.8m前後で、中世の遺構を１箇所検出。土師器破片出土	西村

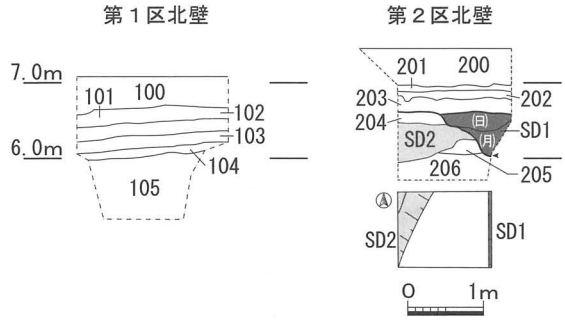
7．萱振遺跡 【第６図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
2005-49	20050629	緑ケ丘１丁目６番の一部	分譲住宅：人孔（遺構確認調査）	2.0×2.0ｍ深さ2.0ｍ：２箇所（８㎡）	詳細は［７－１］に記載。	樋口
2005-99	20050719	萱振町４丁目38-4、38-7、44-9	分譲住宅：人孔（遺構確認調査）	1.5×1.5ｍ深さ1.2～1.8ｍ：３箇所（6.75㎡）	T.P.＋5.4～4.3ｍ砂層。河川。遺物なし。	原田

7－１．萱振遺跡（2005-49）の調査 【第６図 図版９】

（１）**調査概要**:規模約2.0×2.0ｍ、面積約4.0㎡２ヶ所（西から**第１・２区**）について、現地表（T.P.＋7.1～7.5ｍ前後）下2.0ｍ前後までを調査。レベル高は、八尾市作成１/2500地図に記載のレベル高値（調査地北東部に位置する市道のセンター：T.P.＋7.0ｍ）を使用した。

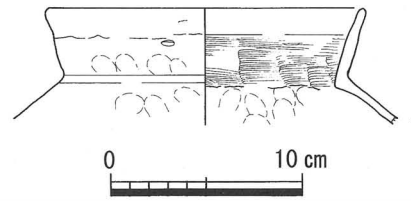
【地層】（**第１区**）現地表（7.1ｍ）下0.4ｍ前後までは、客土・盛土（100層）。以下現地表下2.0ｍ前後までの1.6ｍ間において５層の地層を確認した。101・102層はにぶい褐色～にぶい黄橙色粘土質シルト～シルト。土師器や瓦器細片が混在する硬く締まった地層で、整地層の可能性が高い。103層は灰黄褐色粘土質シルト。104層は褐色粘土質シルト～細粒砂。下位に堆積する105層水成層の土壌化部分に相当、古墳時代前期に比定される。105層は褐灰色粗粒砂～極粗粒砂。水平ラミナ構造が発達している。（**第２区**）現地表（7.5ｍ）下0.5ｍ前後までは、客土・盛土（200層）。以下現地表下2.0ｍ前後までの1.5ｍ間において６層の地層を確認した。201層は灰色粘土質シルト（旧耕作土）。202層はオリーブ灰色粘土質シルト。グライ化の進行した攪拌層で、水田耕作土と推測される。203層は黄灰色粘土質シルト。土師器細片が混在する。204層は黒褐色粘土質シルト。土壌化層である。205層はにぶい黄橙色シルト。下位に堆積する206層水成層の土壌化部分に相当する。206層はにぶい黄色粘土質シルト～シルト。水成層である。



第34図 出土遺物実測図（Ｓ＝1/100）

【検出遺構】**第２区**において溝を２条検出した。**ＳＤ１**は204層より構築（203層下面検出遺構の可能性あり）の、南北方向に直線的に伸びる溝と推測される。本調査では西肩を検出したのみで、規模等は不明な点が多い。埋土は２層のブロック土から成る。埋土には土師器や須恵器の細片が混在するが、時期は不明。**ＳＤ２**は204層下面で検出の南西－北東方向に直線的に伸びる溝と推測される。本遺構も東肩を検出したのみで、不明な点が多い。埋土はブロック土（土師器細片混在）の単層である。

（２）**出土遺物**：なし。ただし、今回設定した調査区（**第１・２区**）を結ぶ開削部分について、市教委が立会調査を実施したところ、古式土師器細片が数片出土した。これらの遺物は、**ＳＤ２**に伴う遺物の可能性が高い。以下では、図化できた壺（１）について概説を行う。１は古式土師器壺の口縁端部～肩部細片。口縁部は直線的に上外方に伸び、端部は丸く終わる。頸部内面の屈曲は比較的鋭利である。調整は、外面が口縁部～肩部：指頭成形後横ナデ、内面が口縁端部:横ナデ、口縁部:横位ハケナデ（9～10本/cm）、肩部：指頭成形である。色調はにぶい黄橙色（10YR7/2）を呈し、胎土には極粗粒砂～２㎜大細礫が混在する。全体的に作りは粗雑で、粘土接合痕が目立つ。



第35図 出土遺物実測図（Ｓ＝1/4）

（３）まとめ：本調査地の南東方面では、これまでに府教委と当調査研究会による調査が行われ、古墳時代初頭～前期の居住域や墓域、後期の古墳、鎌倉時代の鋤溝を中心とした生産関連遺構等を検出した。本調査でも**第２区**で溝を２条検出、この内ＳＤ２は、河川堆積物が土壌化した段階で構築された遺構の可能性が高く、既往の成果を参照すると古墳時代初頭～前期に帰属時期を求めることが可能である。またＳＤ１は、ＳＤ２を切っていることから、古墳時代前期よりは新しい遺構であり、したがって、古墳時代後期～中世のいずれかに属すると推測される。（樋口）

参考文献

・西村公助　1990「萱振遺跡発掘調査概要報告－第２次・第３次発掘調査－」『(財) 八尾市文化財調査研究会報告 20』(財) 八尾市文化財調査研究会

・大野　薫他　1983.3『萱振遺跡発掘調査概要Ⅰ　八尾市緑ヶ丘２丁目所在』大阪府教育委員会

８．木の本遺跡　【第６図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
2005-154	20050825	南木の本５丁目60－１・60－２	分譲住宅：人孔（遺構確認調査）	1.5×1.5ｍ深さ1.6ｍ：1箇所(2.25㎡)	遺構・遺物なし	原田
2005-274	20051124	南木の本八丁目128番・129番	共同住宅：基礎　浄化槽（遺構確認調査）	2.85×4.1ｍ深さ3.0ｍ:２箇所2.5×2.5ｍ深さ2.5ｍ:２箇所(24.185㎡)	T.P.＋9.2～9.3ｍ粘土層。古代条里水田に相当する。遺物なし	坪田

９．久宝寺遺跡　【第７図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
2005-37	20050610	久宝寺１丁目205番３・205番１の一部	分譲住宅：人孔（遺構確認調査）	1.5×1.5ｍ深さ2.0ｍ：4箇所（９㎡）	T.P.＋7.0ｍ前後砂層。河川堆積。遺物なし	樋口
2005-3	20050623	久宝寺６丁目25番１	分譲住宅：人孔（遺構確認調査）	2.0×2.0ｍ深さ1.4ｍ：２箇所（８㎡）	T.P.＋6.5ｍ砂層。河川堆積。遺物なし	原田
2005-191	20050902	久宝寺１丁目52-1	個人住宅：基礎（遺構確認調査）	2.0×2.0ｍ深さ2.5ｍ：１箇所（４㎡）	T.P.＋6.0～7.3ｍ砂層。遺物なし	高萩
2005-144	20050912	南久宝寺１丁目１番２の一部・１番３	分譲住宅：人孔（遺構確認調査）	2.0×2.0ｍ深さ1.5～2.0ｍ：８箇所(32㎡)	平安～中世遺物出土。	岡田

10．久宝寺寺内町　【第７図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
2004-431	20050713	久宝寺４丁目55-１.57-１の一部	分譲住宅：人孔（遺構確認調査）	2.0×2.0ｍ深さ2.0ｍ：１箇所(4㎡)	近世後半－溝。近世後半－陶磁器類、屋瓦	原田

11．郡川遺跡　【第８図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
2005-137	20050920	垣内１丁目25番２	長屋住宅：浄化槽（遺構確認調査）	2.5×2.5ｍ深さ2.5ｍ：(6.25㎡)	T.P.＋9.5～10.0ｍ砂層。遺物なし。	高萩

12. 小阪合遺跡 【第８図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
2005-44	20050603・06・07	若草町１番10号	病院：基礎（遺構確認調査）	3.0×3.0ｍ深さ3.0～4.0ｍ：10箇所（90㎡）	詳細は[12-１]に記載。	原田

12-１. 小阪合遺跡（2005-44）の調査 【第８図　図版10】

（１）**調査概要**:建設予定地内に３ｍ四方の調査区を10箇所（**第１～10区**）設定した。掘削深度は１・２・５・６区が現地表下４ｍ、３・４・７～10区は現地表下３ｍ迄の掘削を実施した。調査で使用した標高値は八尾市作成（1/2500）に記載されているT.P.＋8.1ｍ（若草町）である。

【層序】各調査区ともに１～３層（T.P.＋7.8～7.0ｍ）までは褐色系で砂質シルトが優勢な層相で、土師器・須恵器・瓦器を含む地層である。各層ともに奈良時代以降の遺構ベース面になるものと考えられる。**第２～４区**ではT.P.＋7.0～6.3ｍで河川に関連した堆積層（**第２区**－５層、**第３区**－４-１～４-５層、**第４区**－４層）を検出した。調査地の北西部では、府センター調査の98－５・６区で大量の皇朝十二銭等が出土した奈良時代の川200・川719が検出されており、この河川に続くものと推定される。**第３区**付近が河川の流芯部と推定され、**第３区**の４-５層からは奈良時代に比定される土師器・須恵器・屋瓦等の遺物が出土している。**第５～10区**においては、**第６区**のT.P.＋7.15ｍを最高点とする洪水砂層（**第６区**－５～８層、**第７区**－12・13層、**第８区**－９・10層、**第９区**－12～14層、**第10区**－８・９層）を検出した。**第９区**の南壁では、自然堤防状を呈する部分が認められた。同洪水砂層は府センター調査の02－２・３区でも検出されており、いわゆる小阪合分流路跡の流路充填堆積物と推定される。本調査では**第９区**の14層から古墳時代初頭の土師器が極少量出土したのみであるが、府センターの02－３区では古墳時代前期後半（布留式新相）以前の遺物が出土している。洪水砂層が存在しない**第１～４区**については、**第１区**で６層以下、**第２区**で８層以下、**第３区**で５層以下、**第４区**で６層以下が粘土～粘土質シルトが優勢な層相の連続で遺物の出土は皆無である。

（２）**出土遺物**：５点（１～５）を図化した。１～４は**第３区**で検出した自然河川の埋土である４・５層から出土した。１・２が土師器杯、３が土師器椀である。４は須恵器薬壺の蓋で約1/4が残存している。天井部の外面に自然釉が降着している。１～４は平安時代前期。５は東四国系の古式土師器甕で、**第９区**で検出した自然河川の堆積層である14層から出土した。胎土からみて讃岐地方を中心とする「下川津Ｂ類」甕と推定される。時期的には古墳時代前期前半（布留式古相）のものか。

（３）**まとめ**：各調査区の１～３層において奈良時代以降の遺構ベース面を確認した。**第５～10区**においては、いわゆる小阪合分流路跡の流路充填堆積物と推定される地層の広がりが確認できた。

（原田）

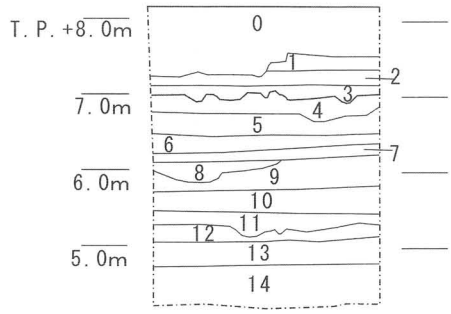
参考文献

・駒井正明他2000『八尾市若草町所在　小阪合遺跡　都市基盤整備公団八尾団地建替えに伴う発掘調査報告書』（財）大阪府文化財調査研究センター調査報告書　第51集　（財）大阪府文化財調査研究センター

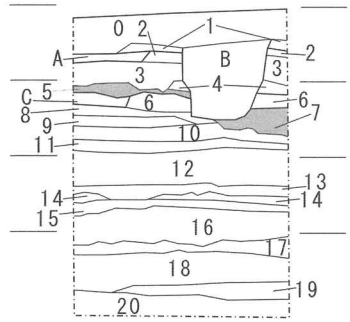
・本間元樹他　2004『八尾市　小阪合遺跡（その２）　八尾団地（建替）埋蔵文化財発掘調査（第２次）』（財）大阪府文化財センター調査報告書　第116集　（財）大阪府文化財センター

・金光正裕他　2005『八尾市　小阪合遺跡（その３）　山本団地建替えに伴う埋蔵文化財発掘調査報告』（財）大阪府文化財センター調査報告書　第132集　（財）大阪府文化財センター

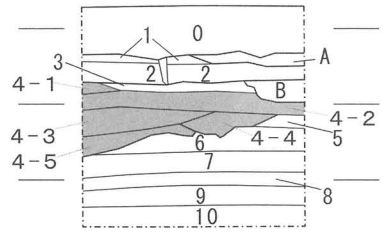
第１区　南壁



第２区　南壁



第３区　北壁

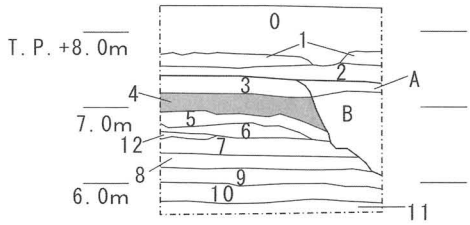


第１区
０　客土
１　N7/0灰白色砂質シルト（Fe）
２　10YR6/2灰黄褐色砂質シルト（Fe・Mn）
３　5Y6/1灰色砂質シルト（Fe・Mn）
４　10YR6/2灰黄褐色砂質シルト
５　5B7/1明青灰色シルト混粘土
６　N6/0灰色粘土
７　10GY7/1明緑灰色粘土（粘性強・Fe）
８　2.5GY5/1明オリーブ灰色粘土（粘性強い）
９　10GY8/1明緑灰色シルト～極細粒砂
10　N6/0灰色シルト質粘土
11　10GY7/1明緑灰色粘土質シルト
12　N4/0灰色シルト質粘土（粘性弱・黒色帯）
13　10GY7/1明緑灰色シルト質粘土と12層の互層
14　10GY7/1明緑灰色粘土（Fe）

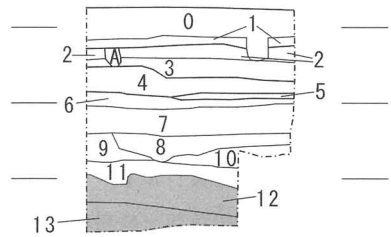
第２区
１　１区１層同じ
２　１区２層同じ
３　１区３層同じ
４　5Y6/1灰色細礫混砂質シルト
５　10YR7/6明黄褐色細～中粒砂
６　１区４層同じ
７　10YR7/6明黄褐色中粒砂
８　N5/0灰色粘土質シルト
９　１区５層同じ
10　１区６層同じ
11　１区７層同じ
12　１区８層同じ
13　１区９層同じ
14　１区10層同じ
15　１区11層同じ
16　１区12層同じ
17　１区13層同じ
18　N6/0灰色粘土質シルト
19　10GY7/1明緑灰色粘土質シルト
20　N6/0灰色シルト質粘土
遺構内埋土
Ａ　7.5Y6/1灰色砂質シルト
Ｂ　5Y6/2灰オリーブ色砂質シルト
Ｃ　10BG7/1明青灰色粘土質シルト

第３区
０　客土
１　１区１層同じ
２　１区２層同じ
３　１区３層同じ
４-１　10YR7/6明黄褐色細～中粒砂
４-２　2.5GY7/1明オリーブ灰色細～粗粒砂
４-３　10BG7/1明青灰色～10YR6/6明黄褐色細～粗粒砂
４-４　10GY6/1緑灰色中～細粒砂
４-５　N8/0灰白色中～粗粒砂（土師器・須恵器・屋瓦等の奈良時代の遺物を含む）
５　N5/0灰色粘土質シルト（Fe）
６　１区５層同じ
７　１区６層同じ
８　１区７層同じ
９　１区８層同じ
10　１区９層同じ
遺構内埋土
Ａ　N6/0灰色砂質シルト
Ｂ　10YR4/1褐灰色砂質シルト

第４区　北壁



第５区　南壁

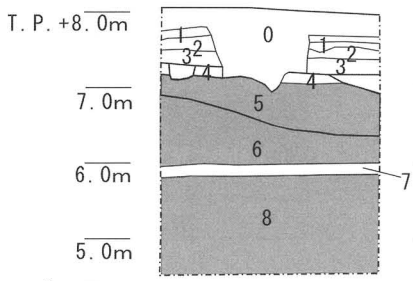


第４区
０　客土
１　１区１層同じ
２　１区２層同じ
３　１区３層同じ
４　7.5YR5/6明赤褐色～N8/0灰白色極細～極粗粒砂（河川）
５　N6/0灰色～5Y7/1灰白色シルト～極細粒砂（不均質）
６　N5/0灰色粘土質シルト（Fe）
７　１区５層同じ
８　１区６層同じ
９　１区７層同じ
10　１区８層同じ
11　１区９層同じ
遺構内埋土
Ａ　10YR6/2灰黄褐色砂質シルト
Ｂ　Ａ層に10GY7/1明緑灰色シルト質粘土の互層

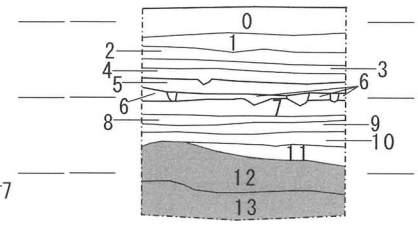
第５区
０　客土
１　１区１層同じ
２　１区２層同じ
３　１区３層同じ
４　2.5Y6/2灰黄色砂質シルト（Fe・Mn）
５　2.5GY7/1明オリーブ灰色砂質シルト（Fe）遺構内埋土
６　１区４層同じ
７　１区５層同じ
８　１区６層同じ
９　5Y8/4淡黄色極細粒砂
10　10GY6/1緑灰色粘土
11　10GY6/1緑灰色中粒砂混シルト質粘土
12　10YR8/8黄橙色中粒砂
13　10GY6/1緑灰色シルト～中粒砂
遺構内埋土
Ａ10YR5/1褐灰色砂質シルト

第36図　第１～５区地層断面図（Ｓ＝１/100）

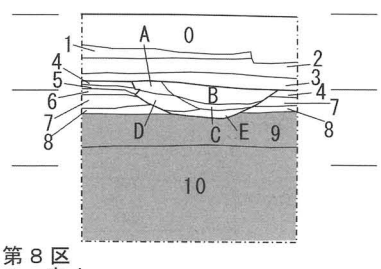
第６区　南壁



第７区　南壁



第８区　北壁

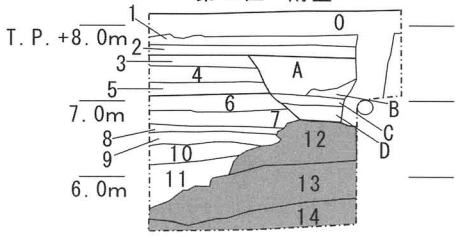


第６区
０　客土
１　１区１層同じ
２　１区２層同じ
３　１区３層同じ
４　2.5Y6/2灰黄色砂質シルト
　（中礫を含む　Fe・Mn）
５　7.5Y7/1灰白色中粒砂（河川）
６　2.5Y7/3浅黄色細～粗粒砂
　（上部7.5Y6/1灰色粘土質シルトのラミナ　河川）
７　10GY4/1明緑灰色シルト質粘土
８　2.5Y7/6明黄褐色中～極粗粒砂
　（河川）
遺構内埋土
Ａ　10YR5/1褐灰色砂質シルト
Ｂ　5Y7/2灰白色粘土質シルト

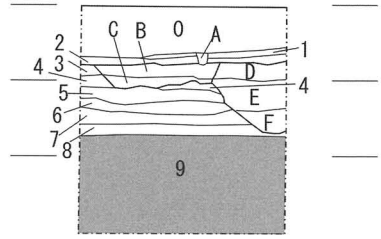
第７区
０　客土
１　１区１層同じ
２　１区２層同じ
３　１区３層同じ
４　10YR6/1褐灰色砂質シルト
５　10YR5/1褐灰色砂質シルト
　（瓦器椀を含む）
６　5Y7/2灰白色砂質シルト
７　１区４層
８　2.5Y6/1黄灰色粘土質シルト
９　2.5Y6/1黄灰色シルト質粘土
10　10BG6/1青灰色粘土質シルト
11　10BG6/1青灰色粘土
12　7.5Y8/1灰白色極細～中粒砂
13　5Y7/1灰色極細～中粒砂

第８区
０　客土
１　１区１層同じ
２　１区２層同じ
３　１区３層同じ
４　10YR6/4にぶい黄橙色砂質シルト
　（Fe・Mn）
５　10YR4/2灰黄褐色中礫混砂質シルト（Mn）
６　10YR6/1褐灰色砂質シルト（Mn）
７　１区４層同じ（須恵器を含む）
８　10YR4/1褐灰色砂質シルト
　（古式土師器を含む）
９　2.5Y6/1灰色黄灰色極細粒砂～中礫
10　7.5Y7/2灰黄色中～中礫
遺構内埋土
Ａ　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト
Ｂ　10YR5/1褐灰色砂質シルト
Ｃ　10Y5/1灰色砂質シルト
Ｄ　2.5Y5/1黄灰色砂質シルト

第９区　南壁



第10区　南壁

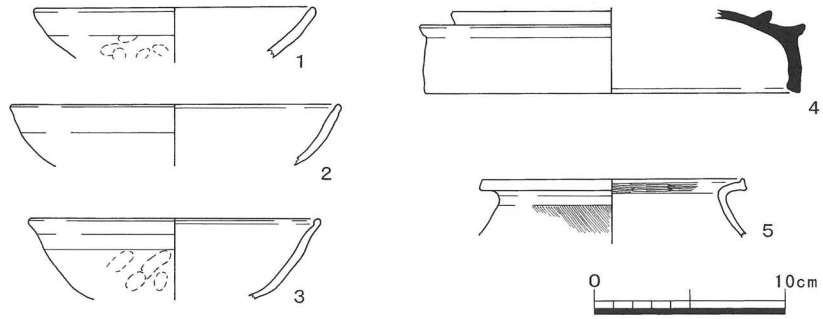


第９区
０　客土
１　１区１層同じ
２　１区２層同じ
３　１区３層同じ
４　10YR6/1褐灰色砂質シルト
５　10YR5/1褐灰色砂質シルト（瓦器椀を含む）
６　１区４層同じ
７　１区５層同じ
８　2.5Y6/1黄灰色粘土質シルト
９　2.5Y6/1黄灰色シルト質粘土
10　10BG6/1青灰色粘土質シルト
11　10BG6/1青灰色粘土
12　10YR7/2にぶい黄橙色粗～極粗粒砂
13　10YR8/4浅黄橙色中粒砂～極粗粒砂
14　7.5YR6/6橙色粗粒砂～中礫（土師器片出土）
　（12～14層は河川の自然堤防）
遺構内埋土
Ａ　10YR5/2灰黄褐色砂質シルト
Ｂ　10YR6/4にぶい黄橙色砂質シルト
Ｃ　10YR5/1褐灰色砂質シルト
Ｄ　10YR5/1褐灰色中～極粗粒砂

第10区
０　客土
１　１区１層同じ
２　１区２層同じ
３　１区３層同じ
４　10YR5/1褐灰色砂質シルト
５　１区４層同じ
６　10YR4/1褐灰色砂質シルト（Mn）
７　10YR8/4浅黄橙色～10YR8/1灰白色極細粒砂
８　2.5Y7/1灰白色極細粒砂
９　2.5Y8/4淡黄色極細～中粒砂

遺構内埋土
Ａ　N5/0灰色砂質シルト
Ｂ　10YR5/1褐灰色砂質シルト
Ｃ　10YR6/1褐灰色砂質シルト
Ｄ　10YR4/1褐灰色砂質シルト
Ｅ　10YR6/1褐灰色砂質シルト
Ｆ　N5/0灰色粘土質シルト

第37図　第６～10区地層断面図（Ｓ＝１/100）



第38図　出土遺物実測図（Ｓ＝１/４）

13. 佐堂遺跡 【第８図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
2005-170	20051109	末広町４丁目 56 番地の一部	共同住宅：基礎（遺構確認調査）	2.5 × 2.5 m 深さ 2.5 ～ 3.0 m：２箇所（12.5 ㎡）	T.P. ＋6.6 前後土壌化層。古代末～中世か？遺物なし。	坪田

14. 成法寺遺跡 【第８・９図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
2005-86	20050620	高美町１丁目 64 番１	分譲住宅：人孔（遺構確認調査）	1.5 × 3.0 m深さ 1.5 m：２箇所（9 ㎡）	遺構・遺物なし	西村
2004-448	20050804	陽光園１丁目 22, 23 の一部	グループホーム建設:基礎（遺構確認調査）	3.0 × 3.0 m深さ 3.0：２箇所（18 ㎡）	遺構・遺物なし	岡田

15. 田井中遺跡 【第 10 図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
2005-299	20051214	田井中３丁目 64 番 1、64 番 5、64 番 6. 65 番 2	分譲住宅：人孔（遺構確認調査）	2.0 × 2.0 m深さ 2.0 m：２箇所（８㎡）	鎌倉時代初頭相当の水田作土検出。遺物なし	坪田

16. 高安古墳群 【第９図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
2004-376	20050518	恩智中町５丁目 14 及び 15 の一部	本堂・集会所建設：基礎（遺構確認調査）	1.0 × 1.0 m深さ 1.0 m：２箇所（２㎡）	遺構・遺物なし	樋口
2004-211	20050729 ～ 0901	黒谷４丁目６番・14 番・15 番・16 番・17 番の一部・36 番５・131 番２・139 番から 152 番・153 番の一部・157 番・160 番の一部・161 番の一部・162 番から 171 番・172 番の一部	分譲住宅：基礎（遺構確認調査）	第１～ 13 区 13 箇所（262 ㎡）。規模は本文中に記載した。	詳細は［16- １］に記載。	西村 高萩
2005-88	20050818・24・29・30	郡川六丁目 165 番	分譲住宅：駐車場（遺構確認調査）	2.0 m × 2.0 m 深さ 1.3 m：２箇所（８㎡）	土師器、須恵器の破片少量出土。	原田

16- １. 高安古墳群 (2004-211) の調査 【第９図　図版 11 ～ 14】

（１）**調査概要**：計画地内に 13 箇所の調査区を設定し調査を行った。調査順に**第１区～第 13 区**と呼称する。**第１区**は調査地のほぼ中央に位置する。**第１区**の北西側に**第２・５・７区**、南側に**第８区**、南西側に**第３・11・12・13 区**、南東側に**第４- １・４- ２・４- ３・４- ４・６- １・６- ２・９・10 区**が位置する。

レベル高は八尾市作成 1/2500 地図に記載されている値（調査地の南西側約 100 m地点:T.P. +59.8 m）を使用した。なお、調査中に新たな T.P. 値（調査地の北東隅：T.P. ＋ 57.380 m）が判明したためこれを最終的に採用することとした。（以前の数値より－ 1.539 m低い数値が新たな T.P. 値である。）したがって、記録した図面の T.P. 値は新たな値に記入しなおした。

第１区（規模１×８m）:現地表（東側T.P. ＋44.9m・西側T.P. ＋42.5m）下約2.0mまでを調査した。０層はコンクリートの破片などの産業廃棄物を含む盛土である。１層は硬くしまった 10YR7/8 黄橙色細礫で、地山層と思われる。遺構の検出および遺物の出土はなかった。

第２区（規模３×５m）:現地表（東側T.P. ＋45.5m・西側T.P. ＋44.1m）下約1.5mまでを調査した。０層はコンクリートの破片などの産業廃棄物を含む盛土である。西端の T.P. ＋ 44.1 mには径約 50 cmの石が存在しており、遺構に伴うものの可能性があると思われた。しかし、この石の裏側（東側）で、昭和か平成年代の土嚢袋が出土したため、本来この場所に構築された遺構に伴う石ではないことが判明した。

第３区（規模１×７ｍ）:現地表（東側T.P. ＋53.6ｍ・西側T.P. ＋53.3ｍ）下約1.7ｍまでを調査した。０層はコンクリートの破片なの産業廃棄物を含む盛土である。遺構の検出および遺物の出土はなかった。

第４－１区（規模１×18ｍ）：現地表（南側T.P. ＋51.8ｍ・北側T.P. ＋47.5ｍ）下約2.0ｍまでを調査した。０層はコンクリートの破片などの産業廃棄物を含む盛土である。１層は10YR3/1黒褐色細礫混粘土。２層は10YR5/8黄褐色細礫混粗粒砂で、土石流堆積と考えられる。３層は7.5YR5/8明褐色中～細礫の地山層である。４層は7.5YR5/6明褐色粗粒砂混粘土。５層は7.5YR4/1褐灰色細礫混粗粒砂である。遺構の検出および遺物の出土はなかった。

第４－２区（規模１×５ｍ）:現地表（T.P. ＋51.5ｍ）下約1.5ｍまでを調査した。０層はコンクリートの破片などの産業廃棄物を含む盛土である。１層は7.5YR5/8明褐色中～細礫の地山層である。遺構の検出および遺物の出土はなかった。

第４－３区（規模１×４ｍ）:現地表（T.P. ＋50.7ｍ）下約1.5ｍまでを調査した。０層はコンクリートの破片などの産業廃棄物を含む盛土である。１層は7.5YR5/8明褐色中～細礫の地山層である。遺構の検出および遺物の出土はなかった。

第４－４区（規模１×７ｍ）：現地表（南側T.P. ＋50.2ｍ・北側T.P. ＋47.7ｍ）下約1.0ｍまでを調査した。０層はコンクリートの破片などの産業廃棄物を含む盛土である。１層は7.5YR5/8明褐色中～細礫の地山層である。遺構の検出および遺物の出土はなかった。

第５区（規模１×16ｍ）：現地表（東側T.P. ＋42.3ｍ・西側T.P. ＋41.9ｍ）下約2.7ｍまでを調査した。０層はコンクリートの破片などの産業廃棄物を含む盛土である。１層は10YR5/8黄褐色細礫混粘土。２層は10YR6/8明黄褐色細礫混粗粒砂。３層は7.5YR5/8明褐色細礫混粗粒砂。４層は7.5YR3/3暗褐色細礫。５層は10YR7/6明黄褐色粗粒砂。６層は2.5Y6/8明黄褐色粗粒砂。７層は10YR4/6褐色細粒砂混粗粒砂。８層は10YR6/8明黄褐色中～細礫。９層は10YR2/3黒褐色粗粒砂混粘土。10層は7.5YR5/8明褐色細礫混粘質土。11層は10YR4/3にぶい黄褐色粗粒砂混粘土。12層は7.5YR3/3暗褐色細礫混粘土。13層は10YR4/2灰黄褐色細粒砂混粘土。14層は10YR5/1褐灰色細礫混粘土。15層は7.5YR3/4暗褐色細礫混粗粒砂。８層は地山層である、この層上面から南北方向に伸びる溝１条（**ＳＤ501**）を検出した。**ＳＤ501**は東西方向に伸び幅5.0ｍを測る。断面形状は浅い逆台形で、深さ約0.5ｍを測る。埋土は上からⅠ 10YR6/6明黄褐色細礫混粘土、Ⅱ 7.5YR2/1黒色粗粒砂混粘土、Ⅲ 10YR3/4暗褐色細礫混粘土、Ⅳ 2.5YR6/6明黄褐色細粒砂混粘土で、溝の西肩には拳大～人頭大程度の石が貼り付いていた。

第６－１区（規模１×16ｍ）：現地表（東側T.P. ＋58.3ｍ）下約2.0ｍまでを調査した。０層はコンクリートの破片などの産業廃棄物を含む盛土である。1層10YR5/8黄褐色細礫混粘土、2層2.5Y6/6明黄褐色細礫混粘土、３層10YR4/6褐色細～中礫、４層5Y4/1灰色細粒砂混粘土。調査区南側で0.7～1.0ｍ程度の石が南南西方向に２個並んでいることを確認した。西側は面取りがなされ、面は傾いた状態で置かれており、古墳の石室である可能性が高いと考えられる。また、並んだ石の東側は４層が堆積し、拳大～人頭大の石がまばらに見られ、これらの石は古墳に伴う石室の裏込めの石であると思われる。２個並んだ石（東側玄室袖部付近）の北側のT.P. ＋56.1～＋56.2ｍ付近では鉄製品と６世紀前半に比定できる須恵器の杯蓋が出土した。

第６－２区（規模４×７ｍ）：第６区で検出した石の部分を北西側に拡張した調査区で、古墳の玄室及び羨道を確認した。石室は片袖式横穴式石室である。石室は南南西の方向に開口している。玄室長3.2ｍ、同幅2.2ｍ、羨道長1.2ｍ以上、同幅1.1ｍを測る。玄室は最下段の石が残っていたが、北西側の最下段の石は抜き取られていた。また、羨道部分も、最下段の石が残っていた。玄室および羨道部の上部の石は後世の掘削により破壊されていた。玄室には巨石が２個倒れ込んでいた。これらの巨石は、天井石または側壁の石と思われる。なお、玄室床面より10～20㎝上の奥壁では須

恵器が、東壁では須恵器がが出土している。

第７区（規模２×５ｍ）：現地表（T.P. ＋41.5ｍ）で巨石が１個露出している部分の調査を行った。東壁の地層は０層コンクリートの破片などの産業廃棄物を含む盛土。１層 10Y2.5Y ２/1 黒色粗粒砂混粘土、２層 10YR4/4 褐色細礫混粘土でこぶし～人頭大の石含む。３層 10YR7/8 黄橙色細礫の地山層、４層 2.5Y3/2 黒褐色細礫混粘土で、こぶし～人頭大の石含む。５層 5Y5/8 明赤褐色細礫混粘土で、こぶし大の石含む。２・４・５層は石室の裏込めの埋土である。残っている巨石の東西幅は 0.6ｍ、南北幅は 1.2ｍ、厚み 0.6ｍを測り、西側に面をもつ。この石の南側では石が抜き取られた痕跡があった。残っていた石と同等規模の石が存在していたと思われる。北側は奥壁の石の抜き取られた跡があった。裏込めとして使用した人頭大の石３個が東側に残っていた。東壁と奥壁の裏込めの掘形は検出部約 0.8ｍ幅測る。下部は地山を削って築造されていることが判明した。残っていた巨石は東壁の一番奥のものであることがわかった。また北部に表土下より切り込みがある土坑が裏込めの掘形を切った状態で検出できた。土坑は検出部で半円形を呈し、深さ 1.6ｍを測る。底付近から拳大の石とともに近世以降の瓦（平・丸）片が出土している。また、第７区周辺では、表採ではあるが黒色土器椀が１点出土している。

第８区（規模１×20ｍ）：現地表（東側 T.P. ＋58.3ｍ　西側 T.P. ＋56.5ｍ）下約 2.0ｍまでを調査した。北壁の地層は、０層コンクリートの破片などの産業廃棄物を含む盛土。１層 10YR5/8 黄褐色大礫混細礫。２層 7.5YR3/4 暗褐色大礫混中礫。３層 10YR5/6 黄褐色細礫混粗粒砂。10YR6/8 明黄褐色細礫混粗粒砂である。１～３層は礫を混ぜた土を突き固めた古墳の墳丘埋土の可能性が考えられる。４層は地山の土で、T.P. ＋58.6ｍ付近から南西側に下がる急斜面をもつ地形であることがわかった。東端から約５ｍ地点の T.P. ＋57.5ｍ付近では径約 50㎝程度の石が存在していることを確認した。この石は地山に突き刺すように貼り付いていた。この石から南西側に約１ｍの範囲について石の並びの有無を確認するために人力で掘削した。しかし、石は並んでいないことが判明した。

第９区（規模３×東西 10ｍ・南北７ｍ）：現地表（東側 T.P. ＋58.3ｍ　西側 T.P. ＋57.5ｍ）下約 1.0～3.0ｍまでを調査した。第８区とほぼ同じ堆積である。調査区のＬ字コーナーより北側へ落ちる尾根の先端部を確認した。東西トレンチの第１層からは６世紀末ごろの須恵器甕・杯身片が出土。また、東西トレンチの北西へ下がる落ちの地山層直上（T.P. ＋56.8ｍ付近）からは、須恵器の破片や円筒埴輪の底部の破片が出土した。

第 10 区（規模２×５ｍ）：現地表（T.P. ＋58.0ｍ）下約 3.2ｍまでを調査した。０層は盛土。１層は 7.5YR4/2 灰褐色細粒砂混粗粒シルト質粘土。２層は 10YR5/8 黄褐色大礫混細礫の地山層である。**ＳＫ 1001** は調査区の南側で検出した。遺構の南側は調査区外に至るため規模は不明である。検出した東西幅は約 0.7ｍ、深さ約 0.3ｍを測る。埋土は 7.5YR4/1 褐灰色細粒砂混粘土で、奈良～平安時代の須恵器が出土した。

第 11 区（規模 1.5×７ｍ）：現地表（T.P. ＋56.2ｍ）下約 2.7ｍまでを調査した。０層は盛土。１層は 7.5YR4/2 灰褐色細粒砂混粗粒シルト質粘土。２層は 10YR5/8 黄褐色大礫混細礫の西へ下がる地山層である。遺構の検出および遺物の出土はなかった。

第 12 区（規模 1.5×15ｍ）：現地表（東側 T.P. ＋53.5ｍ　西側 T.P. ＋52.8ｍ）下約 1.8ｍまでを調査した。０層は盛土。１層は 7.5YR4/2 灰褐色細粒砂混粗粒シルト質粘土。２層は 10YR5/8 黄褐色大礫混細礫の地山層である。２層上面から切り込む溝２条（**ＳＤ 1201・ＳＤ 1202**）を検出した。**ＳＤ 1201** は調査区のほぼ中央で検出した。東西方向に直線に伸び、幅 2.1ｍを測る。断面形状は浅い逆台形で、深さ 0.37ｍを測る。埋土は 2.5Y5/1 黄灰色粗粒砂混粘土で、鎌倉時代の瓦器椀および土師器小皿の破片が出土した。**ＳＤ 1202** は**ＳＤ 1201** の西側約２ｍで検出した。東西方向に直線に伸び、幅 1.0ｍを測る。断面形状は浅い逆台形で、深さ 0.1ｍを測る。埋土は 2.5Y5/1 黄灰色粗粒砂混粘土である。これらの溝は鎌倉時代に比定できる。

第13区（規模1.5×9ｍ）：現地表（東側T.P. ＋53.2ｍ　西側T.P. ＋52.5ｍ）下約1.0ｍまでを調査した。０層は盛土。１層は10YR6/8明黄褐色細粒シルト質粘土。２層は10YR4/6褐色大礫混細礫の地山層である。１層および２層上面から切り込む土坑１条（ＳＫ1301）、溝１条（ＳＤ1301）を検出した。ＳＫ1301は調査区の東側で検出した。遺構の東側は調査区外に至るため規模は不明である。検出した東西幅は約1.0ｍ、深さ約0.5ｍを測る。埋土は7.5YR6/8橙色大礫混粘土で、遺物の出土はなかった。ＳＤ1301はＳＫ1301の西側約0.4ｍで検出した。東西方向に直線に伸び、幅0.9～1.1ｍを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.7ｍを測る。埋土は10YR7/8黄橙色細礫混粘土で、遺物の出土はなかった。

（２）出土遺物：第６区で検出した古墳の玄室床面より10～20㎝上の位置から須恵器、土師器、鉄製品の破片が出土した。出土遺物のうち（１～12）を図化した。１～８は、東側玄室袖部付近から出土した。１～４は鉄釘である。１と２は完形品で、長さ約19㎝を測る。釘頭部の幅は約４㎝を測る。釘の断面形状は方形で、一辺約１㎝を測る。２の表面には縦方向の木目が残る。５～７は鉄鏃である。６と７は完形品で、胴部の長さは６が19㎝、７が16㎝を測る。胴部断面は長方形で、６が長辺２㎝・短辺１㎝、７が長辺1.5㎝・短辺１㎝を測る。脚部は先端が尖って終わる。７の胴部内面に木目が残る。８は須恵器杯蓋で、口径15.5㎝器高4.7㎝を測る。６世紀前半のものである。９～11は玄室中央部東壁側から出土した。９～11は須恵器杯身である。12は奥壁から出土した。12は須恵器高杯の裾部である。

第７区で検出した土坑からは、近世の瓦が出土している。また、**第７区**周辺では、黒色土器椀（13）が表採されている。13は高台が「ハ」の字に貼り付く。見込みには平行線状暗文を施し、内面には横方向に密なミガキを施している。

第９区の第１層からは土師器、須恵器の破片が出土した。出土遺物のうち（14・15）を図化した。14は須恵器甕、15は須恵器杯身である。また、西側に落ち込む地層からも土師器、須恵器、埴輪の破片が出土した。出土遺物のうち（16）を図化した。16は埴輪の底部である。内外面ともに縦方向のハケを施す。内面には粘土接合の痕跡が残る。

第10区の第１層からは土師器、須恵器の破片が出土した。出土遺物のうち（17）を図化した。17は須恵器杯身である。断面台形の高台が「ハ」の字に貼り付く。

第12区のＳＤ1201からは土師器、瓦器の破片が出土した。出土遺物のうち（18）を図化した。18は瓦器椀である。

（３）まとめ：第６区の西側で古墳の石室を検出した。石室の上部は後世に壊されていたが、基底の石や、羨道部分も一部残っていた。床面には土師器や須恵器の破片及び釘などの金属が出土している。

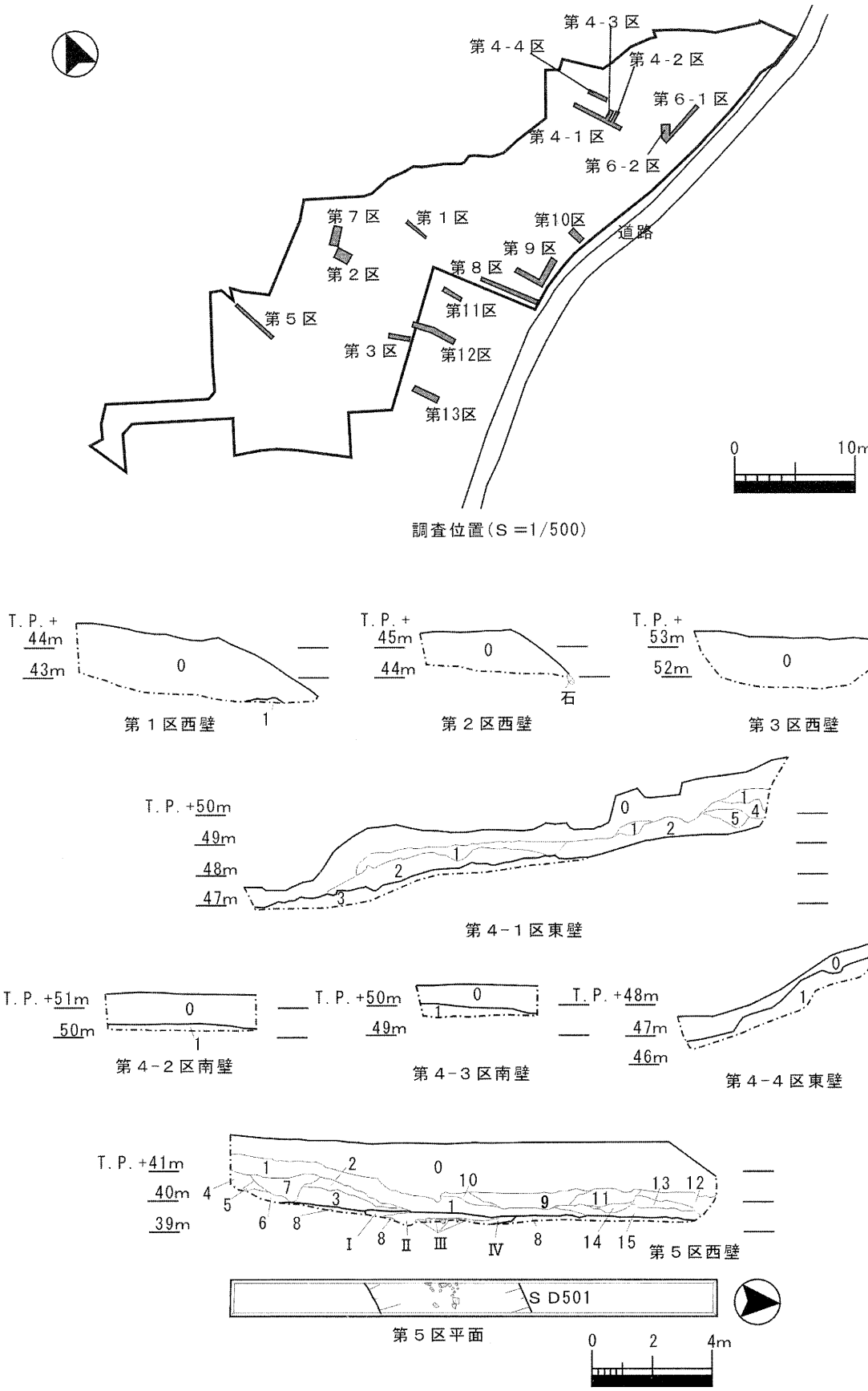
第７区では、石室の奥壁の石を検出した。古墳のほとんどは破壊をうけており残存している部分はこの石のみであった。しかし、この石の北側と南側で石が抜き取られた痕跡を検出していることから南南西に石室の軸を持つ古墳である可能性が極めて高い結果を得た。

なお、今回の調査地の南隣にある垣内共同墓地内には古墳が存在している。この古墳の標高はT.P.＋40ｍ前後で、今回の調査地と同じ高さにある。開発により地形が変わり、本来の地形がわからなくなっているが、おそらく今回の調査地にも**第６・７区**で検出した古墳以外にも古墳が存在している可能性が高いと考えられる。

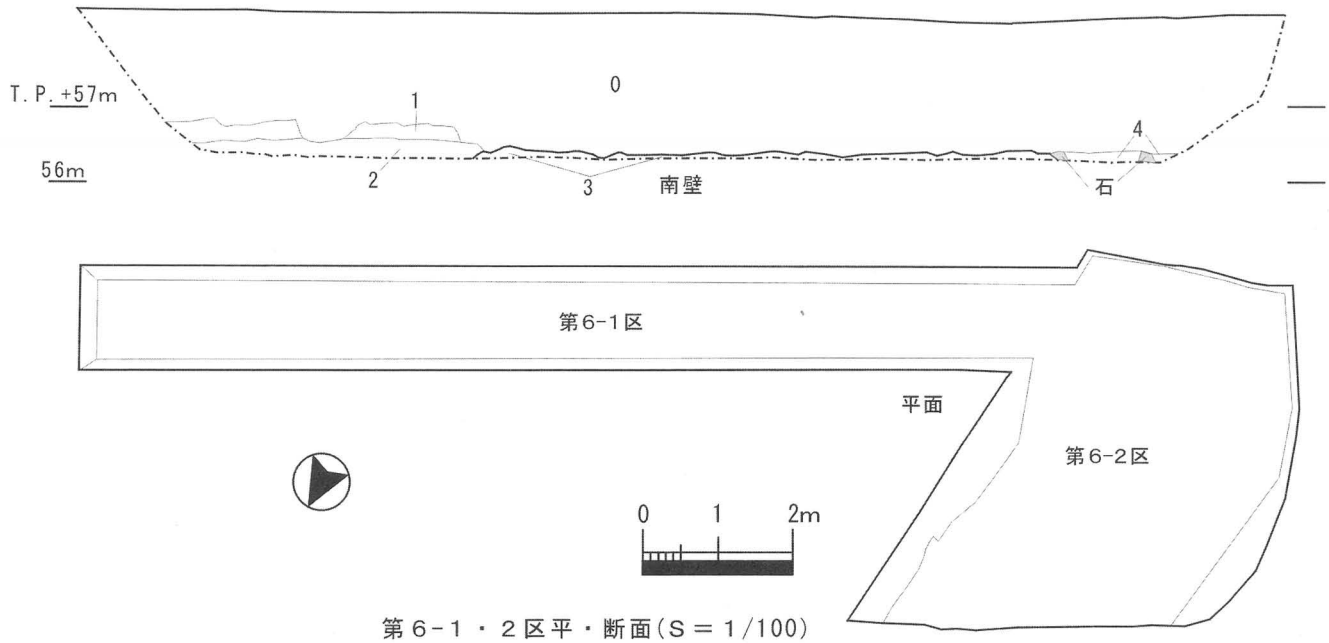
（西村公助・高萩）

参考文献

・嶋村友子 1986.3「３．高安古墳群の調査」『八尾市内遺跡昭和60年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告12　昭和60年度国庫補助事業　八尾市教育委員会
・近江俊秀　1989.3「15．郡川遺跡（63-193）の調査」『八尾市内遺跡昭和63年度発掘調査報告書Ⅰ』八尾市文化財調査報告19　昭和63年度国庫補助事業　八尾市教育委員会
・米田敏幸　1990.3「５．郡川遺跡（半銅池）の調査」『八尾市内遺跡平成元年度発掘調査報告書Ⅱ』八尾市文化財調査報告21　平成元年度国庫補助事業　八尾市教育委員会
・坪田真一　2002「教興寺跡〈第１次調査・第２次調査〉」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告72』財団法人八尾市文化財調査研究会
・樋口　薫　2004「Ⅱ　郡川遺跡第４次調査（KR2004-4）」『八尾市立埋蔵文化財調査センター報告６　平成16年度』八尾市教育委員会　財団法人八尾市文化財調査研究会



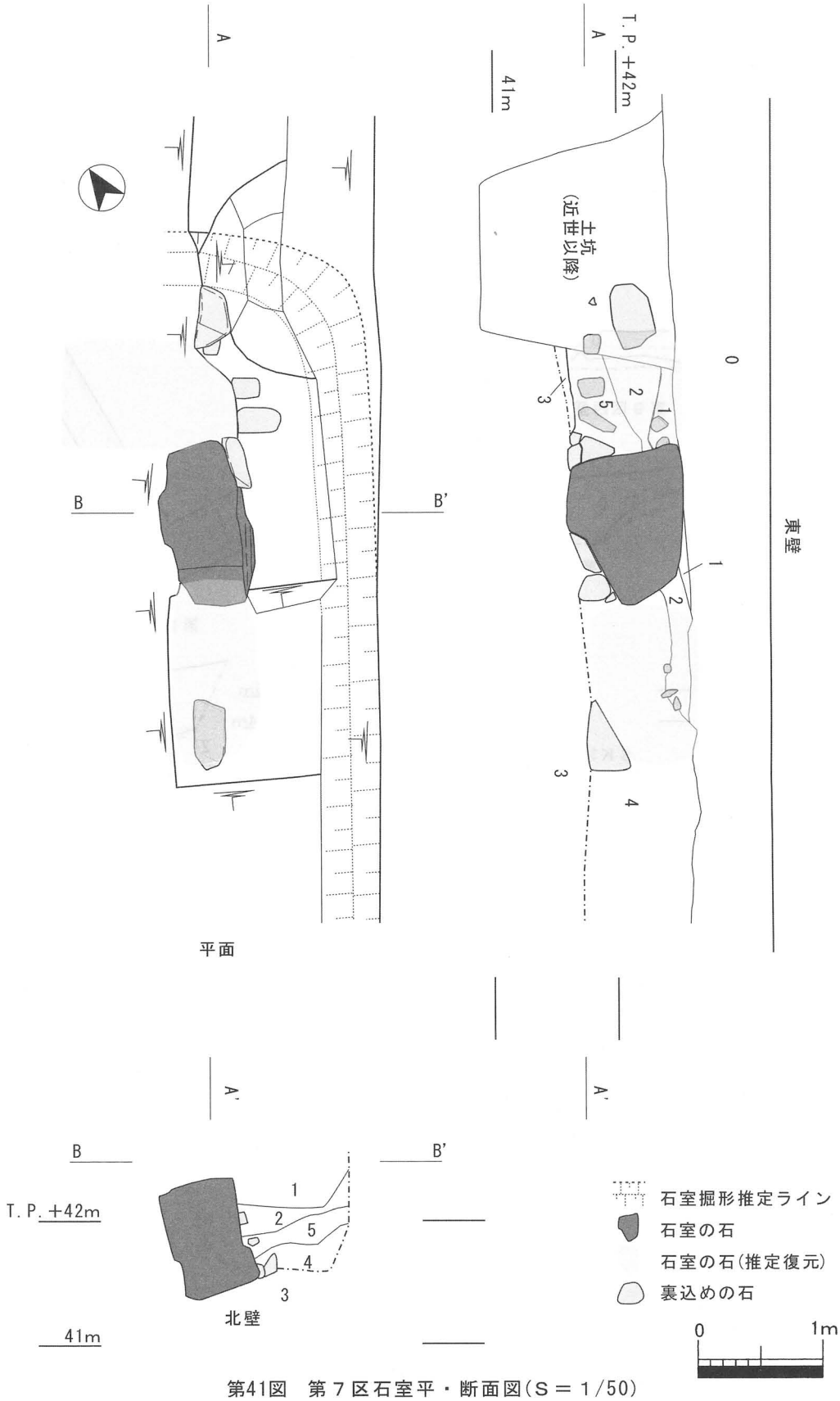
第39図　調査位置図(S=1/500)および第1～5区平・断面図(S=1/200)



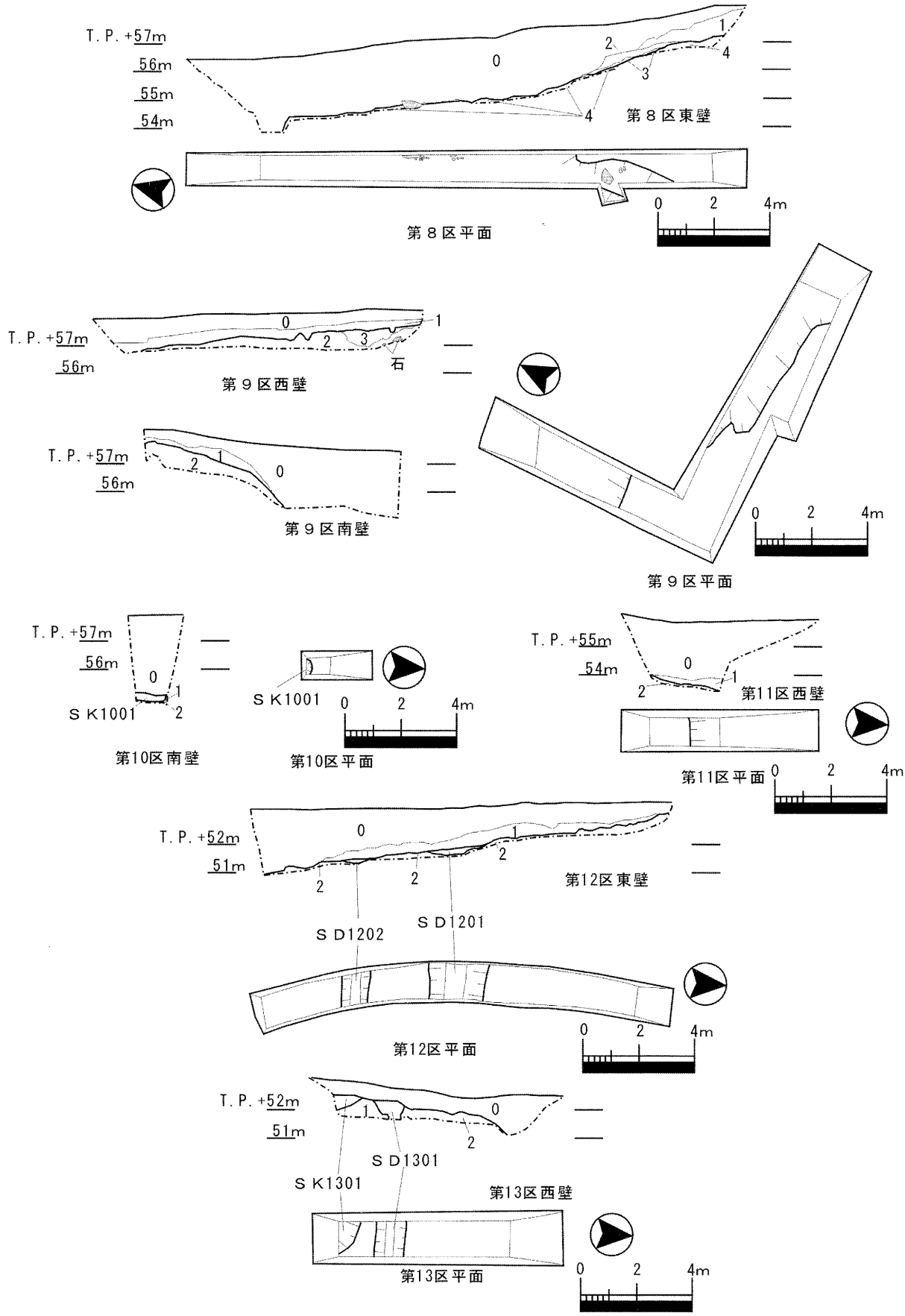
第６-１・２区平・断面(Ｓ＝１/100)

第6-2区石室平面(Ｓ＝１/50)

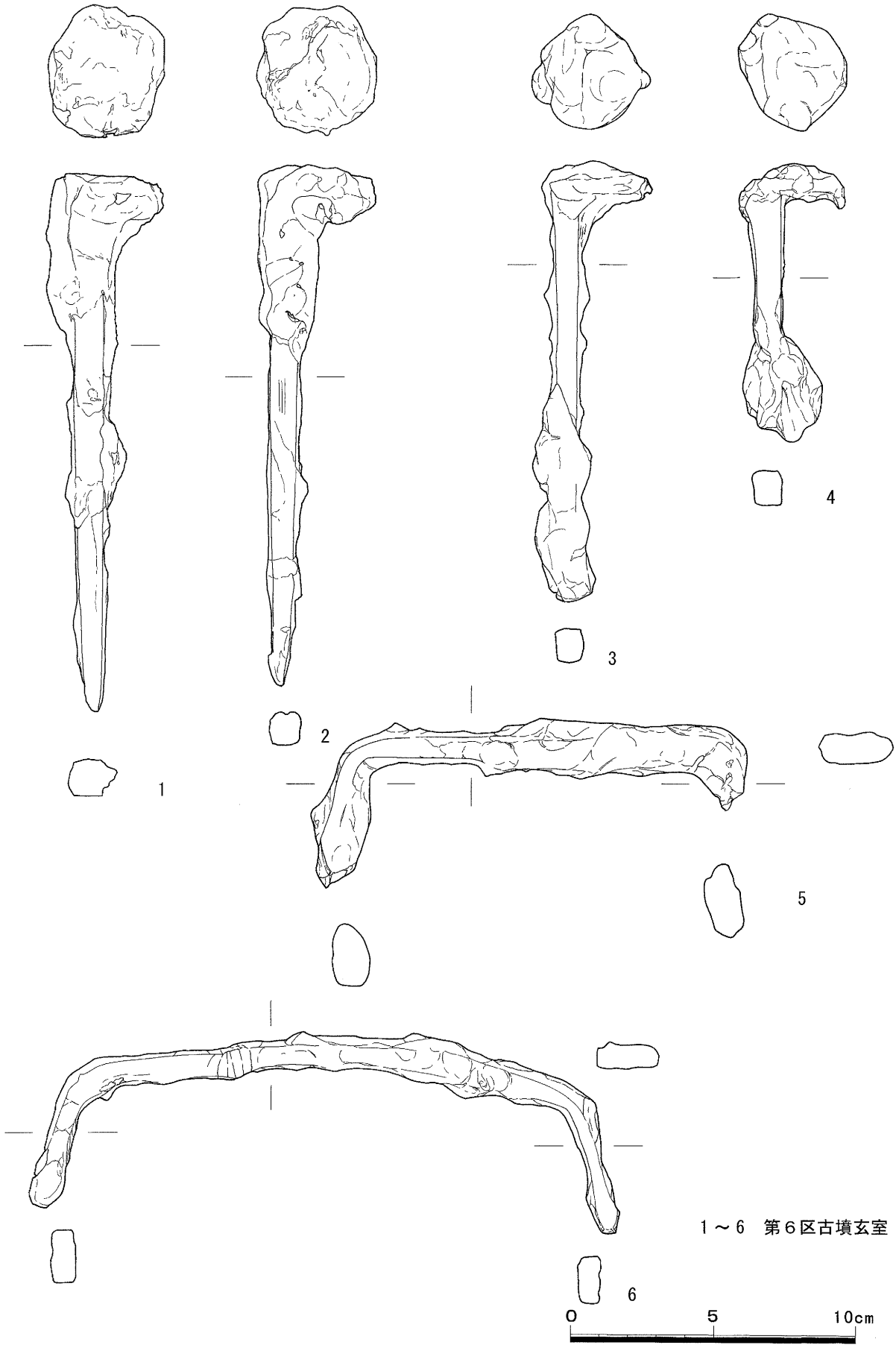
第40図　第６区平・断面図(Ｓ＝１/100)および石室平面図(Ｓ＝１/50)



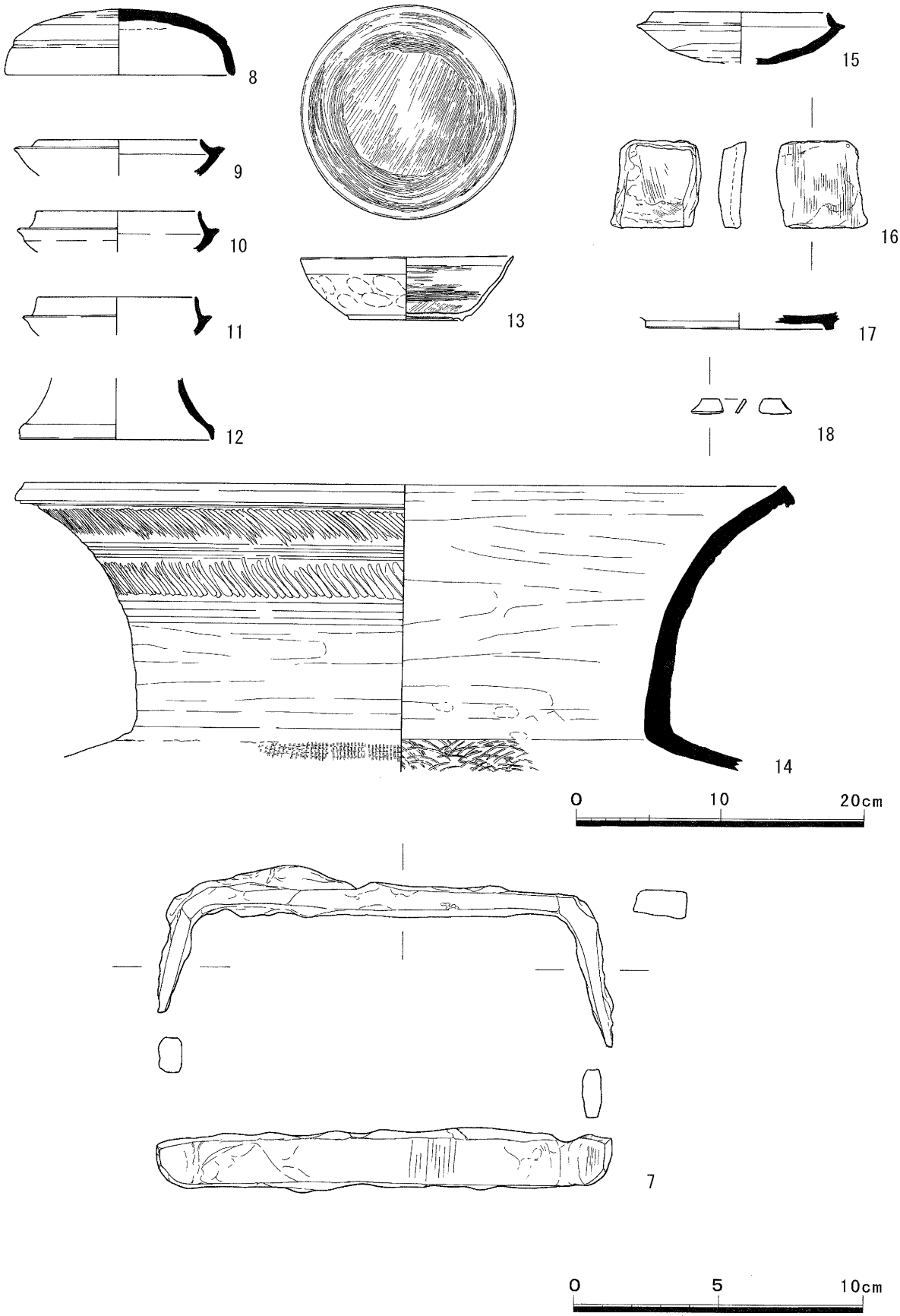
第41図　第７区石室平・断面図(S＝1/50)



第42図　第８～13区平・断面図(S＝1/200)



第 43 図　出土遺物実測図（Ｓ＝１/2）



第44図　出土遺物実測図（7　S＝1/2、8～18　S＝1/4）

17. 竹渕遺跡 【第10図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
2005-288	20051118	竹渕２丁目137番	倉庫付工場：基礎（遺構確認調査）	2.0×2.0ｍ深さ2.0～2.5ｍ：３箇所（12㎡）	遺構・遺物なし	坪田

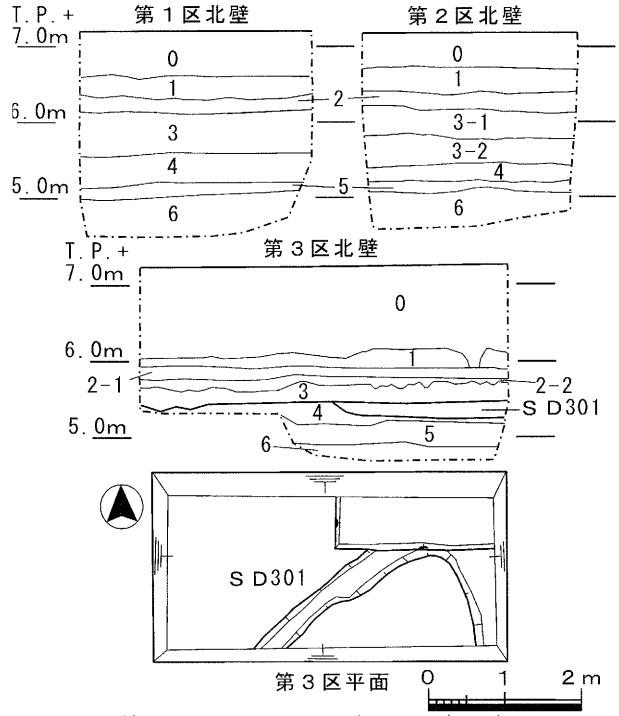
18. 東郷遺跡 【第11図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
2005-101	20050712	東本町五丁目17番63、17番64の各一部	個人住宅：基礎（遺構確認調査）	2.0×2.5ｍ深さ1.5ｍ：１箇所（５㎡）	遺構・遺物なし	樋口
2005-78	20050809	北本町二丁目58－1、58－2、59－1、60－1	分譲住宅・立体駐車場：基礎駐車場（遺構確認調査）	2.5×2.5ｍ深さ2.2～2.3ｍ：３箇所（18.75㎡）	T.P.＋6.0ｍ前後中世水田。瓦器椀細片	原田
2005-221	20050908	光町一丁目９番	店舗：基礎（遺構確認調査）	2.5×2.5ｍ深さ2.7ｍ：３箇所（18.75㎡）	詳細は［18－１］に記載。	西村
2005-208	20090929	東本町５丁目２番31の一部	共同住宅：基礎（遺構確認調査）	2.0×2.0ｍ深さ2.0ｍ：１箇所（４㎡）	近現代の溝。遺物なし。	原田
2005-296	20091115	荘内町２丁目25の一部、26の一部	店舗:貯留槽（遺構確認調査）	2.0×2.0ｍ深さ1.6ｍ：１箇所（４㎡）	遺構なし。時期不明の土師器砕片	原田

18－１．東郷遺跡（2005-221）の調査 【第11図　図版15】

（１）**調査概要**：建物基礎部分に2.5×2.5ｍの調査区を３箇所設定した。西側から**第１区、第２区、第３区**と呼称する。なお、**第３区**は遺構を検出したため、西へ２ｍ拡張した。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値（調査地の南西側道路上T.P.＋7.0ｍ）を使用した。

第１区：０層は盛土。１層は5B3/1暗青灰色細粒砂混粘土。２層は10BG5/1青灰色細粒砂混粘土。３層10YR6/1褐灰色細粒シルト質粘土で、マンガン斑が見られる。４層は10YR5/8黄褐色粘土。５層は10BG7/1明青灰色細粒シルト質粘土。６層は5B6/1青灰色細粒砂と細粒シルトのラミナである。遺構・遺物なし。**第２区**：**第１区**とほぼ同様の堆積状況を示す。遺構・遺物なし。**第３区**：**第１区**とほぼ同様の堆積状況を示す。３層上面で、足跡状の窪みと攪拌された土壌を確認した。



第45図　平・断面図（S＝1/100）

上面は水田であった可能性が高い。遺物の出土がなく時期は不明であるが、おそらく中世と思われる。４層上面では、平面形状Ｌ字に曲がる溝を１条（ＳＤ301）検出。幅0.2ｍ以上、深さ0.2ｍ以上を測る。埋土は10YR5/1褐灰色細粒シルト質粘土で、古墳時代初頭頃の土器の破片が出土した。この土器は図化できなかったが、内面ケズリを施す薄手の器形の庄内式の甕になると思われる。

（２）**まとめ**：**第３区**で検出した溝（ＳＤ301）は、根拠に乏しく断定はできないが、埋土や平面形状から墓の周囲に巡る溝である可能性も考えることができるかもしれない。（西村）

参考文献

・岡田清一　2005「６　東郷遺跡（2003-368）」『八尾市内遺跡平成16年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告50 平成16年度国庫補助事業　八尾市教育委員会

19. 中田遺跡 【第10図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
2005-107	20050627	中田二丁目402-2の一部	個人住宅：基礎（遺構確認調査）	2.0×2.0m深さ2.0m：1箇所（4㎡）	中世以降の整地層。土師器、瓦器の砕片	西村
2005-82	20050705	八尾木北2丁目67番の一部及び68番の一部	個人住宅：基礎（遺構確認調査）	2.0×2.0m深さ1.85m：1箇所（4㎡）	遺構・遺物なし。	原田
2005-158	20050808	八尾木北三丁目199番	個人住宅：基礎（遺構確認調査）	2.0×2.0m深さ2.0m：1箇所（4㎡）	詳細は［19-1］に記載。	原田
2005-332	20051125	八尾木北5-24	専用住宅：基礎（遺構確認調査）	2.0×2.0m深さ1.85m：1箇所（4㎡）	詳細は［19-2］に記載。	原田

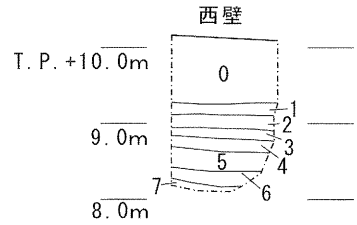
19-1. 中田遺跡（2005-158）の調査 【第10図 図版15】

（1）調査概要：個人住宅に伴う遺構確認調査。2×2m 1箇所。調査で使用した標高値は八尾市作成地図（1/2500）に記載されているT.P.＋10.2m（八尾木北3丁目）である。

【地層】現地表下2.0mまでの間で8層（0～7層）を確認した。0層は盛土で層厚90cm。1層は水田に伴う作土層。層厚15cm。2層は10BG6/1青灰色砂質シルト。グライ化が顕著である。層厚20cm。3層は酸化鉄・マンガン斑が認められる2.5Y6/3にぶい黄色砂質シルト。層厚15cm前後。中世の遺物を含む。4層は3層と同様、酸化鉄・マンガン斑が認められる2.5Y7/3浅黄色粘土質シルト。層厚15cm前後。5層は2.5Y7/2灰黄色粘土質シルトで、土師器片を含むが時期は明確でない。層厚25cm前後。6層は7.5Y6/1灰色粘土質シルトで弥生時代後期の遺物を含む。層厚20cm前後。7層は10GY6/1緑灰色シルト。層厚10cm以上。

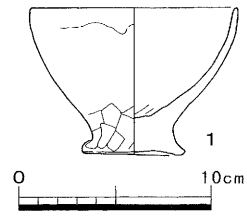
【検出遺構】なし

【出土遺物】2層－土師器（中世）、5層－土師器（時期不明）、6層－弥生土器（弥生後期）



第46図 地層断面図（S＝1/100）

（2）出土遺物：小形鉢1点（1）を図化した。底部は完存、体部は約1/4が残存している。体部は深目で口縁部は直口を呈する。底部は上げ底で「ハ」の字状に開く形状であるが、全体にやや雑な作りで、未調整部分を多く残す。色調は褐灰色。生駒西麓産。弥生時代後期後半に比定される。



第49図 出土遺物実測図（S＝1/4）

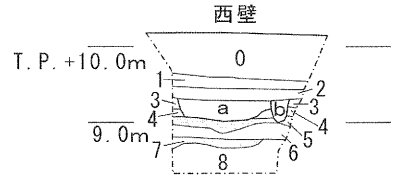
（3）まとめ：2層（中世）、5層（時期不明）、6層（弥生後期）で遺物包含層を確認した。特に6層で検出した弥生時代後期の遺物包含層については、当調査地の東約140m地点の第15次調査（NT 92－15）、南東約170m地点の第17次調査（NT 93－17）で当該期の居住域が検出されており、今回の調査の結果、集落域が西部に広がることが確認された。（原田）

参考文献

・原田昌則 2004 「VI 中田遺跡（第10次調査）」『（財）八尾市文化財調査研究会報告81』（財）八尾市文化財調査研究会

19- 2．中田遺跡（2005-332）の調査 【第10図　図版16】

（1）**調査概要**：規模は2×2mの1箇所。調査で使用した標高値は八尾市作成地図（1/2500）に記載されているT.P.＋10.3m（八尾木北5丁目）である。



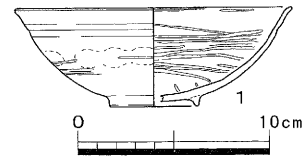
第48図　地層断面図（S＝1／100）

【地層】現地表下1.85mまでの間で9層（0～8層）を確認した。0層は客土。層厚0.55m前後。1層は5Y4/1灰色砂質シルトの水田作土層。層厚0.15m前後。2層はグライ化した10BG6/1青灰色砂質シルト。層厚0.15m前後。3層は酸化鉄・マンガン斑が認められる2.5GY8/1灰白色砂質シルト。層厚0.1m。上面が鎌倉時代中期（13世紀中葉）の遺構構築面。4層は5GY8/1灰白色極細粒砂混砂質シルトである。5層は2.5Y7/6明黄褐色極細粒砂。6層は酸化鉄の斑点が認められるN6/0灰色粘土質シルト。7層は5Y8/2灰白色極細砂～中粒砂。8層は酸化鉄の斑点が認められる5BG6/1青灰色砂質シルトである。5層以下は水成層が連続する不安定な層相で、遺物は出土していない。

【検出遺構】性格は不明であるが、3層上面を切り込む遺構を西壁で2箇所（遺構内埋土－a層7.5Y6/1灰色砂質シルト、b層7.5Y4/1灰色砂質シルト）検出した。共に鎌倉時代中期（13世紀中葉）の土師器・瓦器椀を含む。

【出土遺物】土師器・瓦器椀（13世紀中葉）

（2）**出土遺物**：a層から出土した瓦器椀1点（1）を図化した。深目の体部に断面三角形の貼り付け高台が付く瓦器椀である。約1/3が残存している。復元口径14.4cm、器高5.2cm、復元高台径4.6cm、高台高0.5cmを測る。体部外面上位は強いヨコナデ調整により、明瞭な段を形成している。体部のヘラミガキ調整は、内面が横方向にやや粗く、外面は横方向に施されているが、僅かに散見される程度である。見込みには平行線状ヘラミガキが施されている。色調は灰色。帰属時期は平安時代後期末～鎌倉時代初頭（12世紀末前後）に比定される。



第49図　出土遺物実測図（S＝1/4）

（3）**まとめ**：調査の結果、旧作土層上面から約0.4m下部で鎌倉時代中期を中心とした生活面の存在が明らかになった。調査地点は奈良時代後期の「由義宮」との関わりが考えられる由義神社の西に近接しており、それらに関連する時期の遺構・遺物の検出が想定されたが、当該期においては水成層が連続する不安定な環境であったことが明らかとなった。また、調査地点の東に近接する地点で実施された第4次調査の2区では、T.P.＋8.0m前後で弥生時代中期の遺構・遺物が検出されており、本調査地の下部においても同時期の生活面が広がっていた蓋然性が高いと考えられる。（原田）

参考文献

・原田昌則　2004「Ⅵ　中田遺跡（第10次調査）」『（財）八尾市文化財調査研究会報告81』（財）八尾市文化財調査研究会

20. 東弓削遺跡 【第12図】

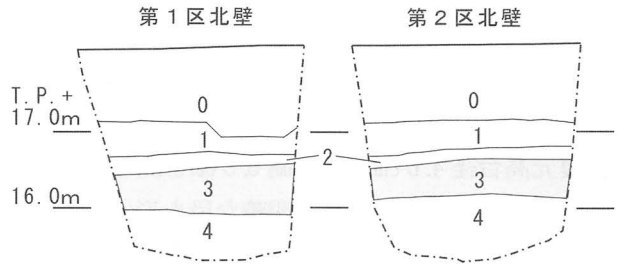
申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
2004-466	20050404	大字東弓削86番地	電話通信（携帯電話通信鉄塔）：基礎（遺構確認調査）	2.0×2.0m深さ2.0m：1箇所（4㎡）	T.P.＋10.6m前後土壌化層。鎌倉時代頃の水田。遺物なし。	西村
2004-475	20050415	八尾木4丁目51番	専用住宅：基礎（遺構確認調査）	2.0×2.0m深さ2.0m：1箇所（4㎡）	T.P.＋10.0m前後土壌化層。時期不明の水田。T.P.＋9.5m前後の砂層から須恵器壷体部破片出土。	荒川
2005-155	20050928	東弓削2丁目12番の一部	個人住宅：基礎（遺構確認調査）	2.0×2.0m深さ1.9m：1箇所（4㎡）	遺構なし。中世の土師器、瓦器。古墳時代後期土師器、須恵器	原田
2005-240	20051114・15	八尾木四丁目14番、13番2の各一部	分譲住宅：人孔（遺構確認調査）	2.0×2.0m深さ2.0～2.2m：5箇所（20㎡）	遺構なし。T.P.＋9.0m前後古式土師器	坪田

21. 水越遺跡 【第13図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
2005-321	20051122	千塚一丁目10番	工場新築：基礎（遺構確認調査）	2.5×2.5m深さ2.0m：2箇所（12.5㎡）	遺構・遺物なし。	荒川
2005-322	20051128	服部川三丁目14番、15-1番	身体障害者療護施設：基礎（遺構確認調査）	3.0×3.0m深さ3.0m：2箇所（18㎡）	詳細は［21-1］に記載。	西村

21-1. 水越遺跡（2005-322）の調査 【第13図 図版16】

（1）調査概要：建物基礎部分に3.0×3.0mの調査区を2箇所（南側を**第1区**、北側を**第2区**とする）を設定し調査を行った。レベル高は調査地の南西側約100mにある道路上の標高値（T.P.＋16.0m）を使用した。



第50図 地層断面図（S＝1/100）

第1・2区：現地表（T.P.＋18.2m前後）下約3.0mまでに5層の堆積を確認した。0層は盛土。1層は7.5YR6/1褐灰色細粒砂混粘土。2層は10Y5/1灰色細粒シルトと粗粒シルトのラミナで、湧き水があった。3層は7.5YR2/1黒色細粒砂混粘土で、弥生時代後期に比定できる甕等が出土した。遺物は破片で図化できなかった。4層は5Y4/1灰色細粒砂である。

（2）まとめ：遺構の検出はなかったが、3層は弥生時代後期の遺物包含層で、近隣に同時期の遺構が存在している可能性が高い考えられる。（西村）

参考文献

・成海佳子2000「Ⅱ　水越遺跡第7次調査（MK 2000-7）」『八尾市立埋蔵文化財調査センター報告2平成12年度』八尾市教育委員会　財団法人八尾市文化財調査研究会

22. 美園遺跡 【第13図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
2005-192	20051110	美園町4丁目1-1の一部	分譲住宅：防火水槽　人孔（遺構確認調査）	3.0×3.0m深さ3.0m 1箇所 2.0×2.0m深さ2.0 4箇所（25㎡）	T.P.＋5.0m前後土壌化層で中世の水田と考える。T.P.＋4.0m前後古墳時代以降の土師器出土。	西村

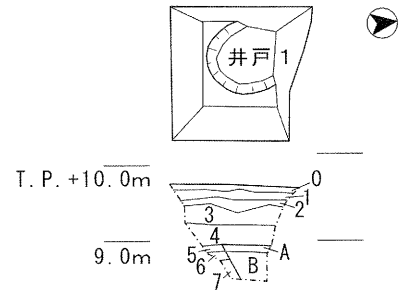
23. 八尾寺内町 【第13図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
2005-273	20051007	本町三丁目88-2、88-4、270	専用住宅：基礎（遺構確認調査）	2.0×2.0m深さ1.3m：1箇所（4㎡）	詳細は［23-1］に記載。	原田
2005-339	20051205	本町二丁目160-11, 106-12, 160-14	事務所付き共同住宅:基礎（遺構確認調査）	3.0×3.0m深さ3.0m：2箇所（18㎡）	詳細は［23-2］に記載。	坪田

23-1. 八尾寺内町（2005-273）の調査 【第13図　図版17】

（1）**調査概要**：2×2mの1箇所。調査で使用した標高値は八尾市作成地図（1/2500）に記載されているT.P.＋10.2m（本町3丁目）である。

【地層】現地表下1.3mまでの間に8層（0～7層）を確認した。0層は表土。1層は10YR6/6明黄褐色砂質シルトの客土層。層厚10cm前後。2層は10YR5/1褐灰色炭砂質シルト、3層は10YR6/1褐灰色炭混砂質シルトで、2・3層は共に炭を含む不均質な整地層である。江戸時代後期を中心とする国産陶磁器類・屋瓦が含まれている。4層は10YR6/2灰黄褐色砂質シルトで、江戸時代後期の国産陶磁器類・屋瓦が極小量出土している。5層は2.5GY8/1灰白色細～中粒砂、6層は5Y8/2灰白色細～中粒砂、7層は7.5Y6/1灰色細～中粒砂で、5～7層は河成層である。5層上面では井戸1基（**井戸1**）を検出した。井戸1の埋土はA層10YR7/6明黄褐色細～中粒砂とN2/0黒色砂質シルトの互層（不均質）とB層7.5GY6/1緑灰色シルト質粘土である。

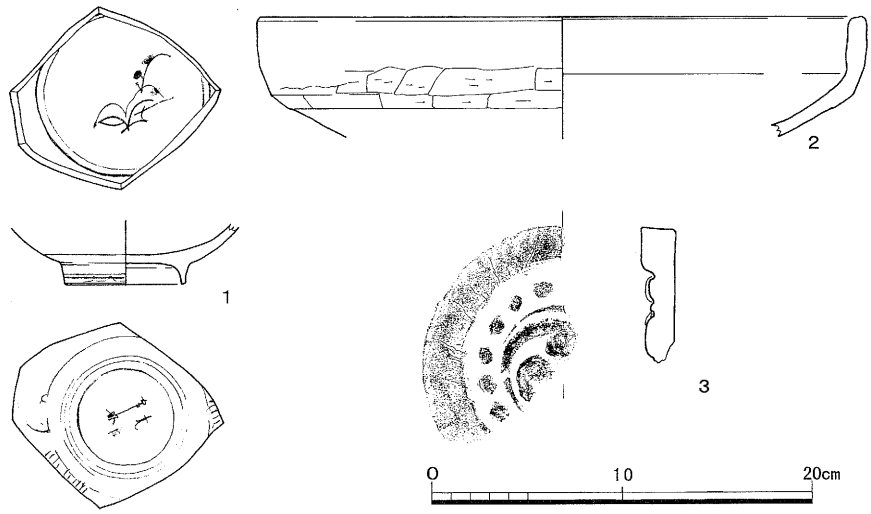


第51図　平・断面図（S＝1/100）

【検出遺構】井戸1基

【出土遺物】国産陶磁器・屋瓦

（2）**出土遺物**：2・3層から出土した3点（1～3）を図化した。1は肥前系磁器碗の小破片である。染付けの意匠が確認できるものとしては、見込みでは2条の圏線間に草花文様、高台裏面では「大明年製」の裏銘がある。胎土は白く呉須の発色が良い。17世紀中葉～後半に比定される。**2**は土師器炮烙である。約1/4が残存している。復元口径31.6cmを測る。器面調整は、



第52図　出土遺物実測図（S＝1/4）

口縁部内外面および体部内面がヨコナデ、口縁部下半から体部上半にかけてヘラケズリが行われている。体部外面に煤の付着が認められる。色調は褐灰色。３は左巻き三巴文軒丸瓦である。1/3程度が残存している。巴文は丸味のある頭部から尾部は幅を減じて約半周するものと推定される。珠文は大粒で密に配されている。外縁は幅広で低い。２・３ともに江戸時代中期のものと推定される。

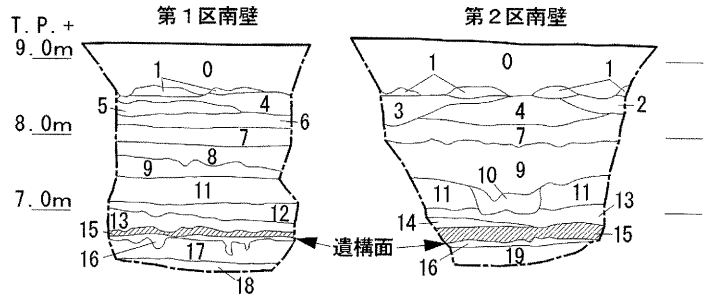
（３）まとめ：「八尾寺内町」は大信寺および慈願寺を中心として、江戸時代前期に成立した寺内町である。今回の調査地点は「八尾寺内町」の南西部にあたり、慈願寺の北側に想定されている御坊旧跡の西側に隣接している。調査においても、当該期に該当する炭を含む整地層（２・３層）の存在や５層上面では江戸時代後半の井戸１基（**井戸１**）を検出しており、「八尾寺内町」における推移・変遷を推定するうえで貴重な資料を提供する結果となった。（原田）

参考文献

・岡田清一　1999「Ⅲ　八尾寺内町遺跡（第１次調査）」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告 63』財団法人八尾市文化財調査研究会

23- ２．八尾寺内町（2005-339）の調査　【第 13 図　図版 17】

（１）調査概要：【層序】０層は盛土。１層は旧耕土で、**第２区**では下面で耕作関連と考えられる土坑状の落ち込みが見られる（２・３層）。４・５・７層は撹拌の著しい層相で作土であろう。７層からは**第１区**で瓦器椀片が出土している。**第１区**でのみ見られる６層は水成層で、一時的な冠水が看取される。８・９層は上部細粒化が見られる一連の水成層である。９層は**第２区**が粗粒砂優勢で、**第１区**８層は粘性が強く沼沢地化していた状況が窺える。**第２区** 10 層は溝状の遺構の可能性があるが、層相は滞水状況である。ほぼ埋没した後に９層の洪水砂により覆われている。11～14 層も８・９層と同様の堆積である。15 層はブロック状を呈し土壌化が著しい。弥生時代後期～古墳時代前期の遺物包含層で、**第２区**で層厚が厚く、土器片が多く（20 数点）出土している。16 層が当該期の遺構面を構成し、15 層と同様にブロック状を呈し土壌化が著しい。16 層以下は粘土～細粒砂の互層状を呈する水成層である。



0　盛土
1　旧耕土：2.5GY4/1暗オリーブ灰色極細粒砂～細粒砂混シルト
2　5BG6/1青灰色シルト混極細粒砂
3　5GY5/1オリーブ灰色細礫混シルト～中粒砂
4　5GY6/1オリーブ灰色極細粒砂～細粒砂混シルト　撹拌層
5　10GY6/1緑灰色粗粒砂混シルト　下部が粗粒砂　上部撹拌
6　2.5Y6/2灰黄色極細粒砂　Fe多
7　5G3/1暗緑灰色極細粒砂混粘土　撹拌層
8　5G5/1緑灰色極細粒砂混シルト質粘土
9　7.5GY6/1緑灰色粘土～粗粒砂の互層　上部Fe　上部細粒化
10　2.5GY4/1暗オリーブ灰色極細粒砂～中粒砂混粘土　炭酸鉄
11　5G4/1暗緑灰色極細粒砂混粘土
12　5BG4/1暗青灰色極細粒砂～細粒砂多混粘土
13　2.5GY6/1オリーブ灰色粘土～細粒砂の互層
14　5GY5/1オリーブ灰色細粒砂～粘土　上部細粒化
15　7.5GY3/1暗緑灰色極細粒砂混粘土　ブロック状〈遺物包含層〉
16　2.5GY6/1オリーブ灰色極細粒砂～シルト混粘土　ブロック状
17　10GY4/1暗緑灰色粘土　N3/0暗灰色粘土ブロック斑含む
18　5GY4/1暗オリーブ灰色粘土質シルト
19　5GY5/1オリーブ灰色粘土～細粒砂の互層

第 53 図　地層断面図　（S＝1/100）

（２）まとめ:調査では遺構は検出されなかったものの、標高 T.P. ＋6.7 m付近において、北部・東部、ならびに南に隣接する成法寺遺跡北部で確認されている弥生時代後期～古墳時代前期の遺構面の存在を確認した。包含層中の土器は細片のみで、出土は東の**第２区**で顕著であった。中世以降は生産域となっており、水田作土が重層的に認められる。（坪田真一）

参考文献

・岡田清一　1999「Ⅲ　八尾寺内町遺跡（第１次調査）」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告 63』財団法人八尾市文化財調査研究会

24. 八尾南遺跡 【第14図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
2005-252	20051003	若林町３丁目47－６	工場付住宅：人孔（遺構確認調査）	2.0×2.0m深さ2.0m：２箇所（８㎡）	T.P.＋11.0m前後で弥生時代前期遺物包含層を確認。	高萩

25. 矢作遺跡 【第14図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
2005-66	20050526	高美町５丁目３番２、３番３	分譲住宅：人孔（遺構確認調査）	2.0×2.0m深さ1.9m：２箇所（８㎡）	T.P.＋7.8m前後。畦畔状の高まり確認。水田か。遺物なし。	原田

26. 山本町北遺跡 【第14図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
2005-55	20050516	山本町北６丁目83-1	分譲住宅：人孔（遺構確認調査）	2.0×2.0m深さ2.0m：２箇所（８㎡）	遺構・遺物なし	岡田

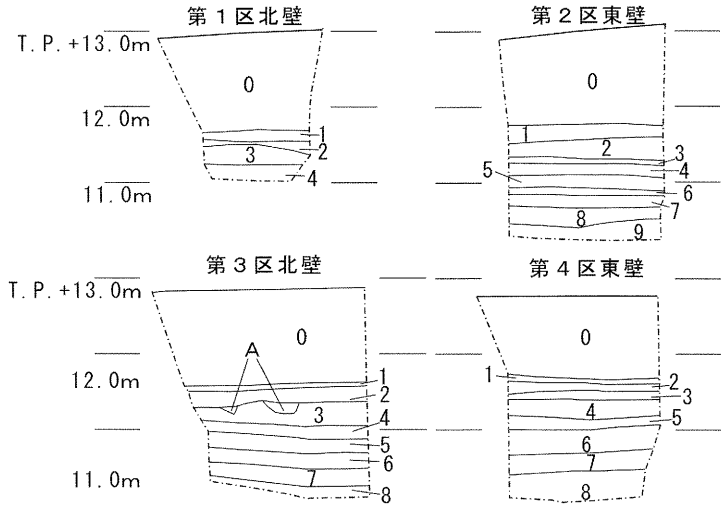
27. 弓削遺跡 【第14図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
2005-185	20050822	志紀町南２丁目1	共同住宅：基礎（遺構確認調査）	3.0×3.0m深さ2.0～2.8m：４箇所（36㎡）	詳細は［27-１］に記載。	原田
2005-160	20051018	弓削町３丁目80番1、81番の1,3	共同住宅：オリフィス枡　基礎（遺構確認調査）	2.0×2.0m深さ2.0m：１箇所3.0×3.0m深さ3.0m：１箇所（13㎡）	遺構なし。T.P.＋11.5m前後。奈良時代土師器出土。	西村

27-１．弓削遺跡（2005-185）の調査 【第14図　図版18】

（１）調査概要：３×３mの４箇所。北側の西を**第１区**、東を**第２区**、南側の西を**第３区**、東を**第４区**と呼称。調査で使用した標高値は八尾市作成地図（1/2500）に記載されているT.P.＋12.3m（志紀町南２丁目）である。

【地層】第１区－現地表下2.0mまでの間で５層（０～４層）を確認した。０層は盛土。層厚1.3m。１層は旧作土層。２層はグライ化した砂質シルト。３層は2.5Y6/2灰黄色砂質シルト、４層は2.5Y7/1灰白色砂質シルトで共に酸化鉄・マンガン斑が顕著である。**第２区**－現地表下2.8mまでの間で10層（０～９層）を確認した。０層は盛土。層厚1.2m。１層は旧作土層。２層はグライ化した砂質シルト。３層は床土。４層は酸化鉄・マンガン斑が顕著な10YR7/1灰白色砂質シルト。土師器片を含む。５層は5Y7/2灰白色砂質シルト。硬くしまっており、遺構ベース面に成る可能性がある。６・７層は酸化鉄斑があるシルト質粘土。８層は10GY4/1暗緑灰色粘土質シルト。布留式古相に比定される小型鉢片が出土。９層は10GY6/1青灰色粘土質シルト。**第３区**－現地表下2.8mまでの間で10層（０～９層）を確認した。０層は盛土。層厚1.2m。１層は旧作土層。２層は酸化鉄・マンガン斑が顕著な10YR6/1褐灰色砂質シルト。３層は須恵器片を含む砂質シルトで、上面で溝２条を検出。４層は10YR6/2灰黄褐色シルト。５層は2.5Y7/4浅黄色シルト質粘土。６・７層は共に粘土質シルトで７層からは弥生時代後期の甕片が出土している。８層は2.5Y7/1明オリーブ色粘土質シルトである。**第４区**－現地表下2.７mまでの間で９層（０～８層）を確認した。０層は盛土。層厚1.1m。１



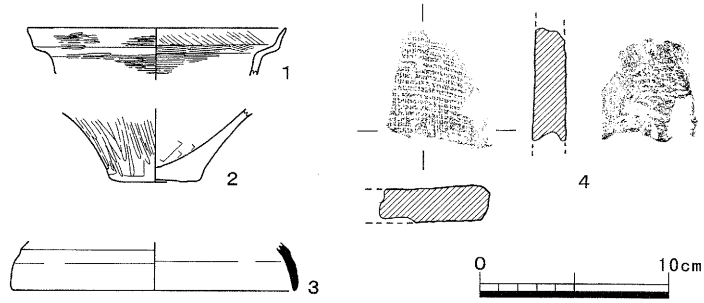
第54図　地層断面図（S＝1/100）

層は旧作土層。２層はグライ化した砂質シルト。３層は床土。４層は酸化鉄・マンガン斑が顕著な2.5GY6/1オリーブ灰色中礫混砂質シルト。５層は7.5YR5/6明褐色中礫混砂質シルトで土師器を含む。６層は2.5GY7/1明オリーブ灰色粘土質シルトで、奈良時代以降と推定される須恵器・屋瓦が出土している。７層は10GY5/1緑灰色シルト質粘土。８層は10GY4/1暗緑灰色粘土質シルトである。

【検出遺構】**第３区**で溝２条

【出土遺物】**第２区**４層（土師器）・８層（小型鉢－布留式古相）**第３区**３層（須恵器）・７層（甕－Ｖ様式）**第４区**５層（土師器）・６層（須恵器・平瓦－奈良時代以降）

（２）出土遺物：４点（１～４）を図化した。１は**第２区**の８層出土。古式土師器の小形有段鉢の小破片である。精製品で復元口径13.6㎝を測る。古墳時代前期前半（布留式古相）に比定される。２は**第３区**の７層出土。弥生土器壷の底部である。底部は完存しており、底径4.8㎝を測る。底部裏面はドーナツ底を呈する。色調は褐灰色。生駒西麓産。弥生時代後期に比定される。３・４は**第４区**の６層出土。３は須恵器杯蓋の小片である。６世紀後半に比定される。４は平瓦片である。凹面に布目、凸面に横位の縄目タタキが施されている。



第55図　出土遺物実測図（Ｓ＝1/4）

（３）まとめ：**第２～４区**のT.P.＋11.2ｍ前後に存在する各層から、奈良時代以降と推定される土師器・須恵器が出土している。また**第２区**の８層では、布留式古相の小型鉢、**第３区**の７層からはＶ様式の甕が１点出土している。調査地点の南約110ｍ地点で昭和59年に実施された弓削遺跡第１次調査においては、弥生時代中期～奈良時代に至る遺構・遺物が検出されており、今回の試掘成果とほぼ対応している。

（原田）

参考文献

・西村公助　1985「弓削遺跡１次調査」『昭和59年度事業報告』財団法人八尾市文化財調査研究会

・森本めぐみ　2001「XⅢ　弓削遺跡（第２次調査）」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告67』財団法人八尾市文化財調査研究会

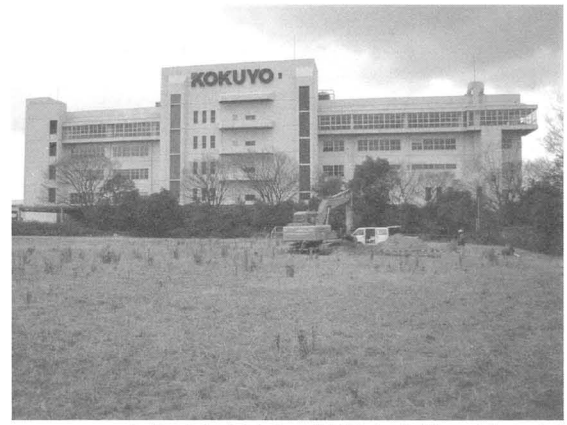
・高萩千秋　2002「Ⅱ弓削遺跡第３次調査（YGE2002-3）」『八尾市立埋蔵文化財調査センター報告３』八尾市教育委員会　財団法人八尾市文化財調査研究会

図版1

1．東郷遺跡2004-370調査地周辺（南西から）

1．東郷遺跡2004-370調査地周辺（北東から）

1．東郷遺跡2004-370調査地周辺（北西から）

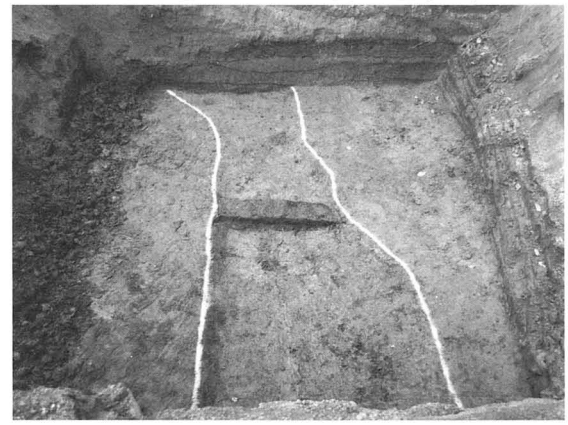


1．東郷遺跡2004-370調査地周辺（南から）

1．東郷遺跡2004-370調査地周辺（南西から）

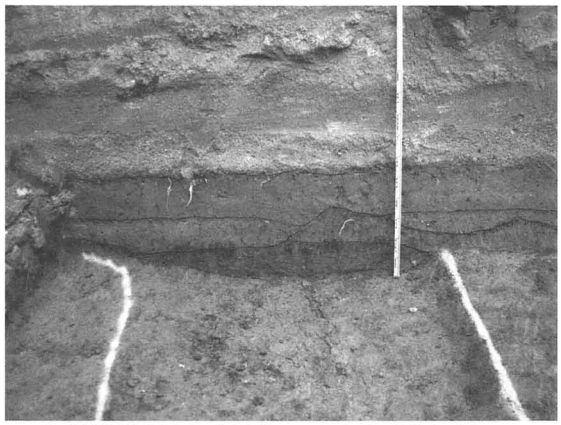
1．東郷遺跡2004-370調査地周辺（北から）

1．東郷遺跡2004-370第６区調査状況（南東から）



1．東郷遺跡2004-370第６区溝検出状況（東から）

図版2

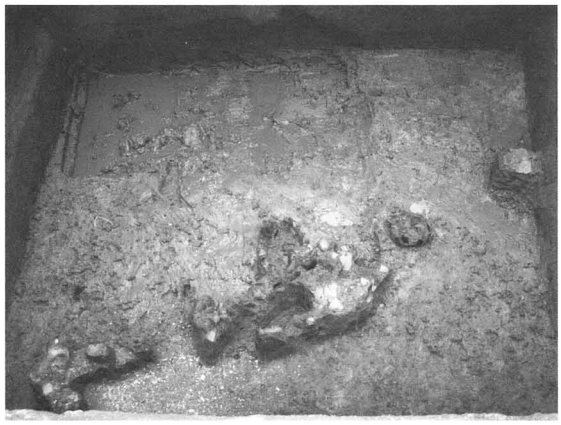


1．東郷遺跡2004-370第６区東壁(西から)

1．東郷遺跡2004-370第13区調査状況(南から)

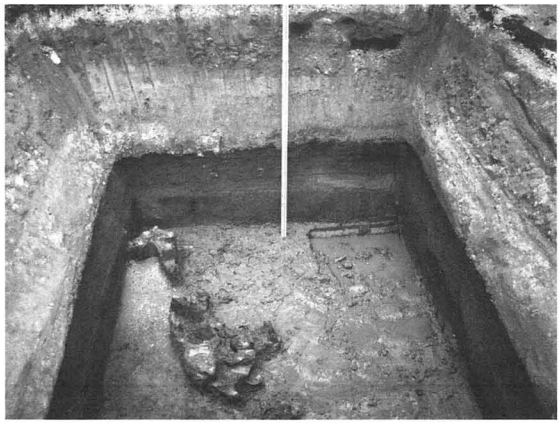
1．東郷遺跡2004-370第13区調査状況(西から)

1．東郷遺跡2004-370第13区全景（北から)



1．東郷遺跡2004-370第13区溝検出状況(西から)

1．東郷遺跡2004-370第13区溝検出状況(南から)

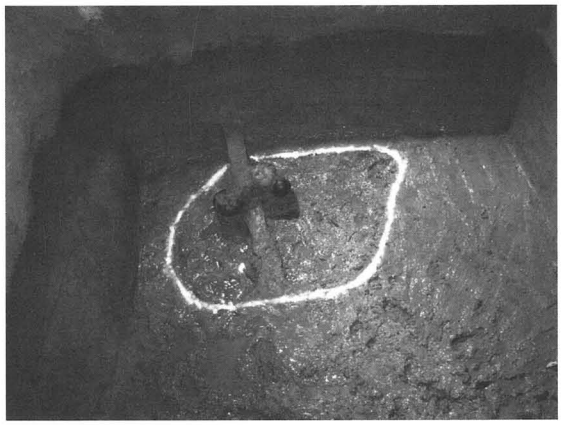


1．東郷遺跡2004-370第13区北壁(南から)

1．東郷遺跡2004-370第16区調査状況(西から)

1．東郷遺跡2004-370第16区全景(東から)

1．東郷遺跡2004-370第16区北壁(南から)



1．東郷遺跡2004-370第16区土坑検出状況(南から)

1．東郷遺跡2004-370第16区土坑検出状況(東から)

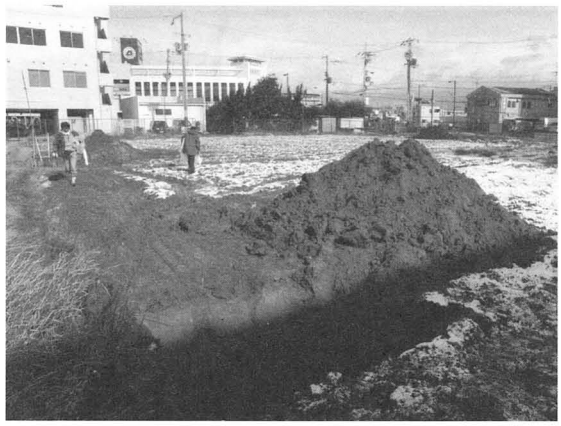
1．東郷遺跡2004-370第16区土坑遺物出土状況(西から)

1．東郷遺跡2004-370第16区土坑遺物出土状況(南から)

1．東郷遺跡2004-370(6)

1．東郷遺跡2004-370(7)

図版4



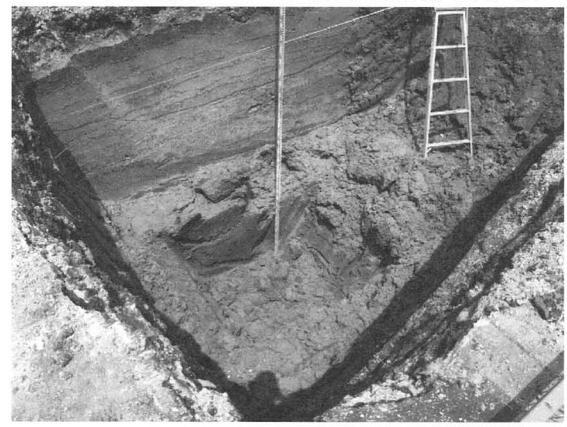
1－1.跡部遺跡2005-363調査地周辺(南から)

1－1.跡部遺跡2005-363第1区西壁(東から)

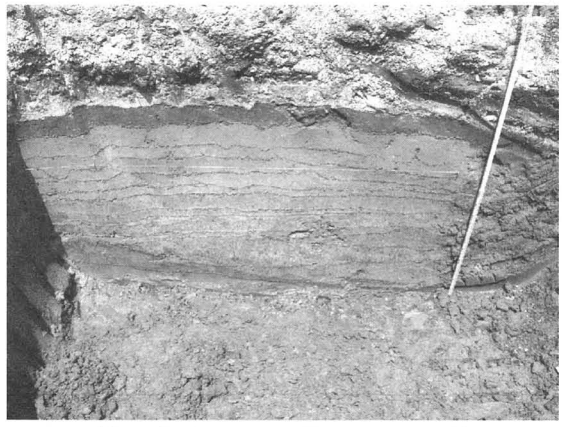
1－1.跡部遺跡2005-363第2区東壁(西から)

1－1.跡部遺跡2005-363第3区東壁(西から)

2－1.植松遺跡2005-25調査地周辺(南東から)



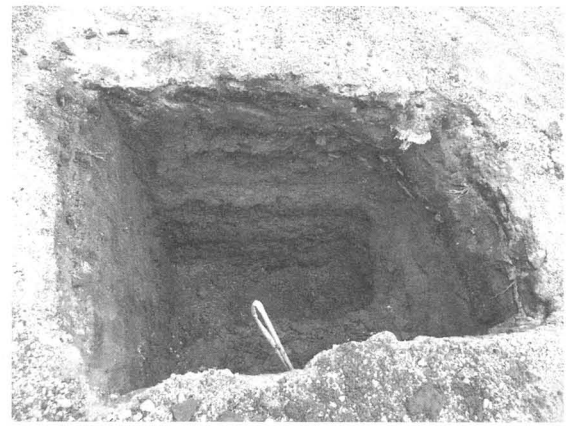
2－1.植松遺跡2005-25第1区西壁(東から)



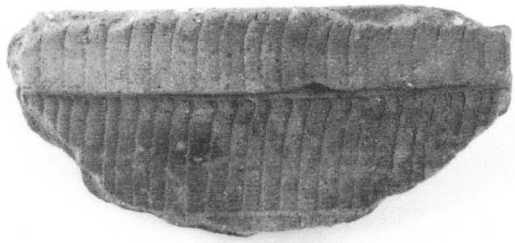
2－1.植松遺跡2005-25第2区西壁(東から)

2－1.植松遺跡2005-25第2区調査状況(北東から)

4－1．恩智2005-38調査地周辺(西から)



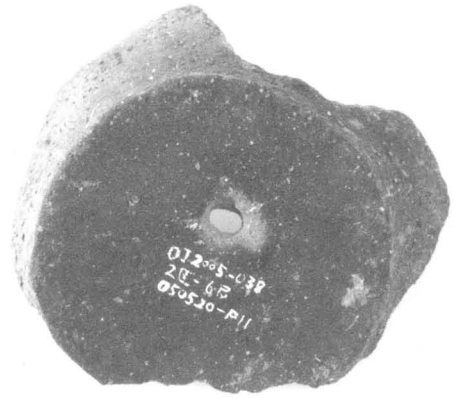
4－1．恩智2005-38第１区全景(南から)



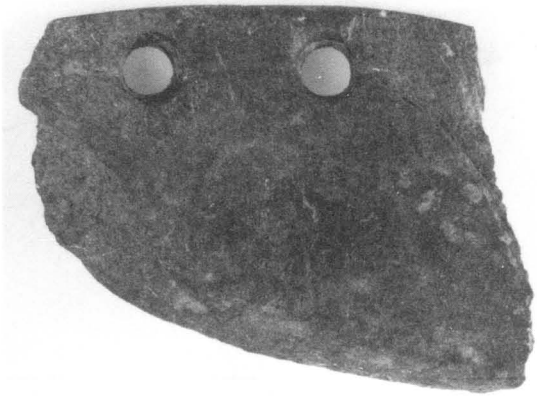
4－1．恩智2005-38(7)

4－1．恩智2005-38(13)

同(14)



4－1．恩智2005-38(11)



4－1．恩智2005-38(12)

図版6

4-2.恩智2005-61第１区全景(南から)

4-2.恩智2005-61第２区全景(南から)

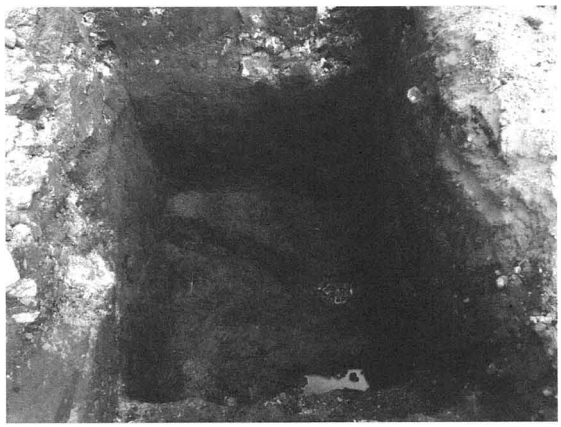
4-2.恩智2005-61第２区東壁(西から)

4-2.恩智2005-61(6)

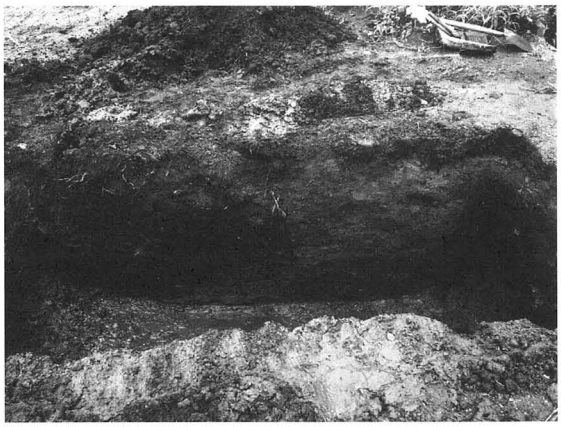
4-2.恩智2005-61(10)

4-2.恩智2005-61(4)

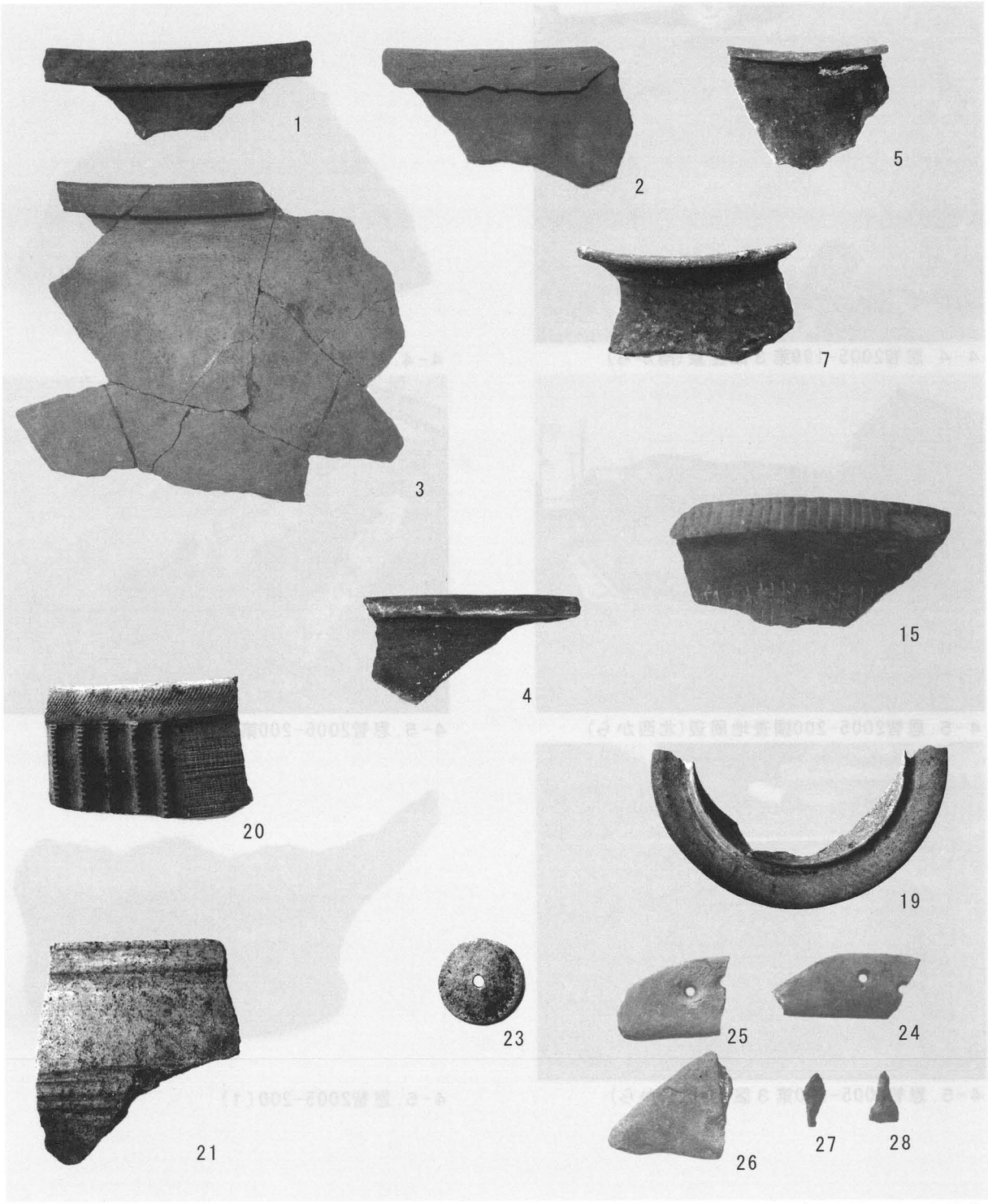
4-2.恩智2005-61(12)



4-3. 恩智2005-254第２区全景(西から)

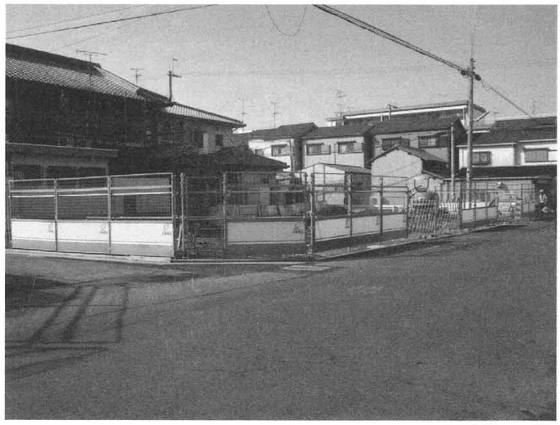


4-3. 恩智2005-254第４区東壁(西から)

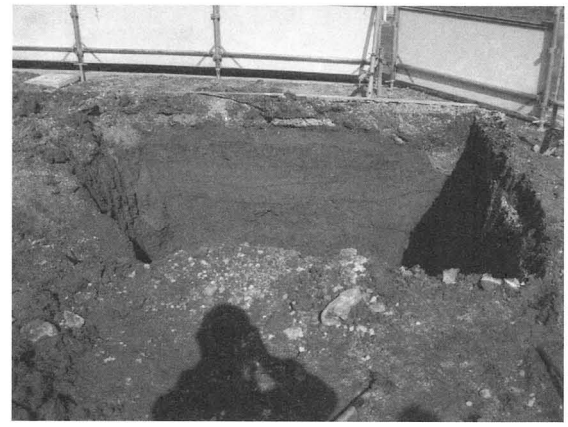


4-3. 恩智2005-25出土遺物

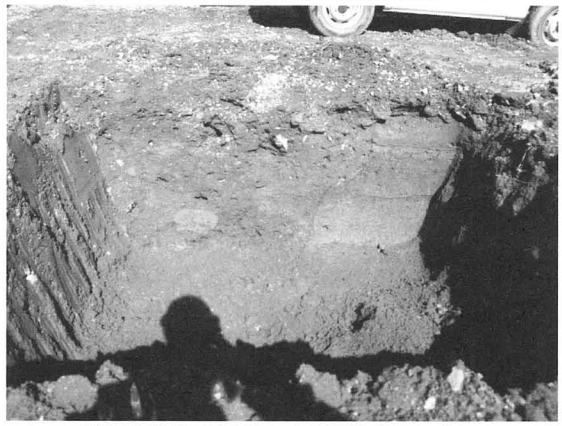
図版8



4-4. 恩智2005-199調査地周辺(北東から)



4-4. 恩智2005-199第1区全景(南から)



4-4. 恩智2005-199第3区全景(南から)

4-4. 恩智2005-199(1)

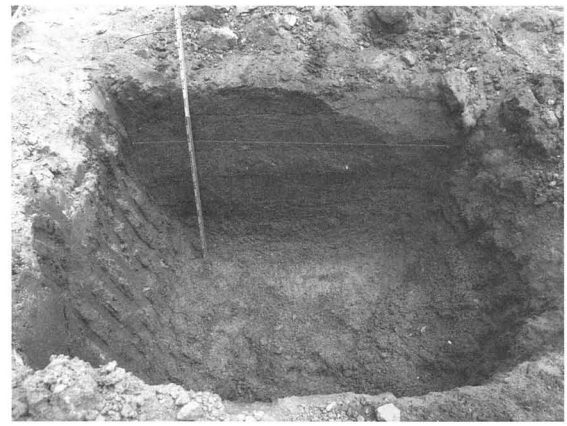
4-5. 恩智2005-200調査地周辺(北西から)

4-5. 恩智2005-200第1区全景(南西から)

4-5. 恩智2005-200第3区全景(西から)

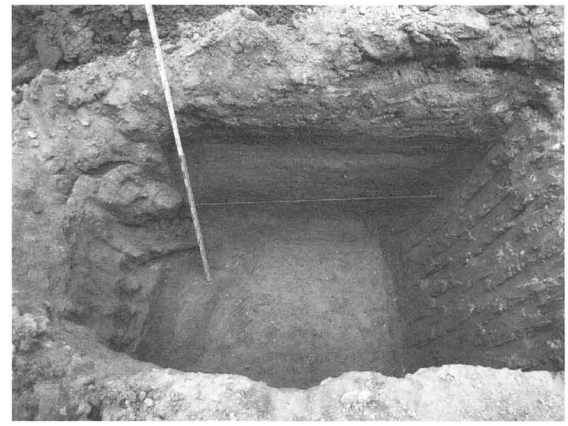
4-5. 恩智2005-200(1)

7-1.萱振2005-49調査地周辺(南西から)

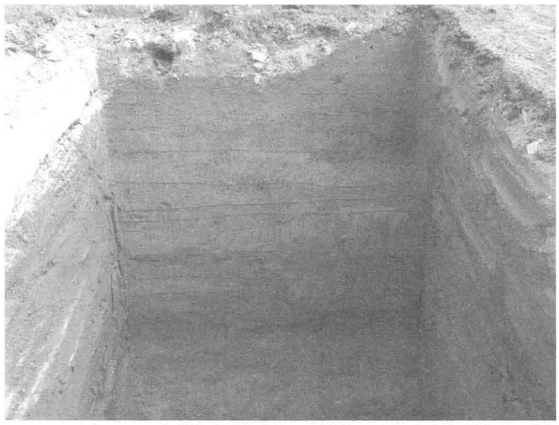


7-1.萱振2005-49第1区北壁(南から)

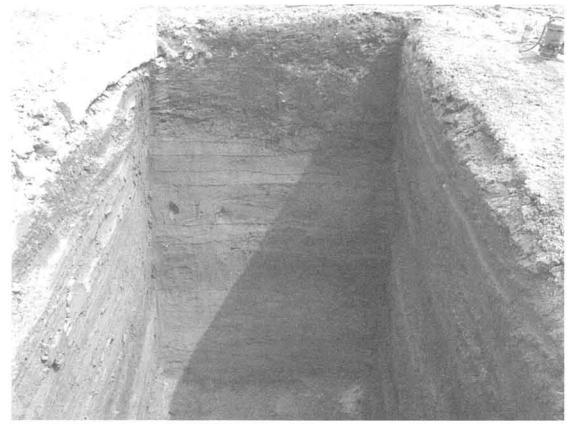
12-1.小阪合2005-44調査地周辺(南から)



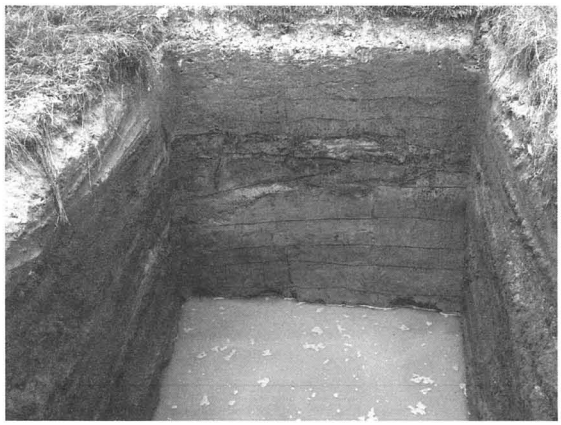
7-1.萱振2005-49第2区北壁(南から)



12-1.小阪合2005-44第1区南壁(北から)



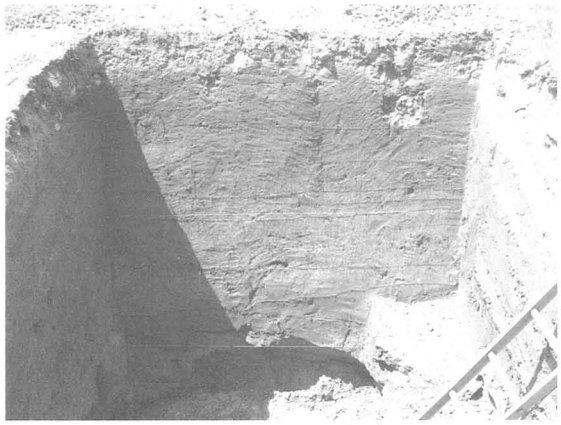
12-1.小阪合2005-44第2区南壁(北から)



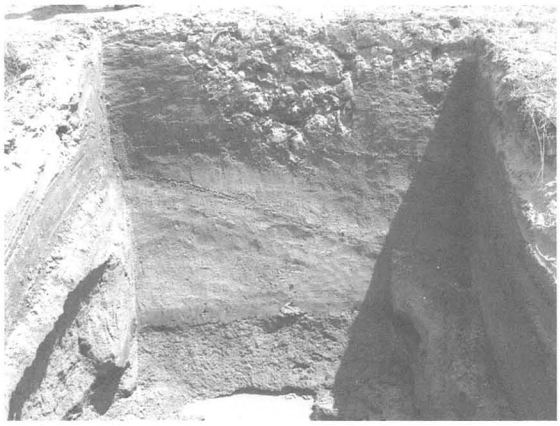
12-1.小阪合2005-44第3区北壁(南から)

12-1.小阪合2005-44第4区北壁(南から)

図版10



12-1.小阪合2005-44第５区南壁(北から)



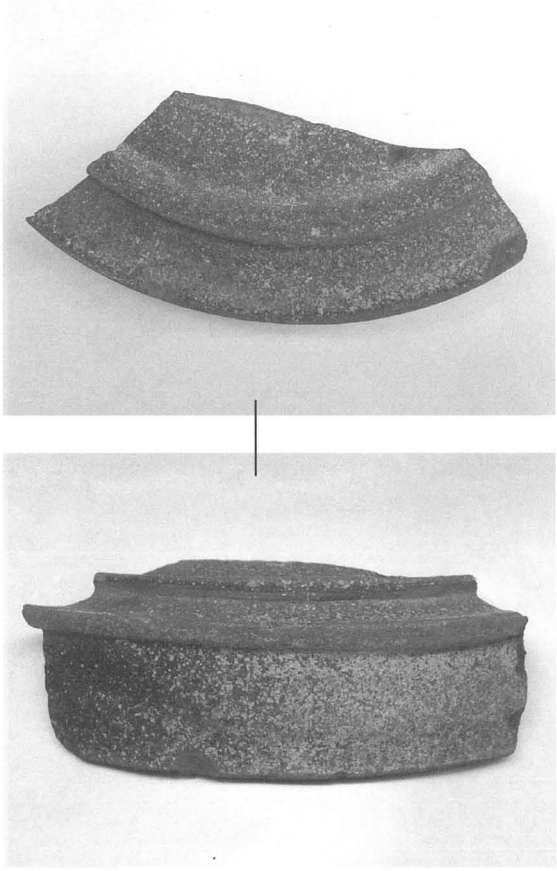
12-1.小阪合2005-44第６区南壁(北から)

12-1.小阪合2005-44第７区南壁(北から)

12-1.小阪合2005-44第８区北壁(南から)

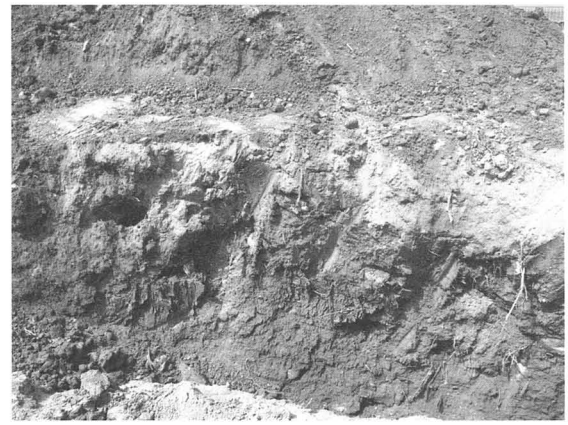
12-1.小阪合2005-44第９区南壁(北から)

12-1.小阪合2005-44第10区南壁(北から)



12-1.小阪合2005-44(1)

16-1.高安古墳群2004-211調査地周辺(北東から)

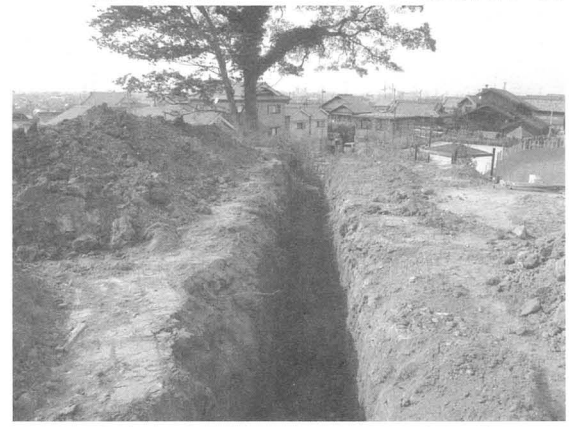


16-1.高安古墳群2004-211第１区南壁(北から)

16-1.高安古墳群2004-211第２区南壁(北から)

16-1.高安古墳群2004-211第３区南壁(北から)

16-1.高安古墳群2004-211第４-１区全景(西から)



16-1.高安古墳群2004-211第５区全景(南から)

16-1.高安古墳群2004-211第５区ＳＤ501(南から)

16-1.高安古墳群2004-211第５区西壁(東から)

図版12

16-1.高安古墳群2004-211第6-1区全景(東から)

16-1.高安古墳群2004-211第6-2区全景(南から)

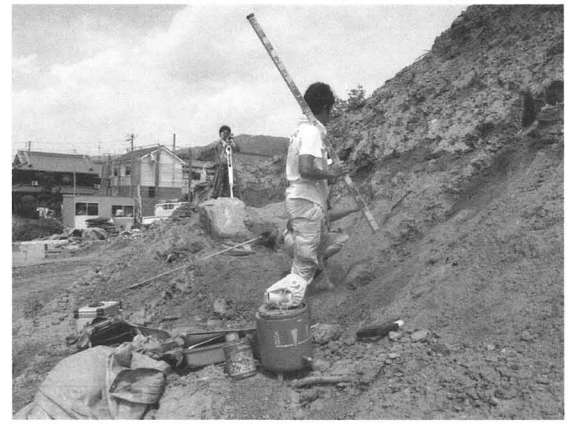
16-1.高安古墳群2004-211第6-2区全景(東から)

16-1.高安古墳群2004-211第6-2区羨道部分(北西から)

16-1.高安古墳群2004-211第6-2区調査状況(南から)

16-1.高安古墳群2004-211第6-2区調査状況(南西から)

16-1.高安古墳群2004-211第7区全景(南西から)



16-1.高安古墳群2004-211第7区調査状況(南から)

16-1.高安古墳群2004-211第７区石室(東から)

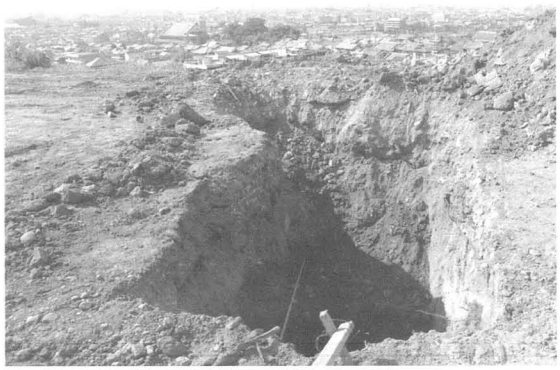
16-1.高安古墳群2004-211第７区石室(西から)

16-1.高安古墳群2004-211第７区東壁(西から)

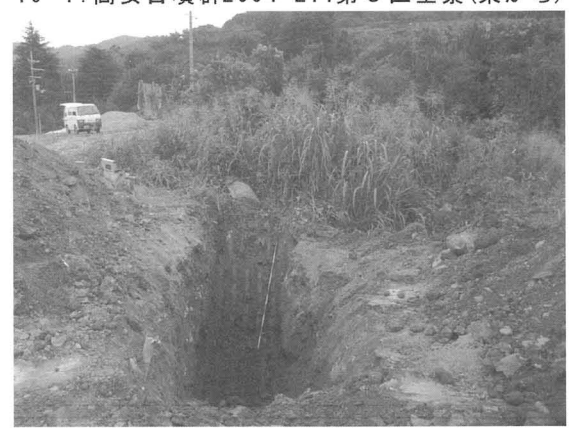
16-1.高安古墳群2004-211第７区石室(南から)

16-1.高安古墳群2004-211第８区全景(南から)

16-1.高安古墳群2004-211第９区全景(東から)



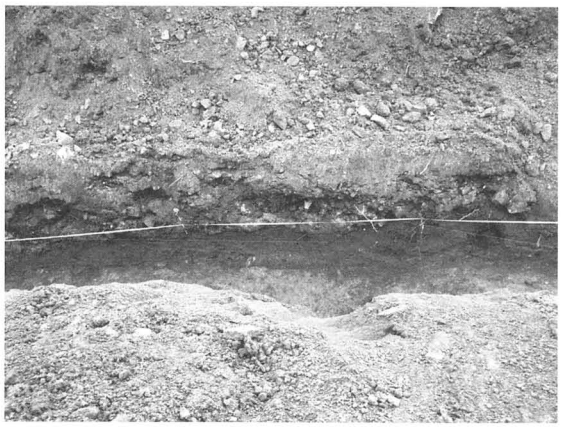
16-1.高安古墳群2004-211第10区全景(南から)



16-1.高安古墳群2004-211第11区全景(北から)

図版14

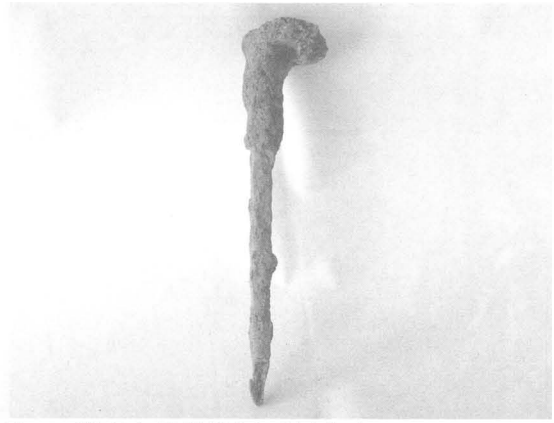
16-1.高安古墳群2004-211第12区全景(南から)



16-1.高安古墳群2004-211第12区東壁(西から)

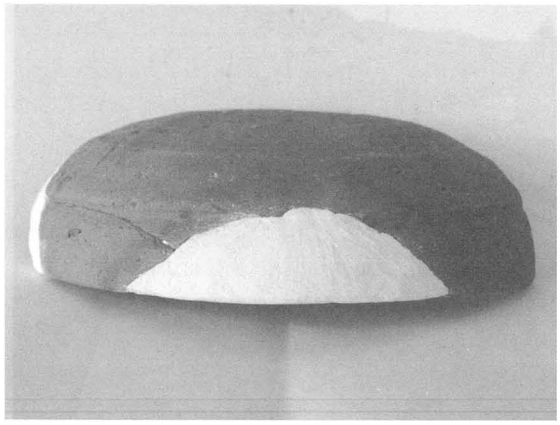
16-1.高安古墳群2004-211第13区全景(北から)

16-1.高安古墳群2004-211第13区調査状況(北西から)



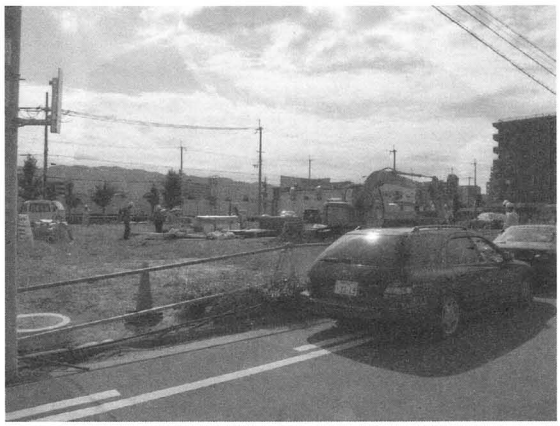
16-1.高安古墳群2004-211(2)

16-1.高安古墳群2004-211(7)



16-1.高安古墳群2004-211(8)

16-1.高安古墳群2004-211(13)



18-1.東郷2005-221調査地周辺(北西から)

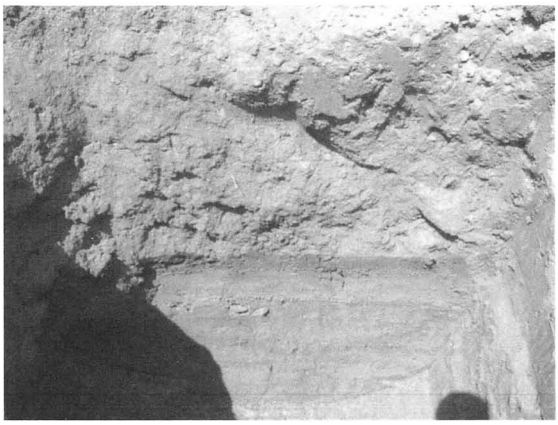
18-1.東郷2005-221第1区全景(南から)

18-1.東郷2005-221第2区全景(南から)

18-1.東郷2005-221第3区全景(南から)

19-1.中田2005-158　調査地周辺(北東から)

19-1.中田2005-158　全景(東から)



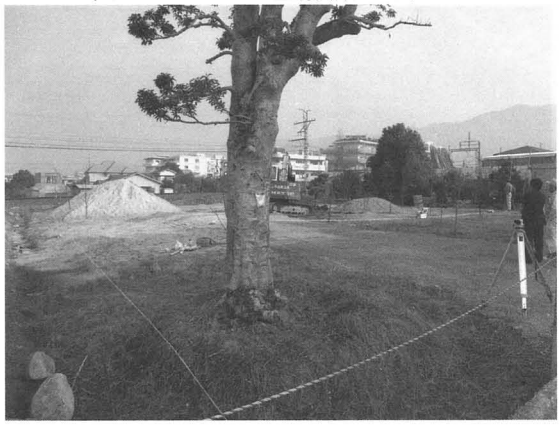
19-1.中田2005-158西壁(東から)

19-1.中田2005-158出土遺物(1)

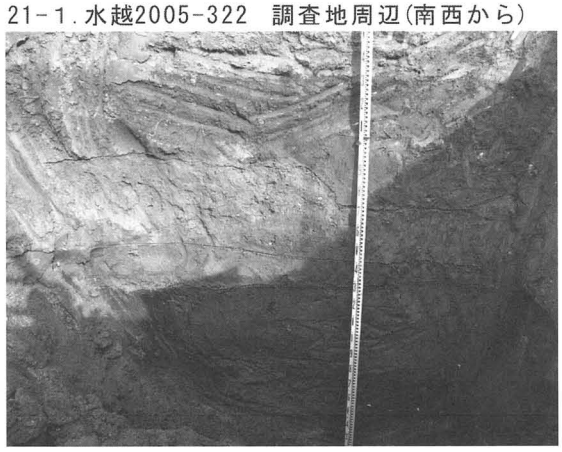
図版16

19-2.中田2005-332　調査地周辺(東から)

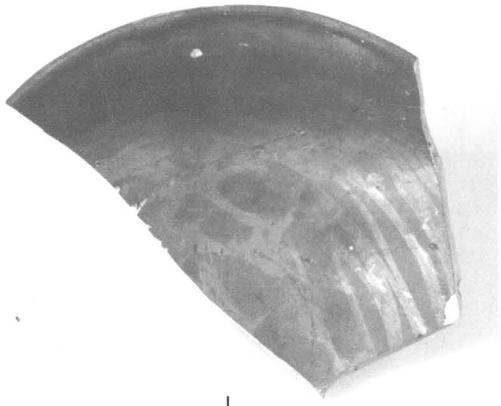
19-2.中田2005-332　全景(東から)



21-1.水越2005-322　調査地周辺(南西から)



21-1.水越2005-322　第1区北壁(南から)

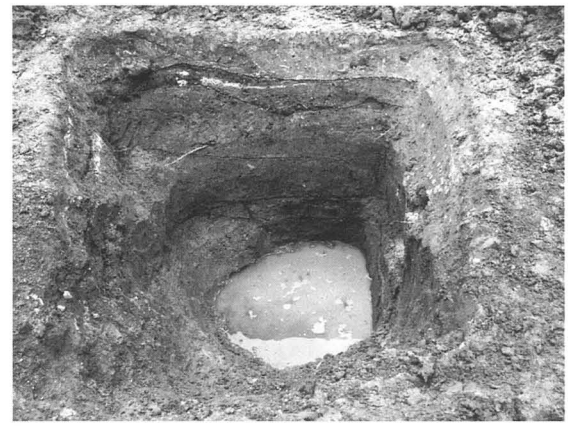


19-2.中田2005-332(1)

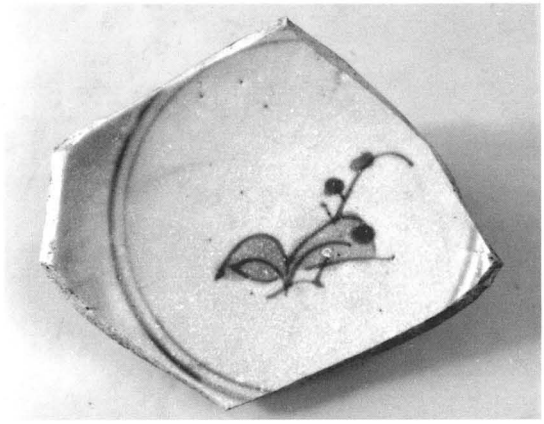
21-1.水越2005-322　第1区調査状況(南から)

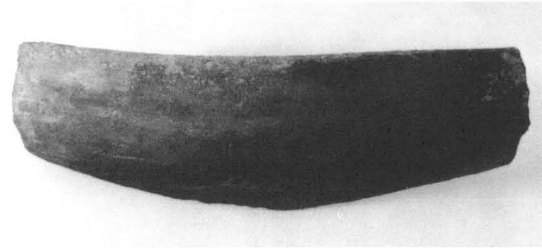
21-1.水越2005-322　第2区北壁(南から)

23-1.八尾寺内町2005-273調査地周辺(南西から)

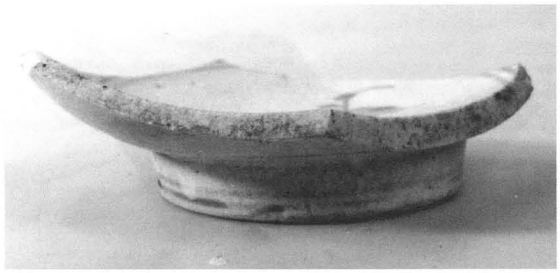


23-1.八尾寺内町2005-273西壁(東から)



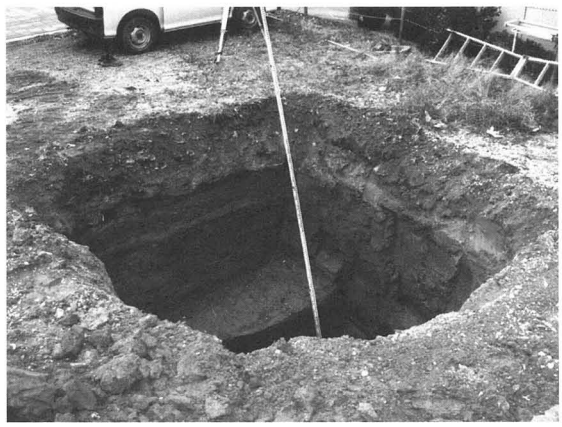


23-1.八尾寺内町2005-273(2)



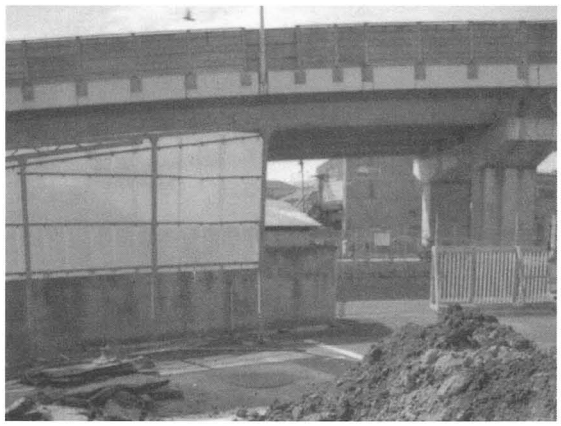
23-1.八尾寺内町2005-273(1)

23-1.八尾寺内町2005-273(3)

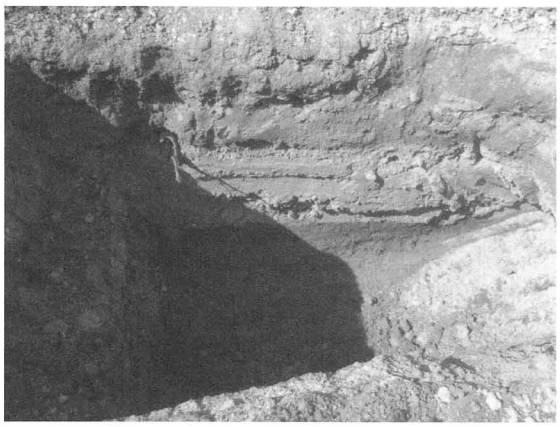


23-2.八尾寺内町2005-339第1区全景(北東から)

23-2.八尾寺内町2005-339第2区全景(北東から)



27-1.弓削2005-185調査地周辺(東から)



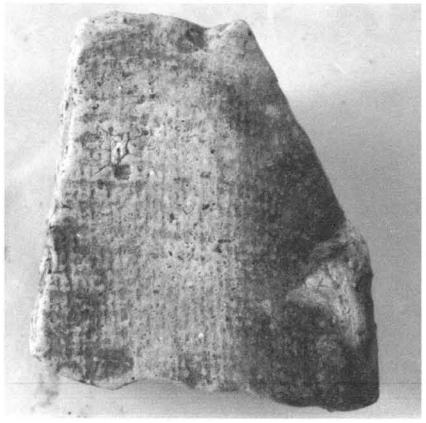
27-1.弓削2005-185第1区北壁(南から)

27-1.弓削2005-185第2区東壁(西から)

27-1.弓削2005-185第3区北壁(南から)

27-1.弓削2005-185第4区東壁(西から)

27-1.弓削2005-185(2)



27-1.弓削2005-185(4)

	報告書抄録
ふりがな	やおしないいせきへいせい１７ねんどはっくつちょうさほうこくしょ
書名	八尾市内遺跡平成１７年度発掘調査報告書
副書名	平成１７年度国庫補助事業
巻次	
シリーズ名	八尾市文化財調査報告
シリーズ番号	53
編著者名	高萩千秋　原田昌則　西村公助　坪田真一　岡田清一　樋口　薫　荒川和哉
編集機関	八尾市教育委員会
所在地	〒581-0003　大阪府八尾市本町１丁目１番１号　℡ 0729-24-8555
発行年月日	西暦 2006 年 3 月 31 日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″			
1. 東郷遺跡	八尾市光町２	27212	37	343746	1353632	20050111 ～ 19	336	店舗建設に伴う遺構確認調査
1-1. 跡部遺跡	八尾市跡部北の町３	27212	64	343702	1353511	20051222	12	店舗建設に伴う遺構確認調査
2-1. 植松遺跡	八尾市永畑町２	27212	63	343632	1353551	20050531・0608	42.48	店舗設に伴う遺構確認調査
4-1. 恩智遺跡	八尾市恩智中町２	27212	30	343620	1353753	20050520	8	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
4-2. 恩智遺跡	八尾市恩智中町２	27212	30	343623	1353754	20050728	8	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
4-3. 恩智遺跡	八尾市恩智中町２	27212	30	343622	1353754	20050927・28	16	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
4-4. 恩智遺跡	八尾市恩智中町２	27212	30	343625	1353751	20051107	20	長屋住宅建設に伴う遺構確認調査
4-5. 恩智遺跡	八尾市恩智中町２	27212	30	343625	1353752	20051107	16	長屋住宅建設に伴う遺構確認調査
7-1. 萱振遺跡	八尾市緑ヶ丘１	27212	65	343801	1353636	20050629	8	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
12-1. 小阪合遺跡	八尾市若草町１	27212	40	343724	1353646	20050603・06・07	90	病院建設に伴う遺構確認調査
16-1. 高安古墳群	八尾市黒谷４	27212	12	343647	1353829	20050729 ～ 0901	262	分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
18-1. 東郷遺跡	八尾市光町１	27212	37	343749	1353626	20050908	18.75	店舗建設に伴う遺構確認調査
19-1. 中田遺跡	八尾市八尾木北３	27212	28	343643	1353712	20050808	4	個人住宅建設に伴う遺構確認調査
19-2. 中田遺跡	八尾市八尾木北５	27212	28	343659	1353659	20051125	4	専用住宅建設に伴う遺構確認調査
21-1. 水越遺跡	八尾市服部川３	27212	42	343727	1353825	20051128	18	身体障害者療護施設建設に伴う遺構確認調査
23-1. 八尾寺内町	八尾市本町３	27212	80	343727	1353557	20051007	4	専用住宅建設に伴う遺構確認調査
23-2. 八尾寺内町	八尾市本町２	27212	80	343721	1353604	20051205	18	事務所付き共同住宅建設に伴う遺構確認調査
27-1. 弓削遺跡	八尾市志紀町南２	27212	71	343541	1353709	20050822	36	共同住宅建設に伴う遺構確認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
1. 東郷遺跡	集落	古墳時代前期	土坑	古式土師器	
1-1. 跡部遺跡	集落	古墳時代前期	-	古式土師器	
2-1. 植松遺跡	集落	奈良時代後半～平安時代前期	-	土師器	
4-1. 恩智遺跡	集落	弥生時代前期～中期	-	弥生土器・石器	
4-2. 恩智遺跡	集落	弥生時代中期	土坑	弥生土器・石器	
4-3. 恩智遺跡	集落	弥生時代中期～後期	土坑・溝	弥生土器・石器	
4-4. 恩智遺跡	集落	弥生時代前期	-	弥生土器	
4-5. 恩智遺跡	集落	弥生時代前期～中期	-	弥生土器	
7-1. 萱振遺跡	集落	古墳時代初頭～前期	溝	古式土師器	
12-1. 小阪合遺跡	集落	弥生時代前期～平安時代	河川	古式土師器・土師器・須恵器	
16-1. 高安古墳群	古墳	古墳時代後期	石室	土師器・須恵器・鉄製品	
18-1. 東郷遺跡	集落	古墳時代初頭	溝	古式土師器	
19-1. 中田遺跡	集落	弥生時代後期	-	弥生土器・土師器	
19-2. 中田遺跡	集落	鎌倉時代中期	-	土師器・瓦器	
21-1. 水越遺跡	集落	弥生時代後期	-	弥生土器	
23-1. 八尾寺内町	集落	江戸時代前期	井戸	国産陶磁器・屋瓦	
23-2. 八尾寺内町	集落	弥生時代後期～古墳時代前期	-	-	
27-1. 弓削遺跡	集落	弥生時代後期～奈良時代	溝	古式土師器・須恵器・鉄製品	

八尾市文化財調査報告 53
平成 17 年度国庫補助事業

八尾市内遺跡平成 17 年度発掘調査報告書

発行日　2006 年 3 月 31 日
編集・発行　八尾市教育委員会
〒 581 － 0003 八尾市本町 1 － 1 － 1
TEL 0729-24-8555（直通）

〈八尾市刊行物番号 H17-125〉